

圭陵会 平成23年10月

# 岩手医科大学歯学部同窓会

---

広報第26号

# 目次

## contents

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 巻頭言 .....                            | 2  |
| 感謝 .....                             | 3  |
| 東日本大震災への対応 .....                     | 4  |
| 各支部この10年の歩み .....                    | 16 |
| 平成22年度活動報告 .....                     | 34 |
| 第26回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会 報告 .....    | 37 |
| 第27回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会準備会 報告 ..... | 40 |
| 12校会長会議 .....                        | 42 |
| 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会 参加報告 .....       | 42 |
| 臨時12校会長懇談会参加報告 .....                 | 42 |
| 平成22年度 第39回学術研修会報告 .....             | 43 |
| 平成23年度 第40回学術研修会報告 .....             | 46 |
| 歯学部組織構成員名簿 .....                     | 52 |
| 平成22年度学位授与者一覧 .....                  | 55 |
| 第104回歯科医師国家試験 大学別合格者状況 .....         | 57 |
| 平成23年度編入・新入生名簿 .....                 | 58 |
| 大学役職員名簿 .....                        | 59 |
| 歯学部同窓会支部役員名簿 .....                   | 60 |
| 歯学部同窓会役員名簿 .....                     | 64 |
| 学術研修部員名簿・広報部員名簿 .....                | 65 |
| お知らせ .....                           | 66 |
| 編集後記 .....                           | 66 |

# 巻 頭 言



岩手医科大圭陵会歯学部同窓会

会長 城 茂 治

(7期卒)

岩手医科大学歯学部同窓会の先生方には、日頃から同窓会運営にご支援いただき、感謝申し上げます。

3月11日の地震発生以来、東日本大震災の被災地ではまだまだ復旧が進まず、現在も困難な生活を強いられているのが現状です。私共も4名の同窓会員を失い、さらに現在も地震、津波そして福島原発事故で避難生活を余儀なくされている会員、家族が多数おられます。心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。被災会員支援の一環として、圭陵会を中心に義援金の募金を行って参りましたが、多くの会員あるいは同窓会支部から多大な支援をいただきましたので被災された会員（準会員も含む）へ送らせていただきました。同窓会としては、今後も中長期的な支援策も検討しながら本会の運営にあたりたいと考えております。

今年は、歯学部同窓会創立40周年の年にあたります。このような状況ですので特別な事業は企画しておりませんが、同窓会誌を40周年記念誌と位置づけ、各支部からの便りをいただいたと聞いております。今後も、各支部のますますの発展を本部としても支援していきたいと改めて決意しております。

新しい執行部になってから、当初挙げておりました基本方針、

1. 同窓会活動の見直し（各部活動の在り方について再検討）
2. 学術活動の充実
3. 各支部との連携（連絡）強化（HPの充実を含む）
4. 若い会員の同窓会参画促進
5. 大学歯学部への支援強化

については達成未だ遠しですが、今後もさらに皆様のご支援をいただきながら実現に向け、進めて行きたいと思っております。

特に今回の震災にあたり、情報収集、情報の開示、連絡など役員メーリングリスト、ホームページ

が大変有効に活用できました。まだまだ十分ではありませんが、今後も一層の充実を図り、会員へのホットな情報を発信し、支部との連携をさらに強化したいと考えております。

本会活動の目玉でもあります学術活動については、震災の影響にも屈せず継続できたことは意義のあることであったと考えております。さらに多くの会員が参加できるように学術研修部ともども努力していく所存です。

一方では、ここ数年来、全国の歯学部受験生の数が減少傾向にあり、我が岩手医科大学歯学部も地方大学として大変厳しい状況に立たされております。これまで以上に同窓会員の子弟の入学、編入学などを同窓会としてもお願いしたいと思います。

現在、学長、歯学部長を中心に歯学部再生をかけた改革プロジェクトが進められております。同窓会としても次の50周年に向け、この改革に協力できる所は会員の先生方とも相談しながら全面的に協力したいと考えております。そして、岩手医科大学歯学部同窓会がさらに発展すべく、会員一人ひとりがその存在意義を認識できるような同窓会になるよう努める所存です。会員の皆様には、これまで以上のご支援、ご指導のほどお願い申し上げます。



## 感謝



岩手医科大学名誉教授 石橋 寛二

はじめに、未曾有の大震災に被災された歯学部同窓会の諸先生ならびにご家族の方々に心からお見舞い申し上げます。復興への道は長く、険しいものがありますが、歯科医療を通じて社会に果たす役割の大きさを信じております。

私はこの3月で大学を満期卒業致しました。1980年（昭和55年）4月1日に篠田 紘理事長から歯科補綴学第二講座（現歯科補綴学講座冠橋義歯補綴学分野）教授の辞令をいただいてから31年の歳月が流れました。この間、歯学部同窓会の先生方には温かいご支援、ご指導をいただき厚く感謝申し上げます。

教授として講座を担当しましたのは1980年からですが、クラウンブリッジの講義担当者が不在ということで前年の2月に助教授として赴任しました。従って教育面では、1979年（昭和54年）度第6学年（第10期生）臨床実習と第4学年（12期生）クラウンブリッジの講義・実習を担当したのが始まりです。素直で、明るく、理解力に富む学生諸君に、私の若さと拙さをぶつける毎日だったように思います。

歯学部同窓会の諸先生と特に親しく接するようになりしたのは、私が歯学部附属病院長に就任した1992年（平成4年）からだったと思います。以来12年間にわたって力強いご協力をいただいて附属病院の事業を展開することが出来ました。歯学部附属病院の使命として、①歯科医師を育成する、歯科医師の卒後臨床研修ならびに歯科衛生士・歯科技工士の臨床実習を担う、②高度先進の歯科医療を担う、③広域における歯科医療のセンターとしての機能を持つ、ことを宣言しました。初期には、箱崎守男先生にご指導いただきながら城 茂治先生と共に汗を流した岩手県補助事業としての障害者歯科診療センターの設置があります。そして、同窓会、歯科医師会のサポートを推進力として歯学部附属病院としてのアイデンティティーを確立していったのです。中央

システムとしての口腔インプラント室、病診連携を促進するために実施した岩手県・青森県・秋田県歯科医師会との公開セミナー、口腔保健の向上に役立ちたいとの思いで始めた歯の衛生週間健康イベント、高度先進医療機関として厚生労働省から承認を得た顎顔面補綴治療、健康管理の支援を目指した歯科ドッグなど、懐かしく思い出されます。

学外活動の重要な一つに学術大会がありますが、その開催は講座の対外活動を推進し、人的交流を促進することに連なります。私どもの講座が主催した日本補綴歯科学会、日本補綴歯科学会東北・北海道支部学会、日本顎顔面補綴学会、日本歯科心身医学会、日本歯科医療管理学会、日本スポーツ歯科医学会、日本顎口腔機能学会、日本磁気歯科学会、日本歯科審美学会へご支援、ご参加下さり、盛り上げていただきました。

同窓会諸先生との思い出はまだ続きます。同窓会各支部会で講演の機会をいただき、各支部の先生方と語る楽しい時間を持つことができました。その他、病院長として、日本歯科医師会生涯研修セミナー講師として、各歯科医師会学術講演会講師として赴いた時にも同窓会の先生方が温かく迎えて下さったことを忘れません。

創立から46年の伝統を誇る岩手医科大学歯学部にあっては、歯学部同窓会との太い協力体制のもとで進めなければ何事も成し得ないと思うのです。この太い協力体制とは、時に応じて互いに発する苦い言葉があつてこそ保たれるものでしょう。

岩手医科大学で多くの素晴らしい人々に恵まれて、楽しい時代を過ごすことができました。長い間ご支援、ご指導いただきましたことに重ねてお礼申し上げますと共に、同窓会の益々のご発展を祈念申し上げます。

# 【東日本大震災への対応】

## ■ 本部同窓会 ■

### 東日本大震災に伴う同窓会本部の対応

城 茂 治 (7期)

- 東日本大震災発生後における対応等
    - 震災直後より各地からの問い合わせ・激励を頂き、対応した。
    - 会員の安否確認、情報収集に努め、順次ホームページに掲載した。
    - 歯学部同窓会の諸会議の延期を決定し、その後順次会議の日程を調整・設定した。
    - 圭陵会の義援金募集に協力すると共に同窓会口義援金の募集を行った。
    - 第40回学術研修会を開催し、参加費を同窓会口義援金とした。
    - 詳細な被災状況について把握作業を行い、その結果に基づき第1回目の義援金を支給した。
    - 同窓会評議員会・総会にて特別会計より義援金として支出し、第2回目の支給を検討することとした。
    - 被災会員の就業支援をHPを利用して行う。
  - 会員の被災状況 (平成23年7月21日現在)
    - 逝去された方 (歯学部4名, 医学部5名, 計9名)
      - 歯2期 村上 徳行 先生 (岩手県支部)
      - 歯6期 黒沢 恒平 先生 (福島県支部)
      - 歯10期 佐伯 厚夫 先生 (岩手県支部)
      - 歯24期 高間木祐一 先生 (宮城県支部)
    - 診療所・住居等の被災状況 (原発被害含む)
      - 同窓会会員
        - 全壊 (含退避者) 50名
        - 半壊者 28名
        - 一部損壊 254名 計332名
        - (参) 圭陵会会員 (含医歯学部同窓会員)
        - 全壊 (同) 82名
        - 半壊 73名
        - 一部損壊 368名 計523名
      - 同窓会準会員 (学部学生)
        - 保護者死亡 1名
        - 実家が全壊・半壊 12名 計13名
        - (参) 圭陵会準会員 (含医歯薬学部学生)
- 保護者死亡 3名
- 実家が全壊・半壊 56名 計59名。
- 被災同窓会会員
  - 総計1) + 2) 349名
  - (参) 被災圭陵会会員 総計592名
- 同窓会東日本大震災義援金について
  - 圭陵会支部および個人からの義援金は圭陵会口
  - に、歯学部同窓会支部からの義援金は同窓会口への入金とした。
  - 1) 義援金の募金状況 (平成23年7月12日現在) 22支部 9,898,182円
  - 2) 8月中旬までに第1回目の義援金を支給した。
- 同窓会東日本大震災義援金の配分について
  - 義援金総額 9,898,182円
  - 1) 義援金配分
    - 圭陵会口の義援金は、全被災者に配分されたので、同窓会口については診療できない、自宅に住めないなどの会員に重点配分された。
  - (1) 配分内容
    - 死亡 4名 1人当たり20万円 計80万円
    - 診療できない員 45名 1人当たり15万円 計675万円
    - 自宅全壊 5名 1人当たり9万円 計45万円
    - 診療所半壊 18名 1人当たり6万円 計108万円
    - 自宅半壊 10名 1人当たり3万円 計30万円
    - 計82名 938万円
  - (2) 同窓会準会員 (学部学生)
    - 保護者 (両親) 死亡 1名 1人当たり4万円 計4万円
    - 全壊・半壊 12名 1人当たり2万円 計24万円
    - 計15名 28万円
  - (3) 義援金配分総額 (1) + 2)) 95名, 966万円
- 今後の活動について
  - 今後も義援金の募集を継続し、さらに特別会計より育成基金の取り崩しを行って支援を継続する。さらに、復旧に長期を要することから同窓会本部として会員の動向を的確に把握し、行え得る支援を行う。

## ■ 道央支部 ■

### 東日本大震災の避難所歯科支援を経験して思う事

高松隆常 (2期)

演者は1993年の北海道奥尻島沖の地震の後方支援に携わり、メガネと入れ歯の紛失が、「見えない」と「咬めない」につながることを感じた。

以来、入れ歯をより早く快適にセットするため、(訪問)診療の流れや技工に工夫をしてきた。

FD:旧義歯のコピーをする コピーで咬合 粘膜調整 印象とBT 試適 完成 コピーは商品名 zetalaborでシリコン印象 使用量は上下毎にFDのサイズによって2種 レジン流し込みの蓋を作るまで15分 コツ:キャタリストの量 混和 FDの圧接 zetalaborの変形防止形

粘膜調整材から石膏模型 石膏模型トリミング 石膏模型に旧義歯を付けたまま咬合器にマウント

旧義歯を外して作業模型として配列 試適

アンダーカットは0.2mmとし、サーベラインを辺縁外形として、配列した蠟提に注入口と排出口を付けた後zetalaborでコア作成 蠟提除去後コアに人工歯挿入 流し込みレジン注入 50℃waterbass 20分2気圧で重合 コツ:アンダーカット リリーフはサーベヤーど確認しながら行う コアの変形防止に咬合面と今頬舌面のzetalaborの厚みを保持する zetalaborの未重合と気泡対処にwax処理剤でコーティングする 注入前に作業模型にマルチコートとワセリンでコーティング

コアと注入排出口を切断後 咬合器に戻して咬合調整 12μ咬合紙

模型から取り出し バリ除去 レジンの巣などを修正 中・仕上げ研磨 水中保存

訪問先では旧義歯コピーで次回 外来では旧義歯印象と蓋作りの時間を待つか用足して再来院とする 朝預かり昼食前お返し

PD:旧義歯を修正したり使いながら、個人トレー用印象

模型でレスト座 ガイドプレーン 咬合状態確認 個人トレーは 副模型印象にも使うため アンダカットが無いようにリリーフする

通常印象後 模型のリリーフ後個人トレーでアルギ

ン酸で印象するアルフレックスの水混和で2割り増し

クリストバライトインベシメントで副模型作成 乾燥 石膏注入1時間後副模型取り出し 50℃ホットプレートで乾燥

常温になり次第waxupクリストバライトインベシメントで埋没 2気圧1時間乾燥後

200℃まで30分かけた後 712℃30分繫留 キャスパックで铸造 (12%金パラ) 焼入れ 焼きなまし後調整後クラスプとバーのついた咬合床を作る 口腔内でBT確認調整 前歯はシェード合わせ 次回PDセット

口腔内でBT後 咬合器にマウント バークラスプ付の咬合床を利用して 配列 試適 BT歳確認 アンダーカットはFD同様0.2mmとし その他はリリーフして 歯肉形成 PD部をzetalaborでコア作成、蠟提除去後コアに人工歯挿入 流し込みレジン注入 50℃waterbass 20分2気圧で重合 咬合器に戻して 調整後 水中保存

コツ:FDと同様であるが、歯の傾斜 捻転、歯脱着方向に注意しながらのリリーフする 動揺歯は外傷性咬合や矯正力にならないように臨床上 咬合痛が無いことを確認して 使いながらクラスプ抜歯にならないよう修正する。

訪問診療は患者の全身状態や口腔内を確認するのが比較的容易である。

避難所では問診・現症の他 お薬手帳 処方箋 主治医との連絡が難しいので、細心の注意が必要である。

Drが受付・衛生士・歯科助手の兼務が必要であったため、1チーム3名Dr間で兼担した。

避難所の治療内容は 非観血的処置がほとんどであった。

避難所の室温はまちまちで、血圧変動による症状悪化への考慮が必要と感じた。

Drも避難所の底冷えの中で治療した。靴下2枚 股引 内履きは暖かいものがおすすめです。

誰もが安静がなく起床時のない状態にいると感じました。

畳敷きの避難所もありましたが、大体コンクリートか木材の床に防水シート敷き掛け布団毛布でした。

1月以上同じ布団です。衣食住のどれも不足のままでした。一時的な場の状態が避難です、行政が非難されて当然と感じました。

口腔疾患については、治療したなかでは、義歯修理が多かった。人工歯破損 脱離 紛失床破損 クラスプハセツ 鈎歯ハセツ dull の他 口内炎 残根周囲炎 P挺出 P急発 急化per 歯肉炎 辺縁性歯周炎などでした。

相談では、義歯ブラシは無いので清掃していない 義歯洗浄剤が無い 義歯保存の容器が無い 支給されたハブラシの使い方 歯磨剤が無い 矯正 避難所では自由にお菓子が食べれるので子のむし歯が心配です

症例 義歯修理

指定の宿泊所から対策本部まで2時間半

本部から避難所まで最短30分

避難所で我々を受け入れて治療道具等搬入に最短15分

患者さんの掘り起こしに15分

治療に1時間

撤収に15分

Drは治療 TBIとモチベーションと準備と片付け 消毒 カルテ記入

アシストDrは 口腔内を照らす 器材や代用材の準備 切削片片付け エアブロー等々

Drの治療の流れを読みながら アシストをします 看護師さん等手伝いが有り難かった 水 お湯の運搬 取替 廃棄

水場が遠い、数が少ない100名に4箇所など

歯の切削もストレート バー類も兼用

バーの洗浄消毒は アルコール ヒビテン浸漬 滅菌不可能

ピンセット ミラー 探針 ポケットブローベ レジン用筆

手袋にマスク コップ トレー等ディスポを使うが 三俣 2号 ヤング鉗子などディスポは無い

ディスポや材料は医療廃棄物として持ち帰りです。

自己完結 管理が原則。

レジンモノマーは樹脂製容器で運搬

ポイマーは小出しに出せる容器でモマーの揮発で重合しない開口部

レジンを使い慣れたものが良い。口腔内で残った歯のアンダーカットがある場合外すタイミングの違いで義歯が取れなくなりました。除去後やり直しとなり迷惑をかけました。Drのアドバイスに助けられました。

ガラス製品は破損の危険性が高く 重いのでできるだけ避けたい。

揮発成分でしたが没収されませんでした。

札幌混成チーム 岩手医大2名 大歯1名、荷物の総重量は100kg超でした。

被災地支援のことから飛行機の重量超過料金は発生しませんでした。

今回の北海道支援チームには 3名の同窓生が参加しテシェアー33%でした。

68歳最高齢 私が2番でした。

函館からはワゴン車に入れ歯box 義歯洗浄剤 歯磨剤 修理器材を積んできました。

ボランティアが持参した器材のすべて、移動や宿泊費も自己負担です。太っ腹です！！

1週後診療再会して患者さんからの感謝の言葉が重く感じました。

協力スタッフ・家族に感謝です。

道央支部から慰労金として頂いた貳万円はとても嬉しく思いました。

持参したデジカメが修理不能となりました、防水防塵カメラの購入に充てさせて頂きました。

老眼のため2倍の拡大鏡が離せないほか腰のサポーターや介の介に貼る湿布テープやコムラ返しに効く芍薬肝草湯 登山用ヘッドライト 手袋 股引 ホッコイロ リュック ダウン カッパ 非常食など山行装備が役立ちました。

後日陸前高田と大槌へは、バスで移動しました。

1期の箱崎守男先輩の情報とアドバイスがとても役に立ちました。

限られた時間を有効に使うために必要です。公開しても良いならば携帯で見れます。

今回は、日本歯科医師会のボランティアとして(4月18—23日)、気仙沼の避難所歯科診療(支援)を行った。その結果、自身の(訪問)診療とに違い

があったので、現状と工夫点を報告し、これからの診療支援に役立てたいと考えている。

(支援)

自己完結・管理

移動 機動力 ガス 飲食 排泄 宿

患者さんの掘り起こし 個人装備 身分証明 雨風

雪暑さ対策

診療器材 慣れて応用の効く器具 器材

レジンは単色 ディスポ筆グローブ 拡大鏡 ヘッド

ランプ 薬剤

(訪問で考えられない点)

ガソリン ナビ 昼食入手 移動中食事

避難所の下水とトイレの数

職種がわかる 底冷え 雨あられ

複数回の梱包荷解き 軽い壊れぬ ビンは禁

滅菌困難 消毒 廃棄物扱い

全身状態情報 レントゲン

喜ばれ点 入れ歯box 義歯洗浄剤 歯磨剤 P急

発 修理 咬調 小児カリエス矯正相談

啓蒙点 お口クリーニングに水要らず よく咬み笑

えばお口快適

積極的に自ら技工を行い



人気小児歯科9期



筆者と90才



真剣に治療16期



## ■ 宮城県支部 ■

### 東日本大震災を経験して

杉 山 豊 (18期)

平成23年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の巨大地震が日本列島の東半分を襲った。揺れは大きくそして異様に長かった。宮城県は地震直後からほぼ全域にわたり停電となり、診療を続けることができる状態ではなかった。3月も半ばだというのに雪にも見舞われ、大変な1日だなと感じていた。

停電のためラジオからの情報に頼るといのは、1978年の宮城県沖地震以来であったが、今回の地震の規模の大きさが半端でないことを知ったのも「巨大津波によって若林区で200~300体の遺体が見つかった」というニュースをそのラジオで聞いた時だった。とにかく沿岸部は津波に襲われ大変な状況だと知り、ケータイで連絡を取るもほとんどつながらないことを誰もが経験した。

岩手医大歯学部同窓会宮城県支部（圭歯会）には会員の誰もが参加できるメーリングリストがあるが、地震後初めての投稿は13日の午前0時過ぎ、電気の復旧の早かった長谷副会長からのメールだった。その後誰からともなく「私は無事、皆さん頑張ろう」といったメールが飛び交っていった。地震から5日後の16日からは各学年ごとの代表者に各期の安否情報を依頼し、随時メーリングリスト上に挙げてもらうことで、お互いの無事を確認し合っていた。その後安否確認だけで200件以上の投稿があった。

そんな折、地震から9日後の3月20日、行方不明だった24期の高間木祐一先生の御遺体が見つかったとお知らせがあった。白衣姿のままだったと聞かされた。幼い2人のお子さんを残し、さぞや無念であったろうことを思うと、本当に心が痛む…また奥さまや御両親を亡くされた会員もいて、いたたまれない気持ちになった…

3月26日には圭歯会勉強会、並びに総会が予定されていたが、震災の影響があまりにも大きいというえ、歯科医師会館の損壊が大きく使用不可能であったため、開催を見合わせようかという意見もあったが、

今後の対策を立てること、高間木先生のご冥福をお祈りすることもあり、村上会長のもと、急遽別会場で総会のみおこなった。

震災2日目より御遺体の身元確認のため、多くの会員が検視活動をおこなった。年端も行かぬ幼いお子さんの口腔内を涙ながらに記録を取った会員も少なくなかった。また、医療班として避難所を中心に1次医療を行う会員、全国から集まる支援物資の仕分け作業をする会員など、医療人としてボランティア活動も行ってきた。さらには自ら被災地に出向き診療所や家の片づけを手伝ったり、被災者を励ますべく連絡を取り続けたりと、それぞれが他人のために必死にサポートをするという、まさに絆が深まる2ヶ月間でもあった。

地震や津波によって家族を失った会員にはもちろんのこと、大きな被害を被った会員の一助にと、4月半ばより共済金の支給を開始した。気仙沼の猪苗代先生（1期）におかれては、津波によって閉院を余議なくされたにも関わらず、地域住民のため必死に救護活動を行っており、損害額から見たらわずかばかりの共済金であるにも関わらず、「共済金をいただき涙が出るほどうれしかった」と話されていたという。還暦を過ぎて今回の震災を経験して、診療を再開するかどうか迷ったが、地域のために自分のできることは歯科医療しかないと思い、1日も早く復旧するようにがんばるとの礼状をくださった先輩もおられた。

同窓会として円熟味を増した圭歯会ではあるが、歯科医師会との連携、他の同窓会とのパイプも太く、同窓会の垣根を越えた結びつきも多くみられたように思う。ともに笑いと悲しみを分かち合う、そんな当たり前のことを今回の震災で改めて感じたのは私だけではないと思う。大震災でお亡くなりになった方には心からご冥福をお祈りするとともに、歯科医療人としてなお一層地域医療を通して、明るい未来を築き上げていきたいと強く感じた。「ひとつになろう 日本」

# 猪苗代 盛昭先生(1期)への インタビュー

■平成23年5月19日(木) 気仙沼高校にて

猪苗代先生には大変お忙しい中、またすぐ上のお義姉様と甥御様が行方不明というご心痛の状況で会報の取材をお受けいただき、感謝申し上げます。

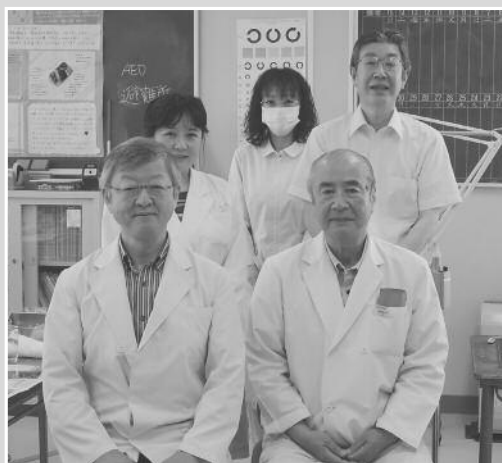
当日は高校の健診中ということで、ご同行いただいた長谷剛史先生と佐々木祐子先生に無理矢理お手伝いをお願いし、その後保健室にて取材いたしました。

その後、先生がコーディネートしている歯科用品の集積拠点であるボランティアセンターを見学させていただきました。

日歯からの派遣では皆さんよくやってくれた中で、岩手の2期と15期の先生が所属している北海道チームがすばらしかったのと、長野県も15期の先生が来てくれて、同窓の有難みを感じたそうです。

帰路は先生からのお勧めで45号線を通りましたが、2ヶ月以上経つのに大谷海岸周辺の360度瓦礫のパノラマには絶句し、写真を撮ることができませんでした。

(大山 治(11期) 記)



## 3月11日当日は？

「いやその前に、圭歯会からの共済金が本当に有難かった。会のみんなに、ありがとうと伝えておいてください。涙が出るほど嬉しかったっ。

「あの時は診療中で、90歳男性の咬合採得だったかな。病院の2階が歯科なんだけど、避難のアナウンスがあって患者さんをおぶって1階の中庭まで降りたんだ。体重80kgの方で腰を悪くしたよ。津波は全く考えなかった、チリ地震の時は足首くらいまでしか来なかったんでね。

2階にもどったら、防災無線と院内放送で津

波警報だというんで、職員総出で入院患者さんを5階まで運んで、そこから裏山の紫神社に渡り廊下を通過して避難したんだ。5階からの避難通路を造っておいた親父は偉かったな。

病院と隣のビルの狭い隙間から真っ黒な津波と真っ黒い煙、車とかいろんなものが流れ込んできたのに眼を疑ったよ。今回は、津波の恐ろしさを身をもって感じました。」

## 翌日からは？

「市民会館が避難所だったけど、弟の官舎があったんで3日間、母親を避難させました。水道と電気は47日間通じなかったし、最初は自

衛隊から1日におにぎり1個だった。

それより、鹿折の老健施設が大変で3日間つきっきりだった。100人中57人亡くなって、職員は全員無事だったが、避難所で寒さに震える入所者のために毛布を買いにいったら1枚1万円！でも、しょうがないから17枚買ってきましたよ。

いずれこのひどい店のことはどこかで公表するから。車はたまたま息子が使っていて助かったんだけど、他の兄弟の車は全部流されて、俺が長靴とかドリンク1箱1万円とかを内陸部に買いに行っていました。」

### ご自宅は？

「3日間、自宅のことは全く頭になかった。3日目に会った女房は高台から火事の地獄絵図を見てたそうだ、悪かった。4日目に孫に会いたいというので、仙台の長町まで連れて行ったよ。すぐに戻るため、俺は会わなかったけど。

自宅を流されなかったのが一番だ、家を流された人は可哀そうだ。料理は、父親の残した信楽焼のでかい火鉢と石油ストーブでやってた。」

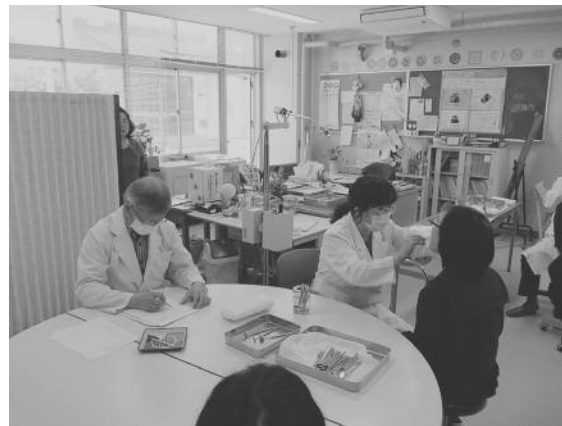
### 外部との通信は？

「避難者センターの10円電話で遠藤憲正君に連絡したのが最初かな。D酔会ってというのがあったが、2期の山中君が色々なものを送ってくれて有難かった。普段は年賀状のやり取りだけだったが、学生時代に仲良しだったので余計感激した。

早坂君には18日に一関に出たとき、たまたま手帖見て電話したんだな。今は女房から携帯持たされてるんだ。」

### ボランティアセンターは？

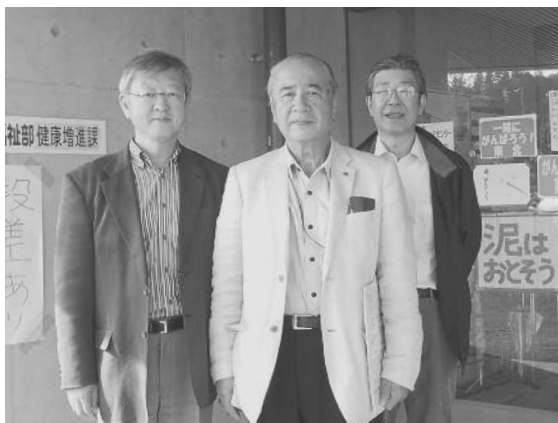
「4月21日からコーディネーターやってるが、それまでは歯科のことは全然考えてなかった。すぐ上の外科の兄の奥さんと息子が行方不明で、ずっと探して、1週間後からは遺体安置所めぐりだったよ。義姉さんの着ていた服が思い出せ



ないんだよ、なぜか。会議と一緒にいて見ていたはずなんだが。

日歯からの派遣チームは各県から来たよ。中には、来てやったみたいなのがいる、おかしいと思ったよ。サホライドとか義歯安定剤なんか意外に必要なだった。

でも地元がオープンし始めてからは、どこで止めるか、かつ後処置を地元歯科医師会がしっかりやれるようにすることが大切だと思うよ。」



### 今後は？

「仏教書をずっと読んでた。歯科は廃院にしたよ、再開してくれという人も多かったけど、患者さんも10数人亡くなってるし、建物と回りがあの状態ではなあ。いずれ再起しようとは思ってるけど・・・

ここ10年くらいは老健と精神科の患者さんを主に診ていたんで、「初心」と「感謝」ってことかな。

初心は最初だけじゃなくて、その次もその次の年もまた新たに「初心」なんだよ。感謝とかありがとうは俺のガラじゃないけどな。最後のご奉仕っていうのも考えてるよ。代診で、1日いくらとか、限定何日間とか、シルバー人材センター構想も会で考えて欲しいな。

自宅では、もっぱら庭造りをやってる。実は日本石楠花が趣味なんだよ、土だけでも50俵は買ってる。ゴルフはしばらくやらないと思う。富士山に見える温泉を女房と巡る計画もあるんだ。」

### 不足した物資は？

「3週間は食料不足だった。施設とか入院患者さんのことしか考えられなかった。」

### 備えるべき物資は？

「現金、電池、ろうそく、ラジオ、ランタン、水」

### 圭歯会に一言？

「ありがとう、しかない。」

### 会員には？

「置かれている環境、地域によっても違う。(緊急時の)世の中は、信用じゃなく現金だしね。

もう一度、ご自分の診療所を見直して今後のことを考えて、歯科医療とは何なのかを考えてみて下さい。この度は本当にありがとうございました。」



## ■ 茨城県支部 ■

### 東日本大震災を経験して

阿 部 英 一 (18期)

2010年9月4日ニュージーランド (NZ) 南島ダークフィールドで大きな地震が発生した。

NZはオーストラリアプレートと太平洋プレートとの境界に位置し活断層も多いといわれている。しかし過去における南島での地震発生は1929年のマチソン地震以来身体で感じる地震はほとんどなかった。日本ではNZが地震の多い国と報道されているがそれは誤りである。断層の活動間隔は少なくとも約14000年間以上と考えられおり、ほとんどの国民には地震経験がないのである。高校時代に1年間当地に留学していた私には、クライストチャーチ近郊に第二の家族と友人が数多く住んでいるので心配になりmailやFacebookで無事を確認、安堵したのである。因みに日本ではその地震はほとんど話題にはならなかった。今年2月21日、クライストチャーチを中心とする再び大きな余震が発生した。犠牲者の中に日本人留学生が多かったことで、この地震は日本でも大きく取り上げられた。そしてこの余震により、私は知人を失った。クライストチャーチの中心部でカフェを営んでいた姉弟のうち、運悪く弟が(姉に見守られながら)息を引き取ったのである。現地の様子や救出劇、血まみれの姉の慟哭、弟の葬儀の様子は総て現地のメディアや個人によって伝えられ、それらをネットを通して目にした。

恐ろしい程に液状化した道路や、川沿いの高級住宅街に立つ邸宅の惨状を目の当たりにし信じられない思いだった。

我が家を幾度も来訪してくれた第二の両親とその家族に何かお見舞いの品を送ろうと妻と相談し、取り敢えず使い捨てのマスクやグローブを準備した。除菌ティッシュもあったほうが、インスタント食品はどうか、日持ちするスイーツは、断水が長引いているので衣類もたくさんあったほうがよいだろう、現地の郵便事情が悪いだろうから品物は無事届くだろうか、等々話していた矢先・・・に、この度の東日本大震災である。それも我々も油断しないようにと地震保険の説明を聴く為に連絡をとった保険担当

者との面談予定日の5日前のことだった。筆者の住む茨城県は三陸沿岸部の衝撃には及ばないものの、やはり他の被災地同様、津波、液状化、停電、断水、ガソリン不足に襲われた。陸橋の崩落、近辺の日本家屋は瓦が落ち、大谷石の塀は全滅に近い。開業されている先生方の医院では8日から20日ほどの休診をせざるを得なかった。治安の悪化や相次ぐ余震に神経戦を強いられ、そこへ原発問題(茨城県は福島県に隣接する)が追い打ちをかけた。ミネラルウォーターを2本買うのに3時間並び、ほぼオール電化の我が家ではカップラーメンを食べることさえままならない中、近所の方が石油ストーブを貸してくれ、井戸があるからと水をポリタンクに入れ運んでくれた人もいた。いざという時、行政はなんの役にも立たず、頼りになるのは人間の温かい心だ。そして、情報が途絶えることへの不安。電気、水という当たり前のライフラインが、如何に貴重な存在であるかということ。それらを身に沁みて感じた日々であった。

最後に、この度の震災で亡くなられた方々のご冥福を、また被災地の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

#### 茨城県内の被災状況



水戸市 水戸駅北口に近い東照宮の鳥居が倒壊。水戸駅も損壊し鉄道の利用ができるようになったのは4月1日から。



水戸市 道路が割れて水が噴き出した水戸駅南口近く



日立市 寄港したばかりの新車メルセデス全てが津波の被害に



水戸市弘道館も一部損壊し閉鎖中



潮来市 液状化と津波で道路は浮き上がるか陥没か波打ったりしている



那珂湊海上保安部 那珂湊沖にて収容されたご遺体の口腔内所見採得。この後身元が判明（横須賀均撮影）



那珂市額田 349号線の地割れ



福島県からの避難者へ口腔衛生指導（水戸歯科医師会）

## ■ 栃木県支部 ■

### 創立40周年と東日本大震災に寄せて

五月女 大 介 (9期)

思えば10年前の創立30周年の頃は歯科界、同窓会とも順風な時期であったように思うが、以後40周年を迎えた今日に至るまで歯科界は逆風の中を歩み続けて来たように思う。保険点数の伸び悩みや締め付けはもとより、昨今の歯科大学離れによる受験者の減少、歯科大学の定員割れはその象徴であり、国家試験の合格者の制限等はそれに追い討ちをかけている状態である。

本学においても、歯学部の現況は悲惨とも思える状態にある様に思える。

そんな中この度の大震災が起きた。同窓会離れが囁かれる中で、支部、本部とも活性化を図り、今こそ同窓会が団結しこの苦境を乗り越えなければなら

ない時でもある。被災同窓会員、学生への支援を図り、国家試験の合格率アップへも協力し、かつての本学の誇りと伝統を取り戻したい想いである。

勿論、同窓会のみでは無理な事であり、学校自体が本腰を入れて取り組まなければ苦難のどん底から這い上がれないと思う。

歯学部だけの問題ではなく、医学部、薬学部も将来の展望を見据えて『医療人たる前に誠の人間たれ!』の建学の精神の下、東北の雄たる大学になってほしいと思う気持ちでいっぱいである。

同窓生は皆、盛岡に思いを馳せ、母校を愛しているのだから。

## ■ 群馬県支部 ■

### 東日本大震災への支部における対応

石 北 裕 (3期)

3月11日群馬でもかなりの揺れを感じただならぬ状態であると察しましたが、まさかあのような大惨事だとは思いませんでした。被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げ、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。本部より連絡のあった義援金を会として些少ですが心を込めて送金させて頂きました。発生の次の日群馬県警察医会の副会長から身元確認に出動出来るかの打診があり可能の旨伝えましたが、待機していたところ1カ月後県警からの

出動要請は残念ながら身分保障が出来ないとの理由で無くなりました。自分としては警察医としての検視の経験を活かして微力ながらお役に立てればと思っていたのですが、空振りに終わり悶々としています。でも元会長の圭陸会代議員の長島明先生が支部を代表して身元確認に1週間ご苦労なさいました。

本部から被災された同窓の先生方に対し、何か出来ることがありましたならお申し出下さい。出来る限り対応したいと考えています。

## ■ 新潟県支部 ■

### きずなを強く

本 間 哲 雄 (5期)

この度の東日本大震災で多くの同窓やご家族に犠牲者・被災者が出たことに、ご冥福とお見舞いを申し上げます。あまりにも規模が大きすぎて、どこから手をさしのべて良いものか分かりません。報道などで紹介される場所は確かに被害が大きいでしょうが、広範囲に被害が出ており、日の当たらない所も多いのではないかと心配しております。岩手、宮城、福島と同窓はもちろんですが、茨城、千葉などでも被災されている方がおられるのでは、福島県は原発事故まで加わり、再建もおぼつかないのではと、現地の状況が見えてこないのが気をもむばかりでした。

6月11日に総会を行い、各クラスの被害状況を聞き取りました。みな同級会内での義援金を集めているようで、中には300万円以上集まったクラスもあると聞きました。同級会のメーリングリストも活躍していました。今回ほど同級生のきずなを感じたことはありませんでした。支援物資を持って、直接現地にお見舞いに行かれた方も結構おりました。総会で支援を決議しました。歯学部同窓会に支部として

義援金を送ります。この義援金はまだ1回目だと思っております。

亡くなられた方、ご家族を亡くされた方はどれほどでしょう。全壊、半壊、床上浸水と同窓がどれだけ被災されているのでしょうか。支部長会議の折りには少し見えてくるでしょう。さらなる支援を続けていきたいと思っております。同窓会の良さ、ありがたさを皆に知ったことでしょうか。同窓会・同級会のきずなをもっと強くしましょう。

新潟は2度の地震を体験して、少なからず避難のノウハウを持っております。県内にはまだ8000人近く避難されております。地元の避難所より快適に過ごせたのではと自負しております。皆さんの歯科健診やサポートに会員みんなが関わって微力ながらお手伝いしております。

残念ながら地元の患者さんを残してまで検死に行けないと、歯がゆい思いをした先生もおられました。原発事故も出向の機運をそがれたのは残念でした。(私の住む出雲崎町では中越沖地震後の復興キャンペーンを「きずな」と銘打って行っています)



## 道北支部

### 道北支部10年の足跡

石平 洋二 (10期)

◇2011年3月11日 東日本大震災

2011年3月11日午後2時46分三陸沖で発生しました東日本大震災によりお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともにご遺族の方々には謹んでお悔やみ申し上げます。

被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

岩手医科大学圭陵会を通じましてわたくしどもも微力ながらお力添えをしていく所存でございます。

一刻も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

◇岩手医科大学歯学部同窓会設立40周年に寄せて道北支部10年の足跡

この度は同窓会設立40周年誠におめでとうございます。

1971年に1期生が卒業し同窓会が設立されました。

1期生が同窓会長副会長と主な役職を40年にわたり歴任してきました。

同窓会の歴史は1期生の歴史と云っても過言ではないでしょう。

ただただ頭が下がるものでございます。

当道北支部も同様に1期生、2期生が支部長幹事長と歴任し道北支部の歴史も1期生2期生の努力があったからこそものと思われまます。

ここで当支部執行部の10年の歩みを列記します。(下記会員の敬称は略します)

2000年～2001年

支部長 平田 正尋

幹事長 前田 茂

会計 長谷川正人

2002年～2003年

支部長 加藤 三明

幹事長 石平 洋二

会計 小倉 一也

2004年～2005年

支部長 加藤 三明

幹事長 長谷川正人

会計 板垣 一生

2006年～2007年

支部長 片岡 清司

幹事長 小倉 一也

会計 柴田 敏也

2008年

支部長 片岡 清司

幹事長 板垣 一生

会計 佐々木雅彦

2009年

支部長 加藤 三明

幹事長 板垣 一生

会計 佐々木雅彦

2010年～2011年

支部長 石平 洋二

幹事長 品川 拓人

会計 有馬 征志

この10年間で大崎 雅大 (27期), 中港 誠幸 (27期), 中村 有紀子 (31期), 浦本 大三 (31期), 松尾 徹也 (32期), 呉 悦明 (35期), 矢花 修 (27期) 7名が新会員として入会しました。

支部活動は年6回行われます。主に下記の行事を行います。

4月 総会

6月 例会 事時話題講師例会

8月 例会 在校生を交えたビールパーティ

10月 例会 外部講師勉強会

12月 例会 忘年会

2月 例会 会員講師勉強会

道北支部は30人あまりの少人数支部で、1期生2期生を中心として活動してきました。

これからは若い世代の会員に承継されますように執行部は努力していく所存ですのでこれからも宜しくお願い致します。

会員の名称の誤り、本文中の誤字脱字がありましたらお詫びいたします。

ここに道北支部10年の足跡を記載いたしました。

## 青森県支部【青陵会】

### 同窓会、この10年を振り返って

松本 靖宏 (16期)

岩手医科大学歯学部青森県同窓会20周年記念特別委員会を設置して、記念講演会部門、祝賀会部門、懇親会部門と記念誌部門に分けて担当チーフと委員を決めて動き出したのはもう10年も前のことである。3期山田芳夫同委員長の下、各委員は担当に分かれて県内外からおみえになるご来賓および参加会員のおもてなしに鋭意努力した。

大堀勉理事長の記念講演の後、祝賀会場の各テーブル中央には岩手医科大学の校章が描かれた10センチ四方の旗が置かれ、同じ旗を手にした現会員全員がちぎれんばかりに振る中をその大堀先生が通られます。とても嬉しそうな顔が今も鮮明に蘇ります。

岩手医科大学歯学部青森県同窓会という長い名称を「青陵会」という呼称にしたのはいつだったか。その会則第一章第二条には「本会は会員相互の親睦を旨とし、学識の向上を図り、岩手医科大学の発展に寄与することを目的とする」と謳っている。我々を育ててくれた母校に対して当たり前のことではないか。いつでもどこでも母校のためなら身を投げ出してまで、なんてのは大袈裟にしても、母校愛は人には負けない。昔は校歌も空で歌えたものだが、歌えない後輩をみて驚いたのは最近のことだ。母校愛

の表現は十人十色。寄付をする人、同窓会費を銀行振り込みする人、ホームページを欠かさず閲覧する人、子弟を入学させる人、近所の病院ではなく岩手医大を受診する人。さあ、貴方の表現方法はいかに。

私事で恐縮だが、子供を母校に入れて毎年父兄会に参加して来たが、その席で学生時代の知己によく会う。先輩しかり、同輩後輩にも。そんな年代になってきたのだなと感慨深い。昔年をとっても昔の面影がそのままだし自分もそうなのだろう。

話が脇道に逸れてしまったので本題に戻ろう。当会もご多分に漏れず会員の老齢化が目だってきた。現在会員数170名中、半数以上約90名が1期から19期までの昭和39年生まれ以前の会員である。もう少しで平成生まれの卒業生が生まれようとしているこの時期に、新入会員が魅力を感じて入会していただける会務を遂行していかなければならない。

2年後に開催予定の青陵会30周年記念祝賀会の準備はこれからだが、今度も大堀先生を始めご臨席の皆様と一緒に慶びを分かち合いたい。2年もあると思うか、2年しかないと思うか。いずれにせよ20周年よりは盛大になることだろう。母校に寄り添いながら自分たちの歴史を静かに作りあげていきたい。

## 学術講演会

### 知っておきたい補綴臨床ヒント30 —講座30年の歩みから—

中里 好宏 (31期)

岩手医科大学歯学部歯科補綴学講座  
冠橋義歯補綴学分野  
教授 石橋寛二先生

平成22年10月16日(土)青森県八戸市の八戸駅隣接のユートリーにて、歯科補綴学講座冠橋義歯補綴学分野の石橋寛二教授をお迎えして青陵会学術講演会が開催されました。

八戸では観測史上初となる猛暑もようやく落ち着いた秋晴れのなか、青森県歯学部同窓会(青陵会)過去最高の100名を超えるドクター、スタッフ、八戸歯科衛生士専門学生らが集まり空席を探すのが苦労するほどの盛会となりました。これも石橋教授の講演内容はもちろん先生のお人柄の賜と思われます。

まず、16期北村靖大会長のもと石橋教授の御略歴

が紹介されました。石橋寛二先生のご紹介はこの誌上では詳細には述べきれませんが、特筆すべきは1980年（昭和55年）4月に教授にご就任され講座を開講し、近年にはない30年という長期に渡り講座を牽引されたことです。研究も多岐に渡っており、臨床でも長期経過症例を数多く経験され、またこれまで日本国内のみならず海外でも活躍する189名の同門会員を育て、またその中から優秀な教授も輩出されております。

講演では、石橋教室では補綴歯科臨床とは、精巧な人工装置を用いて歯列・咬合の回復をはかり、人の生きる力をサポートすることにあるという考えから、それに立脚した診療・研究を行ってきたこと。初期には補綴装置の生体への適合を追求し、その後研究キーワードは顎機能、バイオマテリアル、審美、顎補綴、金属アレルギーと広がっていったこと。

また、開講10年を経過した頃から、分野別に構成した3つの大きな研究グループによって研究を推進し、顎機能に関する研究グループでは、顎機能障害の発症について前向きコホート調査、携帯型EMGバイオフィードバック装置の開発と臨床応用に力を注いだこと。口腔インプラントに関する研究グループでは、チタンインプラントの骨境界面の分子・生物学的評価をテーマとし、陽極酸化・水熱処理チタンが骨伝導能を有し、臨床面で望まれる早期のオッセオインテグレーションを獲得できることを示してきたこと。審美修復に関する研究グループでは、歯科用測色装置を開発し、カラーマネジメントシステムとCAD/CAMシステムの組み合わせによるオールセラミックラウンの的確な色調構築法を提案してきたこと。さらに、顎補綴治療、金属アレルギー治療について継続して取り組んできたことを講演されました。

それぞれの基礎研究

をベースとし歯科メーカーと提携していくつも歯科検査機器を開発され臨床応用をされており、近年では歯冠色測定装置である(株)オリンパス社のクリスタルアイがそれにあたります。また、スライドのなかには古いものもありブルー反転などの昔のスライド製作の思い出話も飛び出し、経験ある先生方の懐かしさで会場が包まれる場面もありました。このような講座30年の歩みから得た30項目の補綴歯科臨床ヒントについて、それぞれひとつひとつ基礎研究のEBMを臨床応用した事例を微に入り細にわたり患者さんの信頼と満足を獲得する視点から臨床に使えるヒントを身振り手振りを使い熱く時間いっぱい講演されました。私見ではありますが、自分の研究した資料がスライドに使用されており懐かしく拝見させていただきました。また、QOLの観点から食物を摂食することにおいて補綴装置の役割は咬む事だけではなく、患者さんにとっては歯触り、歯ごたえなども重要であり、なにより「歯は感覚器である」という言葉が印象に残っております。

最後は最近の大学の動向、歯科界の今後の展望などをお話され、講演を盛況のうちに終了されました。さらに懇親会、2次会、3次会と石橋教授と語らう楽しい夜となりました。



## 岩手県支部

### この10年間の足跡について

黒田直寿 (18期)

この10年間に於いて一番大きなことは平成17年に支部長の交代があったことです。昭和59年より21年間支部長を務めておりました箱崎守男先生（1期）から岩渕安信先生（4期）へバトンタッチされております。同窓会員の会員数もこの10年間に総数264名から383名と会員数が増加し、岩手県の歯科医師数の過半数を占める様になってきました。最近では二世の入会も目立ちはじめ、年齢の格差が広がり同窓会員の交流の難しさを感じることも多くなってきております。

箱崎支部長在任の頃は、総会、新年会、ゴルフコンペを中心に、会員相互の懇親・情報交換を行ってきました。当時の箱崎支部長は、岩手県歯科医師会の会長そして全国の日本歯科医師会員の後押しを受け日本歯科医師会筆頭副会長にも就任されており、多忙を極める中、医院経営の安定を基本とし責任ある歯科医療の提供に奔走し、会員への支援についてよく話をされておりました。事業における新年会では、特別講演会を開催し、平成14年には東北銀行取締役頭取・箱崎安弘氏より「岩手の経済状況と、4月から始まるペイオフについて」、平成15年は、岩手医科大学歯学部歯科保存学第二講座教授・国松和司先生（14期）より「患者のための歯周疾患」、平成16年は、圭陵会幹事長・歯科矯正学講座教授・三浦廣行先生（4期）より「岩手医科大学の近況」の講演会を開催しました。

岩渕安信支部長の最近5年間は、「基本に立ち返り、親善と融和をモットーに歯科医師会では出来ない事を中心に」と言うことで、二十数年間に亘る箱崎守男先生の形作った同窓会を踏襲しつつ、若手の役員を登用しさまざまな事業を展開しております。平成17年には岩渕支部長の発案により、初めての年代別社会保険講習会を開催しております。この年は当時の歯科医療指導官會田則夫先生（14期）をお招きして、卒業期1期から9期、10期から17期、18期から29期と3世代に分け150名を超える参加者で開催しました。それ以後毎年開催し120名を超える参

加者があり、縦割りの集まりの多い中、同世代の集まりは一種新鮮でありいつもと違う話の盛り上がりを見せております。平成22年10月9日には会員からの強い要望で久方ぶりに親善ゴルフコンペが復活し、秋晴れの空から笑い声や歓声があちらこちらから聞こえるものとなりました。

本年3月11日の東日本大震災では当支部会員においても甚大な被害に遭われた先生方が多数おります。村上徳行先生（2期）、佐伯厚夫先生（10期）がご逝去されたことは誠に残念なことであり、衷心よりお悔やみを申し上げる次第です。その他、津波により自宅、診療所を流失された先生は20数名を数えます。この震災に対して岩渕支部長の陣頭指揮の下、被災会員の復興に素早く取り組んでおります。岩渕支部長は被災直後から被災会員と連絡を取り被



H21.6.4



H21.6.4

災状況の把握をし、被災地区に入り見舞金を直接お渡しするとともに、今後の仮設歯科診療所の開設における留意点や被災地区・被災者の診療における注意点、レセプトの請求の仕方の説明会を開催しております。その後岩渕支部長は被災会員の相談窓口となり、歯科機械メーカー・歯科材料商の協力を得なが



H21.7.2 年代別社保講習会

ら被災会員の仮設歯科診療所、新規歯科医院の立ち上げにたいして強力な支援をしてきております。

被災会員にとってはまだまだ厳しい日々が続いておりますが、岩手県支部としましても新たな10年後を目指して少しでもお役に立てるよう継続した支援をしていく所存です。



H21.7.2 年代別社保講習会

## 秋田県支部【秋盛会】

### 秋盛会 — この10年間の足跡 —

佐藤 正人 (12期)

秋田県の岩手医科大学歯学部同窓会は「秋歯会」の名称で昭和53年11月創設された。昭和40年代後半より、卒業生が次第に増え、勉強会を中心に時々集まって情報の交換をしていたが、正式な同窓会をとという機運が高まり誕生した。

昭和55年1月、同窓会の名称を「秋盛会」とし今日に至っている。多感な青春時代を過ごした盛岡の人情と、人生の礎を築いてくれた岩手医科大学を、秋田の地にいてもけっして忘れまいとする思いとがこの「秋盛会」の命名に込められている。そして昭和55年の会員は27名であった。

初代会長に就任された玉木修先生（1期）は14年間秋盛会のために尽力された。平成6年金子健次先生（3期）が次の会長に就任し、平成12年12月「秋盛会創立20周年記念式典」が当時の坂巻公男歯学部長をはじめ多数の方をお招きして挙行された。この時の会員は95名。

平成18年3月、3代目の秋盛会会長に伊藤修先生

（5期）が選出され、今日まで秋盛会のために東奔西走し、秋田県歯科医師会の常務理事として多忙を極めたこともあった。

この10年間もさることながら、秋盛会は年に3回の学術講演会を創立以来絶えることなく続けてきた。時に岩手医科大学歯学部の病院公開セミナーにとってかわることはあったが、その時々々の歯学界のトレンドを反映したテーマを選び、会員の興味をできるだけ引く講師の人選に努めてきた。新しい知識への貪欲さが成せる技である。

最近10年の講師陣をひもとくと、本学歯学部からは、口腔外科の大屋高德助教授、歯科保存学の國松和司教授、予防歯科の米満正美教授、口腔外科の水城春美教授、口腔病理学の武田泰典教授、最近では、歯科内科学の中居賢司教授などが講演された。また、本学以外では、奥羽大学の山森徹雄教授、日大松戸歯学部の池見宅司教授に講演していただいた。さらに県外在住の同窓の先生に講演の依頼をし

たこともあった。

身近な臨床に焦点を絞り、秋盛会の活性化をはかろうと、会員発表にも力をいれた。勉学家の故小原茂先生（4期）、豊かな知識の井関時男先生（4期）、障害者歯科治療の実践者である岩淵阜先生（14期）、そして最新の技術を身につけ入会した若手の先生が講演した。秋田県歯科医会で活躍し今度の東日本大震災で、身元確認で被災地へ行かれた県警察歯科医会の白石千代夫先生（10期）の講演、秋田県歯科医師会理事として社会保険に精通した立花透先生（15期）による保険説明会が点数改正の年に行われた。

平成18年10月、記念すべき「秋盛国会報」が伊藤修会長の発案で刊行された。8ページの冊子ではあるが、巻頭言、会員の近況や新入会員の紹介、ゴルフコンペの成績などを載せていて読み応えがある。今年5月に第10号を発行した。

ゴルフコンペは他大学の参加者も集うオープン形式の時もあり、なごやかな雰囲気の日ごろのストレスを解消するのに欠かせない。

玉木修先生は秋田市歯科医師会長として力を発揮され、大淵義孝先生（4期）は秋田歯科医療専門学校の要職を長く務められ歯科衛生士の養成に傾注されてきた。また、秋田県歯科医師会の常務理事や理事として活躍されてきた先生の数は多く、菅原栄悦（8期）は歯科医師国保組合理事長の重責を果たしている。

昨年11月6日、秋盛会創立30周年を祝う記念式典が秋田市で盛大に行われた。三浦廣行歯学部長の記念講演「岩手医科大学歯学部の日ざすところ」と、城茂治圭陵会歯学部同窓会会長の祝辞をいただいた。

10年前とこの頃とを比較すると、県外出身者が増えたことと勤務会員の増加があげられる。また同窓の結婚も増えている。

秋盛会の今後に課題がないわけではない。今

年の会員は120名を超えているが、総会や学術講演会への出席者がほぼ固定化されてきていることだ。改善のための創意と工夫が求められている。

日々の歯科診療の充実をはかることは大切なことであるが、今年3月11日の東日本大震災を契機に、個人として、歯科医師会の会員として社会的活動を実践する場がさらに広がっていこう。様々な困難があろうが、岩手医科大学歯学部と秋盛会の更なる飛躍と発展を祈念します。



伊藤 支部長



三浦 歯学部長



## 宮城県支部【圭歯会】

### 宮城県支部（圭歯会）のこの10年の足跡について

羽田野 明（5期）

宮城支部では年2～3号30ページから40ページ超の会報を、歴代の広報担当者の努力で発行しています。10年前からの事でさえも記憶から遠ざかり、何を書こうか困惑していた私に、記憶を取り戻す縁として直近10年分の会報が届けられました。懐かしく思わず読み耽ってしまいました。それ以前の号も取ってなかったかなあと探してみましたら、佐々木統先生（1期）から私が支部長を引き継がせて頂いた1994年の、私の就任挨拶が載った号から後の号がすっかり取ってあるのを発見してしまいました。毎号和田信宏先生（4期）の撮った写真が表紙を飾っているのですが、その号はカラー表紙の特別号となっていました。同時に本部広報への宮城県支部の活動報告、県歯会報への同窓会紹介文もみつかり、これらを勝手に引用、ミックスさせて貰って報告したいと思います。

昭和46年、7～8名で圭歯会発足、10年後には70～80名になっていたかと思えます。会としてはお互いの顔が見える適正人数だったかなと思えます。当時の歯科界同様活気に溢れていました。忘年会等も仙台近郊の温泉に泊まりでやっていましたが、二次会は仙台の国分町ヘタクシーを飛ばしてという猛者達も居りました。当時宮城県は同窓会単位で人事や物事が決まっていく体制にあり、人数の増えてきた新興の同窓会はその存在を固める為にも多くの交渉事を熟し、各種選挙では会員の動員票のやりとり、取りまとめと、今ではなんだったかなあと思うばかりです。

2001年には会員数275名となり、それ以前から多数の会員を抱えた会として、責任と貢献が求められるようになっていました。

・月1回の理事会、年2回の会報発行、春、秋のゴルフコンペ、同じく他大学との懇親コンペ、3年に一回の名簿発行。

- ・7月 本学講師による講演会、新入会員歓迎会
- ・8月 夏休みファミリー企画
- ・9月 社保講習会、健康講座
- ・12月 会員発表会、クリスマス忘年会、還暦祝い
- ・3月 外部講師による勉強会、総会、懇親会

が恒例となり、親子2代での参加も増える様になりました。メーリングリスト『みんなの圭歯会』も立ち上がっております。

一方、近年では本田宏彦（9期）、後藤学（4期）、櫻田光男（14期）、有馬英夫（6期）、大屋高德（2期）、守谷友一（5期）、この度の震災で高間木祐一（24期）の先生方、以前も含めると14名の物故者がいらっしゃいます。又以前は会に出席頂けた方が、疎遠になったり、新人のリターンが捗捗しく無かったりと、力不足や、手から砂が漏れ落ちる様な寂寥を感じる事もありました。診療環境、経済環境も変わり、同窓生の興味や関心の有り様、軸の置き方も違ってきています。

2011年には会員数も338名となりました。県内11支部中、仙台を始め7支部で同窓が支部長をなさっています。気仙沼支部、菅野健（12期）、石巻支部、泉谷信博（6期）の両君は、診療所、家屋共に今回の津波で流され、御自身が大変な状況にあるにもかかわらず、支部長を引き受けられました。代議員、会議長、県歯、各支部役員と、この大変な時期に苦労のある役職を引き受けてくれる人材が、同窓の内に多数居る事は、大いに誇るべき事と思っております。

さてこの間最大特筆すべきは、2009年に役員、会員の信頼篤い村上正博先生（6期）が支部長となってくれた事であります。杉山豊先生（18期）が事務を引き受けてくれ、砂金の様な、飛び込んできた宝石の様な先生方が理事を勤めて頂く様になり、大分若返った陣容になりました。

上の世代への気遣いは勿論、より若い世代への浸透、継続を計り、時代にマッチした圭歯会へ生まれ変わろうと、着々と基盤を固めて3年目となります。時代的にも同窓会は難しい時期を迎えて久しいですが、会員同士が顔を合わせて嬉しくなる様な、何か元気になる様な会を目指して、団結し、忍耐強く頑張ってくれて行っています。会員の皆様が居心地よく参加できる様にお待ちしております。

## 山形県支部【山陵会】

### 山陵会のこの10年間の足跡について

日 塔 睦 雄 (18期)

山形県同窓会は昭和52年に当時4名の会員から山陵会として発足し、今年で33年になります。当同窓会の特徴としては、豊富な学術活動に加え、会員相互の親密な関係が築かれていることにあります。春秋に行われる定例の学術講演会を中心に、夏の臨時研修会、そして平成14年の冬からは地元山形で活躍する各界の著名人を講師として招いての山陵塾という充実した研修事業を行っております。また、これらの活動報告を周知し、記録を残していくために、やはり平成14年から年2回の会報を発刊し、毎号会員からの原稿等を掲載しながら様々な情報交換を行っております。

最近行った大きな事業としては、平成20年11月に山陵会創立30周年を迎えるにあたり、記念式典を挙行いたしました。また記念講演会の開催、そして30周年記念誌を発行いたしました。記念講演では、山形県出身で東京大学先端科学技術研究センター教授の鈴木宏正先生を講師としてお招きしました。「現代のものづくり“デジタルエンジニアリング”」と題してご講演を頂き、山陵会員のみならず多くの一般市民からの参加があり、会場は大変な盛り上がりを見せました。また、記念式典では本学歯学部同窓会長の藤田達夫先生をはじめ、三浦廣行歯学部長、佐藤博嗣山形県歯科医師会会長、そして佐藤泰司圭陵会山形県支部長が来賓として祝辞を述べられ、大勢の出席者とともに山陵会30周年を祝いました。

現在、山陵会は会員数69名を数え、県歯科医師会や地域歯科医師会においても精力的に活躍し、指導的立場にある会員も多数輩出しておりますが、33年目を迎えた今では年齢層も広がり、そのせいもあっ

てか会への参加人数がいまひとつ伸び悩んでいるところがあります。その解決策のひとつとして、平成19年からは家族会を復活させ、年1回、主に若手の先生方の家族を対象に楽しいイベントを企画しながら、会員のみならず家族同士の交流も深めております。当山陵会の先生方は、人生の伴侶として岩手の人を山形と一緒に連れてくるケースが多く見られ、奥様方も地元と一緒にのせいもあってか、とても和やかな雰囲気になり、恒例の行事になってきました。これをきっかけにして比較的若い先生方の同窓会への参加が、少しずつでも増えてくることを期待したいものです。

また、学術以外の集まりとしては、ゴルフを趣味とする会員の山陵ゴルフ倶楽部があり、現在20名の会員で年2回のコンペを開催しております。平成21年6月には第40回記念コンペを岩手県遠征というかたちで行い、前日盛岡入りして懇親会を行った翌日、「みちのく古都カントリークラブ」を会場として12名参加のもとコンペを開催しました。山陵ゴルフ倶楽部も本会と同様に、参加人数がいまひとつという悩みがありますが、参加者からは、和気藹々として他のコンペとは比べものにならないくらい楽しいゴルフで、しかも豪華賞品が頂けると絶賛されており、是非とも多くの会員に参加していただき、ゴルフを通じて親睦を深めてほしいと思っております。

以上のように、山陵会では一年を通して多くの会員が集える機会を設けており、これを基にして会員相互の団結をさらに深めていけたらと思っております。



## 福島県支部

### 福島県同窓会10年の歩み

遠藤正道 (12期)

岩手医科大学歯学部同窓会発足40周年おめでとうございます。

福島県同窓会も早いもので、昭和59年10月に発足してから28年経とうとしております。

福島県同窓会は、役員会を年2回、同窓会総会と学術講演会を6月に、秋にも学術講演会を開催してきました。時に教授就任祝賀会や送別会といったイベントも開催し会員相互の親睦と、研鑽に務めてきました。これらの研修会は医学部歯学部を問わず、同窓の先生方を主にお招きして開催しております。

福島市、郡山市、いわき市を主会場として持ち回りで開催し、7年に一度相双地区（相馬市、双葉町など）で開催することになっています。

東日本大震災により黒沢恒平先生（歯6期、同窓会理事）が犠牲になりました。新地町に住むお母様を迎えにいかれ津波に巻き込まれました。福島県同窓会会員の訃報は佐藤伸秋先生（歯16期、病死）以来お二人目です。残念でなりません。合掌。

他にも家屋の全半壊、一部損壊、津波の被害、そして福島第一原発の影響で沢山の同窓の先生方が避難されている状況を踏まえ今年度の総会の開催を自粛しています（今年は皮肉にも相双地区での総会でしたが残念ながら中止になりました）。

この10年を振り返りますと、福島県同窓会は平成15年6月に20周年を迎えました。20周年記念誌の発行と（写真1）、この時は10周年の時と趣向を変えて、観光をかねて大学病院を訪問するという企画をたてました（写真2～5）。結構好評でしたので今度の30周年にはどんな企画があるのでしょうか？楽し

みです。

役員の仕事も第三代村上秀元会長（歯4期）、第四代鈴木正会長（歯5期）、そして第五代田代直也現会長（歯8期）と少しずつ若返りがなされてきたかなと

思っております。ただ残念なことに、会員の数は確実に増えてはいるものの（平成23年度現在、会費納入会員は66名）総会に出席する若い先生方が少ないのが現状です。同窓の和を考える時、少しさみしさを感じるのは私だけでしょうか。若い先生方が参加して良かったと思っていただける同窓会にしくはと考えています。早いもので今年は42期の卒業生

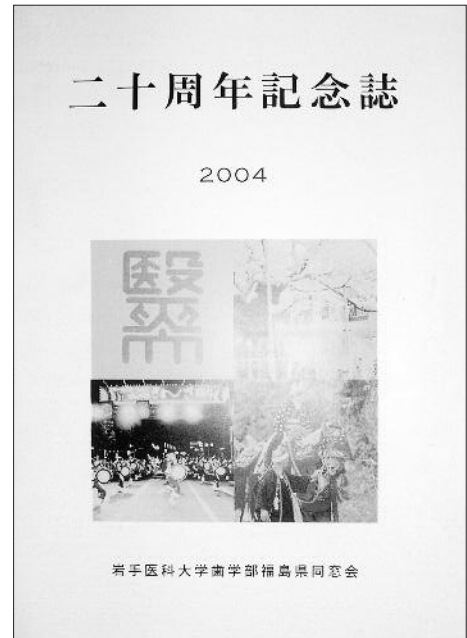


写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

が巣立ちました。福島県同窓会の先生方の御子息も卒業されています。親子で総会に来ていただける日がくると期待しています。

私事ですが、本部同窓会の30周年記念式典から帰ってから体調を崩し、狭心症であわやという状態になりました。私にとっては闘病の10年とっていいのかもしれませんが。笑い話ですが同窓の先生方にも「ステント仲間」がおいでになり私に貴重なアドバイスをいただき感謝しております。

福島県には福島県立医大歯科口腔外科、奥羽大学歯学部があり、同窓の先生方が沢山ご活躍されています。奥羽大学ではこの10年の間にいろいろな動きがありました。平成元年4月より口腔解剖学第一講座教授を務められた伊藤一三先生（歯2期）が平成21年11月に退職されました。補綴学第二講座の清野和男先生（歯3期）は奥羽大学歯学部病院長（平成18年4月～22年3月）の要職を務められました。同講座の山森徹雄先生（歯13期）は平成18年から臨床教授に（講座は准教授）、そして平成21年に歯科補綴学講座（有床義歯学）の教授に就任いたしました。先生方の益々のご活躍を期待しています。

福島県同窓会もこれから30周年を迎えようとしています。巷では「ガンバロー福島県」の声が毎日のように聞かれます。本当の復興はまだまだ先のことですが会員全員が福島県に戻られて、いつの日か相双地区で同窓会総会を開催したいと思ってやみません。

## 茨城県支部

### 茨城県支部10年の歩み

阿部 英一（18期）

当支部同窓会は卒業生同士の連携と交流を促進する目的で年2回水戸市とつくば市にて会合を開いております。

茨城県支部の発足は昭和63年9月3日に

初代支部長 飯村 仁一（6期）  
会 計 小川 修二（10期）  
庶 務 根本 秀樹（9期）

より活動を開始。以下歴代支部役員  
二代支部長 坂入 正和（8期）  
会 計 戒田 敏之（11期）  
庶 務 色川 恒彦（13期）  
三代支部長 白田 公正（4期）  
会 計 加園 真樹（13期）  
庶 務 横張 雅彦（12期）

四代支部長 横須賀 均 (8期)  
 会 計 吉田 孝生 (12期)  
 庶 務 黒澤 宏 (14期)  
 五代支部長 根本 秀樹 (9期)  
 会 計 萩原 敏之 (13期)  
 庶 務 増子 強 (17期)  
 六代支部長 数寄 孝 (8期)  
 会 計 阿部 仰一 (20期)  
 庶 務 阿部 英一 (18期)

庶務の阿部が入会したのがH15年ですが、これまで後輩の先生の入会がほとんどなく会員人数が増えません。茨城県内にて勤務あるいは開業される先生は、是非庶務までご連絡いただきご入会していただきますようお願いいたします。



H.22年11月支部総会 (つくば市)  
野坂洋一郎先生を迎えての勉強会



## 栃木県支部

### 栃木県支部のこの10年間の足跡

手塚 茂 (21期)

まず最初に、今回東日本を襲った未曾有の大震災によって亡くなられた同窓生の方々に心より哀悼の意を表すると共に被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

本県でも、震度6強を記録する大きな揺れに見舞われましたが幸いにも同窓生及びその御家族には大きな被害は無く、ほっと胸をなで下ろしたのでありますが、岩手・宮城・福島県沿岸部の惨状や福島第一原発周囲の状況を報道で見る度に心を傷めておりました。

自然の力の前に為すすべなく敗北した人間の無力さ、日本の英知の結晶とまで言われた原子力発

電所の無残な結末。本当にこの3月11日は日本人にとって、今までの人生観や価値観を180度変えてしまう様な日となりました。私にとっても己の無力さを痛感すると共に、家族や友人の大切さを再認識し、もう一度 人生・「生きていく」という事を考え直す一大転機となりました。



震災から3ヵ月が経ち、未だ瓦礫の残る街で復興に力を注ぐ各地の人々の姿には東北人の力強さ、忍耐強さ、心の温かさを感じ、そのひたむきな生き様に深い感動を覚えました。

私たちが学生時代を過ごした素晴らしい岩手・東北に戻るのにはまだまだ沢山の時間が必要であると思われませんが、この大震災を乗り越え笑顔があふれ活気ある東北が帰ってくる事を心より願っております。

さて、私共栃木県同窓会は昭和52年に発会し現在に至っております。

発会から長らくお務め頂いた1期生の小塚照夫会長から9期生の宮堀恵雄会長へとバトンタッチされ、現在は9期生の五月女大介会長の元、44名の会員がおります。主な行事と致しましては、総会、講師例会、圭陵会栃木支部総会、ゴルフコンペ、忘年会等が有り宇都宮市を中心に会合を開き親睦を深めております。講師例会では、本学より多くの先生方に御来県頂き貴重なお話を拝聴する機会を設けております。また本県には自治医科大学、獨協医科大学に口腔外科が有り、また隣県福島には同窓生が多く活躍されている奥羽大学がある為、様々な分野で活躍されている先生方をお招きして講演をお願い致しております。

平成17年には関東甲信越ブロック大会を12年振りに本県で開催致しました。自治医科大学口腔外科・草間幹夫教授の講演会、懇親会では栃木の名産品をお土産にした抽選会等、御参加

頂いた約80名の同窓の先生方には栃木を満喫して頂いた大会で有ったと思っております。

平成19年には栃木県同窓会30周年記念式典を多数の御来賓をお招きして無事執り行う事が出来ました。6年後の平成29年には発会より40周年となる本会ではありますが、残念なことに平成3年に10期石井秀明先生、平成16年には7期福田登喜雄先生が御逝去されております。

一時期新入会員の少なかった時期も有りましたが、ここ数年は同窓生の御子息が戻られたり、本県出身以外の先生が入会されたりと同窓会にも活気が出てきております。1年、1年の着実な積み重ねが40周年、50周年へと続いて行くのだと考え同窓会活動を行なって行きたいと思っております。

最後に、被災された皆様が一日も早く震災前の生活に戻る事が出来る様に心より応援いたしております。がんばりましょう。

最後に、被災された皆様が一日も早く震災前の生活に戻る事が出来る様に心より応援いたしております。がんばりましょう。



## 群馬県支部【不來方会】

### 群馬県支部（不來方会）の10年を振り返って

H12～17年度 会長 長 島 明（4期）

大親分の保母秋典初代会長と会則の改訂や会費の口座からの引き落とし等の会の体制を確立させた小谷明2代目会長の下で庶務を5期、10年続けてきま

したが、藤田進・石北裕の両副会長が地区の歯科医師会会長に、山田哲司監事が県歯科医師会の常務になられた為、私が会を引き継ぐ事になりました。村

岡文雄君から庶務では対外的に聞こえが悪いので専務としてほしいとの要望があり、庶務という役職は私が会長になってから無くなりました。其の頃、ゴルフブームも下火になり、ゴルフコンペの参加者も少なくなってきましたので、温泉付きの日帰り山歩きを企画したところ、毎年多くの会員が集まり、親睦を深める事ができました。厚生鈴木敏正君は事前に見に行くなどして、野趣に富んだ温泉を探してくれました。私は連絡等は葉書に手書きで出しましたが、専務の村岡君は早くからパソコンを駆使し、FAXで送ってしまう事務処理の早さには驚いたものでした。副会長の小坂橋健君もよく会の事業に出席してくれました。学術の大美賀優君は講演会に毎年、人脈を生かし講師を選んでくれました。人数の少ない会としては多くの事業を計画実行しており、他大学の同窓会に自負できる事と思います。当時、群馬大学歯科口腔外科の教授をされていた茂木健司先生が顧問として我々会員と一緒にお酒を酌み交わしていただける事も魅力の一つとっております。

同窓会は何を云っても同じ盛岡で学んだ者同志、肩肘の張らない楽しい会でなければならない、そして皆がそこで心をリフレッシュして帰れる様な会でなければといつも思いをめぐらしておりました。前会長も3期で引退されましたし、私もすでに6年も会長を務め、4期は誰かに譲るつもりでおりました。一方、関プロは何度も議論を尽くした結果、隔年開催と決まり、あいにく群馬県主催がずれてきました。奇しくも村岡君が喜んで(?)会長を受けてくれたので安堵したところです。

東日本大震災に対しては、発生後すぐにでも岩手に行かなくてはと思ひ、日本歯科医師会の派遣要請に対し早くから出動可としておりましたが、やっと出動要請が出て5月13日から宮城県に行く事になりました。多くの歯学部同窓の先生方が被災した地域と思われまゝ気仙沼、石巻、角田、岩沼に6日間だけですが、検屍と照合に行つてまいりました。御遺体が早く遺族の元に戻る事を願つてやみません。

## H18~21年度 会長 村岡文雄 (5期)

支部の定例行事としては①役員会②総会③納涼会④群馬支部医科歯科合同例会⑤新年会&学術講演会⑥会員親睦リクリエーション⑦群馬県全歯科大学同窓

会校友会役員懇話会などがあります。

在任4年間の思い出である大きな出来事は二つあります。



関東甲信越ブロック大会群馬県大会 H19.10.20

一つは、平成18年8月に開催された本部常任理事会との合同納涼会(群馬県伊香保温泉にて)です。

二つ目は、平成19年10月に開催された「関東甲信越ブロック大会(群馬大会)」です。

どちらも準備は大変でしたが今となっては良い思い出です。

(H18~21年度専務理事  
大美賀 優)

平成22年4月より力不足ですが会長の重責を負う事となりました。初代会長の保母秋典が発足させた素晴らしい歴史がある同窓会ですが、残念ながら衰退傾向にある事は否めず、同窓会に若い先生が入会せず高齢化し、会員も出席するメンバーは決まっておらず半数出れば多い方で、この現象は他大学でも同じ傾向の様ですが原因ははっきりしていると思います。同窓会に入会してもメリットが無いと考えている、そして貴重な時間を割いて会の行事に参加してもやはりメリットが無いと考える先生が多いためとなれば、入会したらメリットがあると思える、行事に参加したらメリットを得る事が出来る同窓会にすれば良いと言う事になると単純に考え、同窓会で集まる時は懇親会の前に必ず医療の安全に関わる講習をする事にしました。平成19年4月より医療法が改正され、すべての医療機関に安全管理体制整備の義務化がなされ、なかでも面倒なの

は、年2回以上の公的な医療安全講習会に出席し、受講証明書を保存しなければならないと決められた事です。同窓会は準公的な機関と考え、年数回集まる時に講習を受けてもらってから受講証を発行し、その義務の足しにしてもらい、その後懇親会に移り日頃の診療上の悩み事や情報交換の場にして有意義な時間を過ごしてもらおう事で、出席して良かったと感じてもらえると思います。幸い当会の顧問は群大口腔外科名誉教授の茂木健司先生ですので、シリーズで歯科医療安全に関する講習を2回していただき、会参加者の満足度は増加したと確信しています。初回は自分が県歯科医師会歯科医療安全対策委員会で長らく委員長を経験していたため話させてもらいましたが、今後は順番で各先生が専門の分野で話をしてもらおうのも良いでしょうし、医学部の先生方にも講師になってもらおうと考えています。

## 山梨県支部

### 山梨県支部10年間の足跡

中 込 和 雄 (10期)

東日本大震災により被災された多くの方々にお見舞い申し上げます。お亡くなりになられた同期の佐伯厚夫先生、同窓の先生方、衷心より哀悼の意を表します。山梨県支部も長期的な支援を行えばと、会員一同確認致しました。

山梨県支部同窓会は、平成元年に4期の村田初代支部長のもと発会式を行い、23年目となります。10年ぶりの新入会員3名を含め、現在10名の会員です。4期生の村田広紀、古場哲郎両先生を筆頭に、7期深沢裕文、10期今沢優、中込和雄、11期中村貴美男、加藤(橋本)和子、20期早川輝、29期村田純一郎、辻(村田)美紀、歯34期中村(乙黒)美奈子と、少人数ではありますが結束は固く、毎月、愛知学院大学と朝日大学の歯学部同窓の先生方と合同の研修会、「岩歯会」を開催しております。また同じ東

北地区ということで、東北大学歯学部同窓会と合同で年1回「みちのく歯学会」を行うなど、多角的な見地からの歯科医療の研鑽と楽しい酒を酌み交わしての親睦を深めております。同じく年1回、14名お



H23.6.15 岩歯会

られる医学部圭陵会の先生方とも、圭陵会山梨県支部として総会を開いております。

最近10年間の足跡と致しましては、平成18年5月に、佐藤直志先生を講師にお招きして歯学部同窓会主催のペリオセミナーを開催しましたが、山梨県歯科医師会の会員の先生方に高評を博しました。平成19年9月には、安生朝子先生を講師として衛生士教育セミナーを開き、従業員スタッフと共に学びまし

た。また平成20年には、みちのく歯学研究会において、宅重豊彦先生を講師に「LSTR 3Mix-MP療法について」の演題でご講義頂きました。

最後に、歯学部同窓会創立40周年の節目に拝し、今後益々の母校の御発展をお祈りするとともに、このたびの震災で被災された医療機関が一日でも早く医療活動に戻れますことを心よりお祈り申し上げます。

## 新潟県支部【新盛会】

### 新潟県支部（新盛会）近年の状況

本 間 哲 雄（5期）

この度の震災で多くの同窓やご家族に犠牲者・被災者が出たことに、ご冥福とお見舞いを申し上げます。

歯学部同窓会新潟県支部は新潟と盛岡を結ぶという意味合いで新盛会の名称で昭和61年10月25日ホテルオークラで発会式を行いました。発足以来1期安斉静雄先生が会長を務められましたが、平成15年から5期本間哲雄が会長を引き受けることになりました。今年度から会長、副会長6期五十嵐一男は変わらず、幹事を7期野田俊克先生から12期佐久間英治先生に、会計を16期川田以子先生から29期小川有先生に引き継がれて新しい体制でスタートします。

会員の数はこちら10年30人台で推移しており微増の状態です。

新潟県支部の10年間は、まさに災害の歴史でもありました。平成16年7月13日三条市で五十嵐川が決壊、市街地は広範囲に水害となりました。会員も床上浸水の被害を受けました。そのがれきが片付いた10月23日5時56分に当時の川口町を震源に中越地震が起きました。会員の診療所は一部損壊ですみましたが、道路の寸断で自宅にしばらく帰れない方もおりました。やっと落ち着いたと思ったところ、平成19年7月16日には中越沖地震が発生しました。震源に近い柏崎・出雲崎の会員が大きな被害を受けました。

どちらのときも会員が集まり、被災状況の確認とお見舞い金を集めました。何よりもうれしかったことは「関東ブロック」から、それも2回にわたり、

お見舞い金を出していただいたことです。今回の震災の規模を考えますと本当に心苦しい思いです。

近年は同窓会としての活動は春・秋の2回の総会・講演会だけ行っています。春は7月頃に、秋は11月頃に新潟市内で集まっております。春は3年おきに医学部同窓会とで合同総会を開催します。交互に講師を本学出身者からお願いしています。単独では社保説明会や会員発表などを行っています。秋は本学出身の教授や会員発表などを行っています。秋は本学出身の教授中心にお招きして講演をして頂き、忘年会となります。最近ですと三浦歯学部長、明海大学藤沢教授、新潟大学山崎教授、國松教授などです。合同総会では二井薬学部長のお話をうかがいました。

本部会費の収納率が話題になりますが、支部におきましてもやはり収納率が低下しております。事業のほうも講演のみですから、平成18年より支部会費を減額し、開業医一万円、勤務医五千円としました。残念ながら収納率はあまり変わっておりません。残高が50万円（ほぼ1年の経費）を切ったら見直すことにしております。

以前から県歯科医師会には委員として何人か出向していましたが、18年からは12期亀倉陽一先生が社保担当理事として、16期川田毅先生が学術委員として活躍されています。郡市会では現在、五十嵐先生が燕歯科医師会の会長、17期中野久士先生が岩船郡村上市歯科医師会の副会長を、8期石黒壽先生が柏崎市歯科医師会副会長をされ、千人以上の会員の中

で地元根付いてがんばっております。なによりまだ物故会員のいないことも幸いです。

(雑ばくになりましたが会長を引き受ける前は熱心に活動しておりませんで、ここ8年の状況です。)

## 北陸支部

### 北陸支部10年の足跡

牧野邦夫 (13期)

最初にこの度の大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

歯学部同窓会北陸支部は約30年前に一期生の竹浪先生を中心に富山、石川、福井の卒業生が集まり北陸三県支部として設立されました。その後富山支部が独立、現在は石川、福井両県合同で北陸支部と改称して運営しています、八期生の家城支部長のもと石川12名、福井2名、合計14名の会員で構成されています。

最近10年間の新規入会は2名と寂しいものがありますが、地理的要因や最近の歯科情勢を考えると納得せざるを得ません。

卒業生や在学中で将来当地に戻って開業や勤務を考えておられる方は、支部として可能な限り協力しますので連絡して下さい。

支部の活動としては年に一回集まり、近況を語り合いながら酒を飲んでいきます。少人数で古い付き合いの同窓が多いため、本音で語り合うことができる会です。

若い先生もすぐにとけこむ事ができると思います。

母校から遠く離れた支部の為本部同窓会に協力できる事には限りはあるとは思いますが、支部会員一同、母校の発展を祈り、協力させて頂きたいと思っております。

## 愛岐支部

### 愛岐支部の10年間の歩み

吉村宅弘 (12期)

私はちょうど10年前の歯学部同窓会30周年記念式典に参加させていただきました。盛岡グランドホテルにおいて、今年日本ペンクラブ会長に就任された、浅田次郎氏の講演会を聴講させていただき、幕末新撰組に南部藩より脱藩して参加した吉村貴一郎の生涯について熱弁を奮われたこと、参加者全員が一同に会して着席にて記念パーティーが挙行されたこと等が懐かしい思い出として残っています。愛岐支部においては事務局よりご連絡頂いた名簿によれば、10年間で32期生から41期生までの卒業生の方のうち現在6名の方が新たに愛岐支部に加入されました。

この10年間の事業としては、医学部と合同の支部例会を年に1回、歯学部のみ卒業生の集まりを、なるべく年に1回開催してきました。平成18年2月には、当時日本歯科医師会副会長、岩手県歯科医師会会長1期生箱崎守男先生を名古屋にお招きして、愛知県歯科医師会内の親睦団体15校会（戦後設立された歯学部の各同窓会の愛知県または東海地区支部の親睦会）にて特別講演をしていただきました。最近母校もしくは岩手県にてご活躍されている卒業生の先生方に名古屋市に来ていただき、講演をお願いしました。盛岡市より遠く離れた支部の事業として



は、母校との繋がりを実感できることとして良いのかなと、自分なりに理解しております。

ちなみに平成20年7月には歯学部長三浦廣行先生をお招きし、医学部と共同で研究・診療に当たられている「睡眠時無呼吸症候群」の基礎知識、最新の臨床についてお話しいただくとともに、学部長として今後の歯学部の課題・改革についての道筋について意欲を語っていただきました。三浦先生の講演の際には、ご自身は医大医学部の卒業で、ご子息が歯学部在籍している、または他大学歯学部の卒業で同じくご子息が医大歯学部在籍している先生方にもお越しいただき、懇親会まで同席いただき、後で感想を伺ったところ、ゆっくりと三浦先生とお話ができ、特に質問に御丁寧に答えていただき満足しましたとの言を得ました。

平成22年7月には14期生で東北厚生局医療課技官を務める会田則夫先生に事前に愛知県岐阜県の保険診療の現状を分析いただき、先生の担当である北東北との診療内容から見る歯科保険診療の地域差について講演いただきました。診療内容の頻度が地域において違いそれが、1件あたりの平均保険点数にかなり影響を与えていることが理解されました。

母校から遠く離れ、所属する県の歯科医師会においても人数が少ないと同窓会活動には会の運営費の問題も含め、様々な問題を抱えます。学生時代を懐

かしみ酒を酌み交わすのもそれはそれで良いのですが、卒業期が1期生から41期生までとなると、教えていただいた教員の方も違い、盛岡での学生時代の過ごし方も世代間で大きく違います。懐かしさだけでは求心力は働きません。たかが同窓会されど同窓会なのです。同窓会費の徴収率を見てみると、卒業の期が古い学年の納入率が良いわけではありません。逆に卒業期が若い学年においてもまずまずの納入率の学年も結構見受けられます。各支部の活動が活発になってこそ同窓会だと考えます。特に今後の活動を支える研修医が終了した世代から卒業後10年までの世代に金銭と時間の負担がなるべくかからないように、積極的に関わっていただけるような内容にしなければ展望が開きません。私見ですが毎年恒例の学術講習会を盛岡市のみならず全国を巡回していくように企画していただければ、卒業後全国に散った知識習得に意欲旺盛な若手の参加が見込まれるのではないかと考えます。今後もなるべく全国の卒業生が参加可能な事業を企画していただくことを切に望みます。

本年3月11日に起きました東日本大震災にて亡くなられた方に哀悼の意を奉げご冥福を祈るとともに、被災地において懸命に生活されるすべての方にお見舞いを申しあげ、平穏な日々を早く取り戻されることを切に祈っております。

## 岡山支部

### 岡山県支部のこの10年間の足跡と震災への対応

近藤 康弘 (12期)

岡山県支部は2期の石田偉先生を筆頭に現在10名が地元で頑張っています。支部長は11期池田泰章先生、評議員を4期竹下信義先生そして専務理事を12期近藤が担当しています。

多くは開業医として活躍しておりますが、地元大学に在籍している会員もいて少ないなりに1年に一度は集まって賑やかに情報交換を行っています。会としてこの10年間の足跡をたどる資料として、一番頼りになるのは会計記録です。

いまから10年前、平成13年の記録をみるとこの年に歯周病学会が岡山で開催されたので、岩手から来られた当時の第二保存科教授「上野先生を囲む会」を開いていました。また、平成16年と20年の2回、岡山に来られた「箱崎先生を囲む会」も記録に残っていました。特に平成20年、箱崎先生は日歯副会長として来岡されたと記憶しています。このように、遠路岩手から岡山に来られた際に、岡山県支部会員が集い交流会を開く事を恒例としています。私事で

すが、私はサッカー部OBなのでサッカー部の大先輩である箱崎先生と立場を忘れ、全歯体で優勝した後の祝賀会の話しでかなり盛り上がったことを記憶しています。もう30年近く前の出来事です。その節には箱崎先生に大変お世話になった事、追加させて頂きます。

さて、勤務先の関係から多少の移動は10年間の中ではありましたが、10名程ですので特に支部として、会則と定まった会費を設けて活動はしていません。しかし、地元歯科医師会に同窓会組織として登録していることから、他大学同窓会とは同窓会単位で交流しています。地元では大阪歯科大学同窓会が最も大きな組織で、例年12月第一土曜日の例会には忘年会来賓として池田支部長と私が参加させて頂いています。

また、10年間の足跡として最も大きな出来事は、やはり岡山においても3月11日の震災ではなかったでしょうか。自然発生的に義援金を集める意見がでて来たので情報収集と共に義援金を集める事に致しました。この活動は現在も継続中です。またこの震災関連の情報を支部会員向けにお伝えする目的に、「岡山県支部たより」を第8報まで発行し、震災後の情報を共有する活動を行いました。特に、それぞれの期で構築されているメイリングシステムからの情報を集め、情報交換に活用させて頂きました。ま

た、地元岡山県歯科医師会を通して、災害派遣ボランティアに14期の橋本真治先生が自発的に参加してくれました。

岩手医科大学のホームページを拝見すると、現在岡山県出身の歯学部在校生が12名いるとの事。これから地元に戻って来られるかと思うと、まだまだ岡山県支部も期待が持てます。是非とも会員数目指せ20名と云いたい所です。岩手から遠く離れてはいますが、皆が集まればやはり盛岡での学生時代の話が卒後30年近く、いやそれ以上になっても出てきます。ということは、今後10年、20年経過してもこれはもはや変わり様がないことだと思います。また、岡山には津山市という城下町が県北部にあって、石田偉先生と13期藤田元英先生の地元です。ここは我々が大好きな街で、居酒屋「小次郎」といつも二次会で行く不思議なスナックが一番の人気コースです。

小さいながら和気あいあいとした岡山県支部ですが、これからは若い会員が増えて益々世代を超えて盛り上がる支部になることを期待して、「岡山県支部10年の足跡」のまとめと致します。最後になりましたが、第38回同窓会学術研修会講師を担当させて頂き、同窓会の役員の先生方を始め12期の方々に大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

## 徳島県支部【不來方会】

### 徳島県支部10年間の足跡

益 田 忠 幸 (12期)

20数年前、北岡（2期）秋田（9期）井上（10期）益田（12期）の4名にて、徳島県支部をスタートさせました。名称を南部藩のお城からもらい不來方会としました。徳島大学に歯学部が創設され、徳島大学主催の各学会が行われることが多くなり、遠く盛岡からお越しになる先生達と親睦を深めるために会を始めたと思われま。保存、補綴、口腔外科等、多くの先生達と盛岡の話をするのがすごく楽しく第2の故郷に思いを馳せる場になっております。学会が無いときは、新

年会か忘年会を年1回開き、近況報告等お酒を飲みながら、和気あいあいと行っております。

東日本大震災において

被災された皆様とご関係者様に謹んでお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧復興を願っております。

義援金として徳島県支部より岩手医科大歯学部同窓会宛に10万円、日本歯科医師会宛に徳島県歯科医師会経由で10万円を送金させていただきました。

# 平成22年度活動報告

## 庶務部

庶務部長  
佐藤 忠 朋

### 1. 事業

- 平成22年5月30日 第38回学術研修会
- 〃 7月24日・25日 第26回全国歯科大学  
学術担当者連絡会
- 〃 10月25日 広報第25号発行
- 〃 11月28日 第39回学術研修会

### 2. 会議

#### [理事会・評議員会・総会]

- 平成22年4月10日 会計監査
- 〃 〃 常任理事会
- 〃 〃 理事会
- 〃 〃 懇親会
- 〃 5月22日 支部長会
- 〃 〃 評議員会・総会
- 〃 〃 懇親会
- 〃 9月26日 常任理事会
- 〃 〃 理事会

#### 平成23年2月5日 常任理事会・新年会 [部会]

- 平成22年4月8日 学術連絡会作業部会
- 〃 5月13日 学術研修部会
- 〃 6月17日 学術連絡会作業部会
- 〃 6月25日 学術連絡会作業部会
- 〃 7月8日 学術研修部会
- 〃 7月15日 学術連絡会作業部会
- 〃 9月9日 学術研修部会
- 〃 10月7日 広報部HP打ち合わせ会
- 〃 11月11日 学術研修部会
- 平成23年1月13日 学術研修部会
- 〃 2月3日 学術研修部・広報部HP打  
ち合わせ会

### 3. 支部との交流

- 平成22年9月8日 東京都同窓会日歯代議員を  
囲む会（田中）
- 〃 10月14日 青陵会総会（城）

- 〃 11月6日 秋盛会創立30周年記念式典  
（城）

平成23年1月22日 岩手県同窓会新年会（城）

### 4. 他大学同窓会・日歯との交流

- 平成22年5月22日 東京歯科大学創立120周年  
記念式典（藤田、小塚、仙  
田）
- 〃 6月6日 西村まさみ支援総決起大会  
（城）
- 〃 9月18日 第57回全国歯科大学同窓・  
校友懇話会  
主管 北海道医療大学歯学  
部同窓会（城、星加）
- 〃 9月19日 12校会長会議ならびに日歯  
会長の時局講演会  
（城、星加、箱木、後藤）
- 〃 10月14日 西村まさみ議員を囲む会  
（田中）
- 〃 11月27日 愛知学院大学歯学部創立50  
周年記念式典（城）
- 平成23年2月11日 東京医科歯科大学歯科同窓  
会創立80周年記念式典  
（城）
- 〃 〃 12校会長会（城）
- 〃 3月4日 石井みどりを励ます会（城）

### 5. その他の交流

- 平成23年2月3日 新会員（41期生）との懇談会

## 会計部

会計部長  
村上 正 博

- ・国家試験合格率アップのための継続的學生支援
- ・大学の国試対策に協力した。
- ・平成23年度からの会費徴収方法の変更に関して、  
各支部長はじめ各会員に対してご理解を頂けるよ  
う務めた。
- ・会費支部一括納入について各支部にアンケート調

査を実施した。

## 広 報 部

広報部長  
三 善 潤

- 平成22年5月13日 学術研修部会との打合せ  
(広報部より出席)
- 平成22年10月7日 広報部打合せ会 開催
- 平成22年10月25日 広報第25号 発行(※)
- 平成23年1月24日 岩手医科大学歯学部同窓会  
HP公開
- 平成23年3月10日 ニュースレター 発行(※)
- 平成23年3月16日以降 東日本大震災対応とし  
て会員安否情報を提供
- (※)については、ダウンロードできるようにPDF  
ファイルを同窓会HP内の「同窓会員のページ」  
にアップ

## 学術研修部

学術研修部長  
中野 廣 一

### 第387回学術研修会

- 日 時 平成22年5月30日(日) 9:50~15:00
- 会 場 岩手県歯科医師会館8020プラザ5F
- 講 演 I. 10:00~11:50  
講師 近藤 康弘 先生  
(岡山大学歯学部臨床教授  
岡山県倉敷市開業)
- 演題 接着技術が補綴処置に必然な訳  
と成功に導く勘所  
—接着ブリッジ25年間の  
臨床経験から—
- II. ランチョンセミナー 12:00~12:50  
講師 齋藤 亮 先生  
(口腔保健育成学講座  
小児歯科学分野講師)
- 演題 乳歯外傷の対応について
- III. 13:00~15:00  
講師 横田 光正 先生  
(口腔外科学講座  
顎口腔外科学分野准教授)

演題 小手術の要点

参加人数 歯科医師71名、スタッフ12名、臨床研修  
医20名、学術研修部員17名 総計 120名

### 第39回学術研修会

- 日 時 平成22年11月28日(日) 9:50~15:00
- 会 場 岩手県歯科医師会館8020プラザ5F
- 講 演 I. 10:00~11:50 13:00~15:00  
講師 申 基喆 先生  
(明海大学歯学部口腔生物再生医工学講座  
歯周病学分野教授)
- 演題 歯周外科治療の臨床応用  
—フラップ手術から  
インプラント治療まで—
- II. ランチョンセミナー 12:00~12:50  
講師 大平 千之 先生  
(歯科補綴学講座  
冠橋義歯補綴学分野助教)
- 演題 CAD/CAMを用いたオールセ  
ラミッククラウンの製作法

参加人数 歯科医師80名、スタッフ17名、学生1  
名、学術研修部員21名 総計120名

○学術研修会カラー案内チラシ作成(2回)

○学術研修部会会議 5回開催

- 1) 平成22年5月13日(木) 19:00~20:30  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 2) 平成22年7月8日(木) 19:00~20:45  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 3) 平成22年9月9日(木) 19:00~20:40  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 4) 平成22年11月11日(木) 19:00~20:30  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 5) 平成23年1月13日(木) 19:00~21:00  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)

○学術研修部会のHPの維持、管理、および同窓会  
のHPに移行する準備を行った。

全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会  
(学術連絡会) 関連

・第26回学術連絡会準備会

開催日 平成22年1月24日(日)  
場 所 医歯薬出版会議室(東京都)  
参加者 米内正、中野廣一、塩山司、南館祐二、川嶋敏宏、千田弥栄子

・第26回学術連絡会

主管校 岩手医科大学歯学部同窓会  
開催日 平成22年7月24日(土) 15:00~18:00  
7月25日(日) 9:00~14:00  
場 所 ホテルメトロポリタン盛岡  
参加校 28校  
参加者数 72名

・学術連絡会開催の準備のため小委員会 6回開催

- 1) 平成21年8月5日(水) 19:00~21:30  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 2) 平成21年9月17日(木) 20:30~21:30  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 3) 平成22年1月19日(火) 20:00~21:30  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 4) 平成22年2月3日(水) 20:00~21:30  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 5) 平成22年2月24日(木) 19:45~21:00  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 6) 平成22年5月13日(木) 20:30~21:00  
(60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)

- 京) 藤田前会長、小塚、仙田出席  
6月6日 西村まさみ支援総決起大会(東京) 城会長出席  
9月18日 全歯懇(札幌) 城会長、星加出席  
9月8日 箱崎岩手県歯科医師会会長を囲む会(東京) 田中出席  
9月19日 12校会議(札幌) 城会長、星加、箱木、後藤出席  
10月14日 西村まさみ参議院議員を祝う会(東京) 田中出席  
11月27日 愛知学院大学歯学部創立50周年記念式典(名古屋) 城会長出席

平成23年

- 2月11日 東京医科歯科大学歯学部同窓会創立80周年記念式典(東京) 城会長出席  
2月11日 12校会長会(東京) 城会長出席  
3月4日 石井みどりを励ます会(東京) 城会長出席

## 事務管理部

事務管理部長  
星 加 修 一

庶務部と協力の上、事務伝達、事務処理を行った。

理事会メーリングリストを構築し、理事・常任理事の意思疎通の円滑化を図った。

本会の事務全般の記録、会議の資料の作成、保管を行い圭陵会会報への会務報告の掲載を行った。

## 渉 外 部

渉外部長  
田 中 英 一

平成22年

5月22日 東京歯科大学創立120周年記念式典(東

## 第26回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会 報告

平成22年7月24日・25日の両日、岩手医科大学歯学部同窓会が主管校となり第26回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会が開催された。

連絡会会議の要旨は以下の通り（文中氏名 敬称略）：

日 時：平成22年7月24日（土）、25日（日）

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡

参 加 校：北海道大学・北海道医療大学・東北大学・奥羽大学・明海大学・日本大学松戸歯学部・東京歯科大学・東京医科歯科大学・日本歯科大学・日本大学・昭和大学・神奈川歯科大学・鶴見大学・松本歯科大学・新潟大学・朝日大学・愛知学院大学・大阪大学・大阪歯科大学・岡山大学・広島大学・徳島大学・九州大学・九州歯科大学・福岡歯科大学・長崎大学・鹿児島大学・岩手医科大学の合計28校

参加者数：72名

□1日目 日時：平成22年7月24日（土）15：00～18：30

司会進行：岩手医大 中野 廣一

### 1. 資料確認

### 2. 議長選出

岩手医大 米内 正

### 3. 報告事項

#### 1) 連絡網の確認およびHP関連報告

明海大学 林 功

- ・今までのHPは平成22年1月31日に廃止しブログ形式に変更し、経費節減できた
- ・新しい学術連絡会ブログ (<http://gakujutsurenrakukai.blogspot.com/>) は、Googleやyahooでも検索可能。日本歯科医師会HPの学術からも入れる

#### 2) 歯科外来診療環境体制加算（外来環）の施設基準について

##### (1) 東京歯科大学 加藤 賢祐

- ・平成20年5月9日の疑義解釈では同窓会の学術活動はこの件を認めないと記されているが厚生労働省に認めてもらえるように再度要望してはいかがか

##### (2) 東京歯科大学 宮地 建夫

- ・平成22年3月に日本歯科医師会大久保会長に要望書を提出し、厚労省への連絡を求めた
- ・中央社会保険医療協議会（中医協）での保険改正の時に一緒に話をしたほうが良い
- ・今後も要望書を出していく予定

#### 3) 第25回学術連絡会会議および収支等の報告

鶴見大学 團 智子

### 4. 議題

#### 1) 会計報告承認、監査報告

##### (1) 会計報告承認について

北海道医療大学 石野 善男

##### (2) 監査報告

鶴見大学 團 智子

岩手医大 中野 廣一

#### 2) 申し合わせ事項文書修正について

岩手医大 中野 廣一

「申し合わせ事項文書」の用語を統一し、整合性を図るため修正案を提示した。

①「主幹校」を「主管校」に修正

②「世話人会」を「準備会」に変更

- ③第7項の「本会の経費は、各校の年会費、その他をもってこれにあてる。」の「その他」には前回会議での余剰金も入れる
- ④議決に関するルールの第1項、「まず協議題で連絡会議に提出し、当日協議を行う」の「連絡会議」を「準備会」に変更
- ⑤附則の「本会は年2回程度の会議をもつ」を「本会は年1回程度の会議をもつ」に変更
- 3) 第27回、第28回主管校について
  - ・第27回主管校は愛知学院大学、開催日時は平成23年8月20日(土)・21日(日)、会場は名古屋ガーデンパレス
  - ・第28回主管校は、鹿児島大学と長崎大学の共催
- 4) 会計監査の方法について 北海道医療大学 石野 善男
  - ・連絡会本会計の監査を現在の前主管校、主管校の2校各1名に加え、次回から次回主管校の1名を加えた3名で行なう案が上程され、承認された

## 5. 協議題

### 1) 「学術連絡会の変遷と今後の方向づけ」

#### (1) 東京歯科大学 宮地 建夫

- ・1991年9月 日歯会誌座談会「同窓会主催の卒後研修を語る」が開かれ、結論として「全国に広げよう卒後研修の輪」となったことがそもそもの始まり
- ・1993年5月 第20回全国歯科大学同窓・校友会懇話会(全歯懇)シンポジウム「卒直後の研修について」において、情報交換のためのネットワークづくりが必要であるとの結論に達した
- ・1996年 準備会  
卒直後研修の話題、90年代の大学教育革命。教養課程の弱体化による「リベラルアーツの危機」が起こっている。そのため臨床経過を疑似体験したうえでのグループディスカッションとリベラルアーツの補強が必要である
- ・1997年2月 学術連絡会の発足
- ・2010年3月5日 日歯広報「臨床研修医から生涯研修は始まる」という意識  
3月17日 協議会に向けてのヒヤリング  
3月20日 歯科医学教育学会 卒直後から生涯研修への橋渡し
- ・2010年6月 日歯広報 臨床研修に「連携型」を追加。臨床研修を行う分野に関して、豊富な症例を待ち、効果的な臨床検討のディスカッション(チュートリアル)が必要
- ・2011年7月 第58回全歯懇、学術連絡会のパワーをお借りしお願いしたい  
全歯懇で連絡会の名前を使いたい

#### (2) 東京医科歯科大学 柏田 聡明

- ・1997年2月2日第1回全国歯科大学同窓・校友会学術連絡者会議が全国29校から集まり開催された
- ・初めは各大学で温度差が感じられたが、徐々に近づいて行った
- ・日歯や全歯懇に束縛することなく、政治を抜きにした学術担当者間の情報交換をする場にした
- ・これからの歯科界を心配したり触知したりする場であり、役員を外れても参加できるようにしたい
- ・これまでのテーマ 無料招待制度、EBM
- ・学術連絡会の方向づけ

### 1. 良質の歯科医師を育てる

- ・生涯研修の企画は、学生臨床実習→臨床研修→生涯研修の流れを考慮して決める
- ・同窓会学術部として部員は大学の臨床研修または協力型研修へ積極的に参加する

2. 他の組織との連携、協議に参加する（日歯、厚労省、文科省、全歯懇）
3. このような状況から学術連絡会に関して会の代表を置くことを提案したい

□ 2日目 日時：7月25日（日）9：00～14：00

司会進行：岩手医大 塩山 司

1. 議題

- 2) 申し合わせ事項文書修正について 大阪大学 高山 佳久

2. 協議題

2) 「ハンズオンセミナーの実状と将来展望」

- (1) 事前アンケート集計結果報告 岩手医大 東海林 理

(2) 3大学からの発表

① 東京医科歯科大学 斎藤 馨

- ・実習コースはドクターのスキルを磨く上でとても重要、基礎コースは定期的に行うべきである

② 東京歯科大学 宮地 建夫

- ・ベーシックセミナーは知識の統合化や基本知識を習得する場
- ・臨床の基本は患者観察、記録、症例発表
- ・長老は経過の見方やリスク予測→先輩は患者の見方や総合的視野→若手の学術委員は卒後10～15年（チューター）→臨床研修医や受講生に教える体制が出来ている

③ 大阪大学 尾上 好申

- ・年2～3回の学術研修会を開催している
- ・遠いため会場に来ることができない先生にはオンデマンド配信の登録をしてもらうと自宅でも見ることが可能になる

大阪大学 谷口 学

- ・臨床談話会 1回/月、独立講演会 3回/年、学術研修会 3回/年開催している

(3) 他大学からの追加発表

① 明海大学 林 功

- ・7回コース（1～6回目講義、7回目実習）1テーブル4名で、40名（インストラクター7名）

② 愛知学院大学 須崎 明

- ・1日コースで講義の後実習を開催している
- ・今後は解剖学実習、1年かけて連続網羅的な実習、衛生士や臨床研修医の実習の充実をはかりたい

③ 九州歯科大学 立和名靖彦

- ・学術講演会、生涯研修セミナー（1～1.5日の講演と実習）、基礎臨床セミナーを開催している  
（学術研修部 24期卒 菊池 和子）



## 第27回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会準備会 報告

日 時：平成23年4月3日（日）13：00～15：00

場 所：愛知学院大学歯学部楠元学舎 第3会議室

参 加 校：北海道医療大学・岩手医科大学・東北大学・明海大学・東京歯科大学・東京医科歯科大学・日本歯科大学・松本歯科大学・朝日大学・大阪大学・長崎大学・鹿児島大学・愛知学院大学の合計13校

参加者数：23名（岩手医科大学歯学部同窓会からは梶村幸市学術研修部員が参加）

第27回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会の日程確認

日 時：平成23年8月20日（土）13：30～18：00

21日（日）9：00～12：00

会 場：名古屋ガーデンパレスホテル

### 1. 資料確認 紙資料（FC1アップ済）とDVD2枚

### 2. 報告事項

#### 報告1 連絡網の確認およびHP関連報告

本会にて明海大学 林 功先生が報告予定

#### 報告2 第26回学術連絡会会議及び収支等の報告

岩手医科大学 梶村幸市より会議内容および引き継ぎ事項について報告。収支に関しては本会にて報告予定。

### 3. 引き継ぎ事項・議題の確認

#### 議題1 会計報告承認について

本日会計報告はないが会議当日に監査、会計報告、承認をいただきたい  
監査は3校で行う（岩手医科大学、鹿児島大学或は長崎大学、愛知学院大学）

#### 議題2 申合せ事項文書確認について

26回で提示検討された変更点などを今回議題に上げる

#### 議題3 第28回主管校について 鹿児島大学、長崎大学で内諾頂けたので議題へ

第29回主管校について 朝日大学で内諾頂けたので議題へ

### 4. 協議議題の確認

#### 協議議題1 歯科外来診療環境体制加算の施設基準について

東京歯科大学 加藤賢祐先生より現在の所進展は無いが本会までに再度確認する

### 5. ディスカッション

「今後の生涯研修の進むべき方向とは一日本の歯科医療の変遷と展望から」

\*趣旨説明 愛知学院大学 増田浩男先生

\*ディスカッション 愛知学院大学 須崎 明先生

過去の歴史の再認識とこれから将来の歯科医療のあり方をディスカッションしたい。

歯科医療の目的を、「歯の治療」だけでなく、「歯と口の機能」を維持・改善するとことし、ライフステージにあわせて、若い世代にはcureからcareの理念を徹底させていく。

また今まで受診率が低かった高齢者に関しては、特に「食べる幸せ」を患者さんに再度感じていただき、生活の医療としての歯科の役割の再確認と、経管栄養や胃瘻を極力減らし「食べる」ということの重要性をもっと訴えていき、歯科の担当領域の拡大を図るべきである。これからの高齢化社会においては歯科の分野

を、「生きる力を支える生活の医療」とするべきではないだろうか（参考：日本歯科医師会 生きがいを支える国民歯科会議 提言）。

摂食嚥下訓練など本来ならば、歯科医師の領域であるべきであるが、看護師、介護士など医科のスタッフが対応している。我々自らが歯科領域を狭めてしまっているのではないか。

2日目（8月21日）

受講費徴収システムについて（各20分）

司会・進行（愛知学院大学歯学部：山中康寛先生）

発表

- ・コンビニ支払い決済の現状と問題点（仮題）（東京医科歯科大学：斉藤馨先生）
- ・ペーパーレス決済サービスへの取り組み（仮題）（大阪大学歯学部：谷口学先生）
- ・サイトリンクによるクレジットカード決済への取り組み（愛知学院大学歯学部：後藤洋先生）

当日はシステムエンジニアやクレジットカード決済の専門家も同席し、様々な質問に対応できるようにする予定

（学術研修部 20期卒 梶村 幸市）

## 12校会長会議

平成23年2月11日（金）11時より八重洲倶楽部において、東京医科歯科大学の80周年記念式典・講演・祝賀会に先立って開かれた。主な協議事項は以下のとおりである。

- (1) 全歯懇の在り方について、各大学から意見聴取を行った。各校それぞれスタンスが異なることから意見の集約が困難であること、今後も意見交換を行い、12校会議が今後とも全歯懇の一員として提言していくことの確認があった。
- (2) 「石井みどりを励ます会」について、鶴見大学同窓会・村田会長より開催案内と参加協力の要請があった。

（文責 城 茂治）

## 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会 参加報告

日 時：平成23年7月23日（土）正午～17時45分

場 所：東京ドームホテル B1オーロラ

当番校：東京歯科大学同窓会

参加者：城会長、田中副会長、神垣理事（東京都支部会長）の3名

東京歯科大学同窓会副会長の片倉恵男先生の開会の辞で幕開けされ、続いて同会長の大山萬夫先生から当番校としての歓迎の挨拶が行われた。さらに大久保満男日本歯科医師会会長、浅野紀元東京都歯科医師会会長、井出吉信東京歯科大学学長らが来賓の挨拶をされた。

続いて、東京歯科大学同窓会副会長の宮地建夫先生の司会のもと東京歯科大学副学長の石井拓男先生から歯科医師臨床研修制度を中心に現在の歯科にまつわる課題について講演いただいた。さらに宮地先生より、特に今後の歯科医師臨床研修制度に関する問題提起をいただき、また若手歯科医師を同窓会としてどのように支援すべきかについて日本歯科医師会常務理事で学術担当の中島信也先生からご意見をいただいた。

次の議題として、全歯懇の今後の在り方について、アンケートの結果が報告された。これに基づき、意見交換されたが、多くの大学は、団体としての機能を持つよりは情報交換の場として年1回の開催が適切であるとの意見であった。また、この機会を利用して東日本大震災への全国からの支援に対して本学、奥羽大学、東北大学の同窓会から感謝の意を述べた。

最後に、次次期当番校として、鶴見大学歯学部同窓会が選ばれ、次期当番校である日本大学歯学部同窓会の挨拶で閉められた。

続いて、同ホテルシンシアの間にて、懇親会が開催された。

（文責 城 茂治）

## 臨時12校会長懇談会参加報告

日 時：平成23年7月22日（金）午後7時より

場 所：東京都市センターホテル

参加者：神垣理事（6期卒）

議題 今後の12校会議の活動について

意見交換がなされ、今後とも12校が一致団結して活動を続けることを確認した。その後、今回で会長を退かれる北海道医療大学歯学部同窓会会長（藤井健男先生から蓑輪隆宏先生へ交代）、奥羽大学歯学部同窓会会長（岡伸二先生から板倉正大先生へ交代）の送別を兼ねて懇親会がもたれた。

（文責 城 茂治）

## 「歯周外科治療の臨床応用

### —フラップ手術からインプラント治療まで—

講師：申 基喆 先生

(明海大学歯学部口腔生物再生医工学講座歯周病学分野教授)



ご講演は、中等度以上の歯周病患者に対する歯周外科的対応、ならびに歯周病患者に対するインプラント治療の2つのセクションに分けてお話頂きました。全体を通して、適切な患者教育とメンテナンスの重要性を強調されており、そのために審美領域への対応や咬合機能の十分な回復、清掃性への対応が不可欠であることを述べられていました。以下にその要点を挙げます。

#### 1. 歯周治療の目的

- ①炎症の除去
- ②歯周ポケットや骨欠損の除去
- ③プラークコントロールの用意な口腔環境の整備
- ④歯周疾患再発予防のための患者教育

感染源の除去が原則であり、さらに患者教育が最も重要である。歯周病の進行速度（歯周組織の破壊）は個体差があり、病態が進行したケースでは、原因除去療法や通常の補綴方法では対応できず、歯周外科的対応さらにはインプラント治療も有効となる。

#### 2. 歯周ポケット除去を目的としたフラップ手術

切除療法と再生療法の二つに分類される。どちらを選択するかは、

- ・支持骨の切除量
- ・骨内欠損の形態と大きさ
- ・処置後の歯冠・歯根比
- ・術後の審美性
- ・術者のスキル（予知性の高さ）
- ・費用

を考慮して決定する。

#### 3. フラップデザインの分類

フラップデザインは以下の3つの要素によって構成され、これらを患者の状態に応じて選択していく（フラップマネジメント）。

- ・フラップを剥離したときの骨露出の有無による分類
  - 全層弁～骨の処置が必要な場合に用いる。術後に骨吸収が生じるため、骨が薄い場合は歯根露出を生じるため適応には注意が必要。
  - 部分層弁～骨欠損が無い場合や骨形態を修正する必要がない場合に用いる。テクニク的に困難であるため、適応には歯肉の厚みに左右される。
- ・術後のフラップの位置による分類
  - 非移動弁～フラップを元の位置に戻す。改良型ウイドマン法に代表され、厳密にはポケット除去術では

なく、明視野と器具の到達性を得るためだけであり、アクセスフラップとも呼ばれる。

移動弁～フラップを根尖側、歯冠側もしくは側方に移動する。移動する方向によって術式の性質が変わってくる。

・歯間乳頭の保存による分類

通常のフラップ～歯肉を頬側と舌側に切り分けるため、審美性を考慮する上で重要な歯間乳頭が切除される。

歯間乳頭保存型フラップ

4. フラップデザインの適応基準

- ①歯周ポケットの深さ（歯周ポケット底部BPの位置）
- ①非可動性角化組織の有無（歯肉歯槽粘膜境MGJの位置）
- ②BPとMGJの位置関係
- ③審美的配慮の有無

BPより根尖側にMGJがある場合、BPと同じ高さにある歯肉外面から内斜切開（一次切開）を根尖方向に加え、次に歯肉溝切開（二次切開）を加えてから歯間部に水平切開（三次切開）を行う。これにより短いフラップが作製され、フラップを戻すと先端が骨頂部の高さに適合し、歯周ポケットの除去ができる。

BPがMGJを超えている場合、歯肉弁根尖側移動術が適応であり、歯肉辺縁から0.5～1.0mm離れたところに内斜切開（一次切開）を加え、できるだけ角化歯肉を温存する。次に歯肉溝切開（二次切開）を加える。フラップは骨欠損がある場合は全層弁とするが、基本的に部分層弁とし、フラップの先端を骨頂部など術者の意図した位置に移動させて縫合する。

5. 歯周病患者へのインプラント治療の意義

- ①口腔機能の回復 違和感のない固定性補綴
- ②残存歯や周囲歯周組織の保全 残存歯への負担軽減、咬合関係の改善
- ③可能な限りの審美改善
- ④矯正治療のための固定源（インプラントアンカー）

6. 歯周病患者におけるインプラント治療に対するリスクとその対応

- ①歯周病罹患歯からインプラントへの交叉感染
  - 歯周ポケット内細菌叢の改善
- ②プラークコントロール悪化の可能性
  - 歯周ポケットの減少と骨内欠損の除去、継続的なメンテナンス
- ③歯冠歯根比の悪化（インプラントへの負担過重）
  - 咬合の安定化
- ④清掃性や審美性の低下
  - 骨や歯肉歯槽粘膜に起因した問題の改善

（学術研修部 16期 遠藤 義樹）



## CAD/CAMを用いたオールセラミッククラウンの製作法

講師：大平 千之 先生

(岩手医科大学歯学部 歯科補綴学講座 冠橋義歯補綴学分野助教)



近年、価値観の多様化する社会のニーズに応えるべく審美性を重視した治療法の選択肢が広がっている。外観に触れる前歯、小白歯のみならず、大白歯においても金属色を用いることに対して患者さんが抵抗感を示す傾向が強くなっており、歯冠補綴あるいは欠損歯列の補綴において、オールセラミッククラウンが自然観のある天然歯の色調構築に加え、十分な機械的強度を有する補綴装置として定着し、応用範囲も拡大されている。

1990年代に入り登場したオールセラミッククラウンの主な製作法としては、耐火模型法、鋳造法 (Castable)、加熱加圧成型法、CAD/CAM (Computer Aided Design/Computer Aided Manufacturing) が挙げられる。

近年、オールセラミッククラウンの応用範囲の広がりと共に技工操作に要する時間の短縮化、製作過程の簡略化が望まれ、各種製作法のなかでCAD/CAMシステムが浸透しつつある。

CAD/CAMシステムは、コンピューター支援による設計・製作システムであり、歯科分野では80年代後半から補綴装置の作製に用いられている。また、既製のセラミックブロックを用いることにより安定した物性が得られ、加熱によるセラミックの変形が少ないことが特徴といえる。

実際の製作は、支台歯の計測から開始される。計測方法には、支台形態ならびに周囲歯列の形状データを作業模型から得る方法と口腔内を直接光学印象する方法がある。作業模型からデータを採得する方法では、タッチプローブを用いる接触方式とCCD、レーザーを利用した非接触方式がある。タッチプローブを用いる接触方式では、精密な計測が可能であるが、計測時間やプローブ先端の形状で歯頸部辺縁の測定が困難な場合がある。一方、CCDとレーザーを利用した非接触方式は、高速で支台歯を計測することが可能であり、現在多くの装置で採用されている。

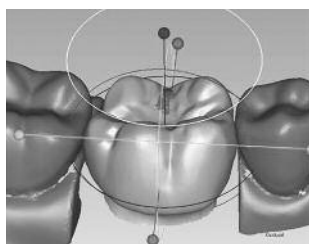
設計に際しては、数値化された支台歯および隣在歯の計測データをもとに、コンピューター上で設計される。

設計データを元にCAM部で行う加工法には、セラミックコーピングを製作後、コーピング上に歯冠色セラミックを築成・焼成し色調構築を行う方法 (コーピング型) とセラミックブロックを切削・加工し歯冠形態までを完成させる方法 (クラウン型) の2通りの方法がある。いずれの方法も、製作過程を短縮化することが可能であるが、オールセラミッククラウンを合理的に生体に調和させるシステムとしては、クラウン型CAD/CAMが有効であると考えられる。

また、歯冠色はセラミックブロックの色調に依存するため、歯列に調和した色調を構築するためにはセラミックブロック本体が天然歯と近似した色調を有することが重要であり、セラミックブロックやレジンセメントの選択等のカラーマネージメントが重要である。

近年、測色装置の精度および操作性の向上により口腔内という特殊な環境においても半透明体である歯冠の微小部位を精度よく測色することが可能となっている。今後、色彩情報の評価・伝達・構築を客観的、迅速、かつ正確に実践するためには、測色装置を用い色調を定量化することが必須となることが考えられる。

(演者自抄 28期 大平 千之)



### 「有病者の歯科診療に必要な内科疾患診療の最新の進歩」

講師：中居 賢司 先生  
(岩手医科大学総合歯科学講座歯科内科分野教授)



はじめに

2007年「国民衛生の動向」による人口動態統計では、疾病構造は大きく変化してきている。悪性新生物、心疾患、脳血管疾患が半数を占め、生活習慣の欧米化による動脈硬化性を基盤とする疾患（心筋梗塞症、脳血管疾患、死的不整脈など）が増加している。心臓疾患や脳血管疾患など循環器領域でも新たな抗凝固療法や抗血小板療法、冠動脈ステント、致死的不整脈例や心不全例への植込み型電子機器など治療法が導入されている。また、感染性心内膜炎に及ぼす口腔内手技の影響、脳血管疾患や急性冠症候群や切迫流産に及ぼす歯周病の最近の知見をみると、口腔領域と全身疾患の関連はより重要となりつつあり。基礎医学研究でも分子生物学や再生医療を主体とする生命科学研究にシフトしており、多くの研究は「歯学」といった枠組にとどまらない。今後、医・歯学部の間連携による患者中心の全人医療の構築など、パラダイムシフトが望まれる。

本研修会での講演内容を以下に概説する。

#### 1. 有病者の歯科診療に必要な内科疾患診療の最新の進歩。

##### 1. 歯科診療時の内科救急—アテローム性冠動脈疾患、致死的不整脈、重症心不全

アテローム性冠動脈硬化症治療の基本は、生活習慣病（高血圧症、高脂質血症、糖尿病、肥満）の改善にある。中世のサレルノ養生訓は、現代にも通じる生活習慣での戒めである。気苦勞を背負い込まない、烈火のごとく怒るな、ワインの痛飲は止め、晩餐は軽くとりなさい。三つの習慣があなたの医師代わりとなると書かれてある（サレルノ養生訓 11世紀）。

近年、冠動脈疾患の侵襲的治療として、カテーテルを用いた薬物溶出性ステント（DES）が用いられている（Fig 1）。冠動脈疾患インターベンション治療ガイドライン<sup>1)</sup>では、DES症例にアセチルサリチル酸（アスピリン）とADP（アデノシン二リン酸）受容体が誘導する血小板凝集を特異的に抑制するチエノピリジン系薬剤（プラビックス）の併用が推奨されており、歯科治療の止血際には難渋することも想定される。

米国での院外での心臓突然死は年間約25万人、日本での心臓突然死は約5万人と報告されている。心臓突然死の多くは、アテローム性冠動脈硬化症（Fig 2）に伴う心筋梗塞、心不全、高血圧症、弁膜症などの心疾患が基盤にある。“心臓突然死”遭遇時の心電図として心室細動が約7割を占める。心室細動は、除細動により洞調律への復帰、救命が可能である。典型的な心電図をFig 3に示す。心筋梗塞症はアテローム硬化性脳梗塞と異なり、致命的な運動機能障害を残すことは少なく、就業も可能である。体外式自動除細動器（AED）が威力を発揮することはいうまでもなく、医療機関や公共施設での設置は必須である。

心肺停止や心室細動より救命された患者で、明らかな致死的不整脈の再発が予想される患者では、植込み型除細動器（ICD）（Fig 4）の適応が不整脈の非薬物治療ガイドライ<sup>2)</sup>からも推奨されている。また、心室内伝導障害を有する重症心不全患者では、両心室ペースメーカーによる心臓再同期療法（Cardiac Resynchronization Therapy: CRT）が行われている。これらの植込み型電子機器の装着は、年間数千件にも達しており、歯科医療機関受診も増加しつつあり。これら埋込み型電子機器症例での、レーザーメス、電氣的根管長測定器・歯髓診断器、超音波発生装置の使用は、原則、禁忌である。今後、埋込み型電子機器の装着例での歯科診療機器の安全性に関するガイドラインの確立は急務である。

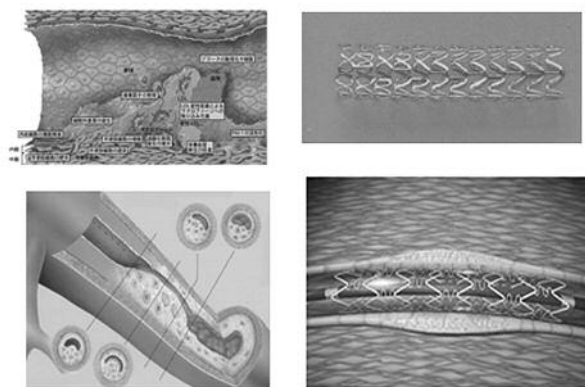


Fig 1

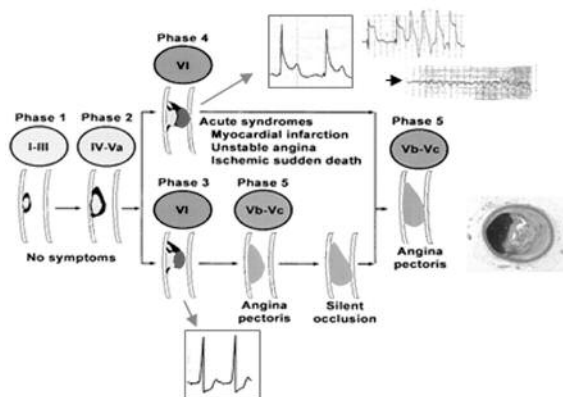


Fig 2. アテローム性冠動脈病変と急性冠症候群の病態

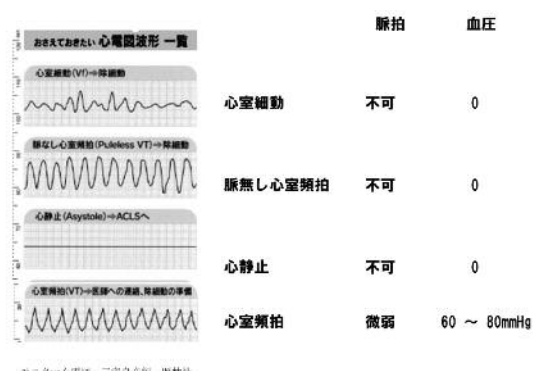


Fig 3. 覚えておきたい心電図と脈拍・血圧の関係

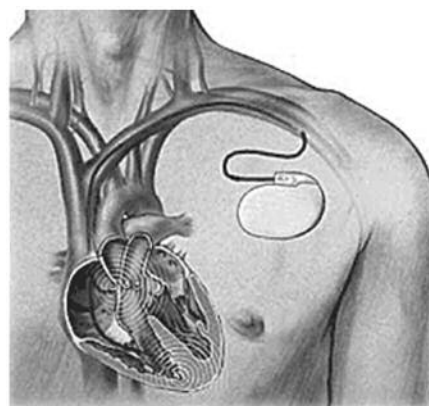


Fig 4. 植込み型除細動器

Fig 3. 覚えておきたい心電図と脈拍・血圧の関係

## 2. ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞と抗血小板療法

一般的に、ラクナ梗塞は脳内の細い動脈の閉塞、アテローム性血栓性脳梗塞は頸動脈などの太い血管の閉塞である (Fig 5)。近年、高コレステロールや糖尿病の増加に伴い、アテローム性血栓性脳梗塞は増加してきている。医師・歯科医師にとっても、脳血管疾患（脳梗塞、脳出血）は日常診療の遂行に支障をきたす疾患であることは言うまでもない。アテローム性血栓性脳梗塞の初期には視野異常、言語障害、運動障害や平衡障害などの一性脳虚血発作（TIA）の症状が見られることも少なくない。近年の脳血管領域でのCT、MR、血管エコー図による医療機器の進歩は目覚しく、頸動脈硬化や脳動脈瘤などの血管病変や無症候性脳梗塞の診断は正確になされる。しかし、“医師・歯科医師”には、“不養生”“偏見”が稀ではなく、一般患者のように直ちに病院を受診しないため初期のゴールデンタイムを見過ごすことも少なくない。ちなみに、脳梗塞の急性期治療として、発症早期にはリコンビナント・プラスミノゲン・アクチベーター（rt-PA）が有効な例も報告されている。治療効果は、発症から治療開始までの数時間が鍵を握っているといっても過言ではない。アテローム性血栓性脳梗塞診療ガイドライン<sup>3)</sup>では、冠動脈疾患DES症例と同様にアスピリンとチエノピリジン系薬剤（プラビックス）の併用が推奨されており、歯科治療の際には留意を要する。

## 3. 心房細動による抗凝固療法

高齢化に伴い心房細動は増加している。心房細動は血栓塞栓性脳梗塞の代表例である。心臓弁膜症の患者や心房細動例では、ワルファリンを中心とする抗凝固療法が主体となる。ワルファリンの開発は、1920年代にカナダで発見された牛のスイートクローバー病に端を発する。血液凝固因子うちビタミンK依存性の第II因子（プロトロンビン）、第VII因子、第IX因子、第X因子の合成抑制により、プロトロンビンの活性低下



(PT-INR延長)をきたす。抗凝固療法ガイドラインでは、多くの場合、PT-INR値“2”を目標としてワルファリン投与が推奨されている。ワルファリンの薬剤代謝には個人差があり、遺伝的因子の解析に伴う個別化医療が導入されつつある<sup>4)</sup>。ワルファリン100回につき1回の割合で血栓塞栓症が発症することより、抗凝固療法ガイドライン<sup>5)</sup>ではPT-INR 2~4であればワルファリン継続化に抜歯や小手術を行うことが推奨されている(レベルIIa)。現在、新しい抗凝固薬として抗トロンビン薬—プラザキサ(一般名ダビガトラン)が臨床導入されているが、抗凝固能モニター検査が確立されてなく、今後、歯科治療でも問題となる。

#### 4. 口腔内治療と感染性心内膜炎予防ガイドライン

感染性心内膜炎は、発熱、有痛性のオスラー結節、頭蓋内出血などによる運動障害、難治性の心不全をきたし、外科的治療が必要となる心疾患である。多くの観血的歯科治療手技は、緑色連鎖球菌、黄色ブドウ球菌による感染性心内膜炎の誘因となり得る。感染性心内膜炎予防に関しては多々議論はあるものの、人工弁装着例、チアノーゼを有する先天性心疾患(ファロー四徴症など)では、原因菌(緑色連鎖球菌・ブドウ球菌)に感受性のあるペニシリン系抗生物質の使用が推奨されている(JACC 2008; 52:676-685—Class IIa)<sup>6)</sup>。

#### 6. 高血圧症と降圧剤の進歩

日本高血圧学会では、起床後1時間以内(排尿後、服薬前、朝食前の安静時)と就床前の安静時の家庭内血圧測定を推奨している。家庭血圧が125/75 mmHg未満であれば正常血圧とし、135/85 mmHg以上であれば治療の対象としている。高血圧症の治療の目的は、脳血管疾患、心不全、慢性腎臓病(CKD)、大動脈疾患、高血圧性網膜症などの臓器障害・心血管病の予防である。現在、個々の症例の臓器障害予防目的に合わせて、種々の降圧薬の組合せが提唱されている(Fig 6)<sup>7)</sup>。

#### 7. 糖尿病性腎症と腎透析例の問題点

糖尿病は大血管障害(心臓、脳血管、腎臓)の重要なリスクの1つである。世界共通の課題として、大血管障害を減少させるための適切な血糖管理とスクリーニング法が推進されている。HbA1cの国際標準化と診断基準への取り入れと食後高血糖の管理が提唱されている。近年の大規模臨床研究で厳格な血糖管理による大血管障害や死亡率の低下は実証されておらず、今後の課題である。<sup>8)</sup> 2008年末の調査で日本の透析人口は283,421人で、透析導入症例の原疾患の43.3%は糖尿病性腎症である。また、腎透析では、活性型ビタミンD低下による骨そしょう症、冠動脈硬化疾患の合併などがあり、歯科治療で難渋する疾患の1つである。

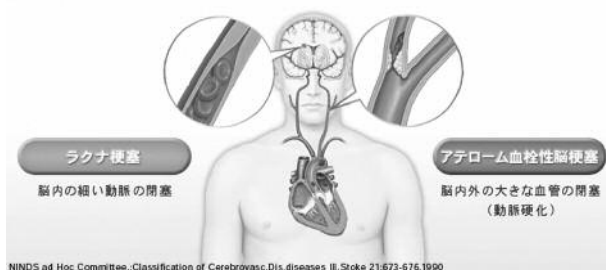


Fig 5. ラクナ梗塞とアテローム血栓性脳梗塞 (Stroke 21:673-676, 1990より引用)

#### II. 高分解能心電計(DREAM-ECG)の開発の経緯

われわれの最新の研究成果について紹介する。1903年、Einthovenが開発した心電計の原理は、弦線(銀線)を用いた検流計である。本来、心臓内の電氣的現象は、細胞内でのイオンチャンネルの活動に基づく“電流”の変化を反映している。標準12誘導心電図では、心電図QTS-TベクトルおよびST-Tの経時的変化より、経験的に“逆問題”として心筋虚血や心筋傷害

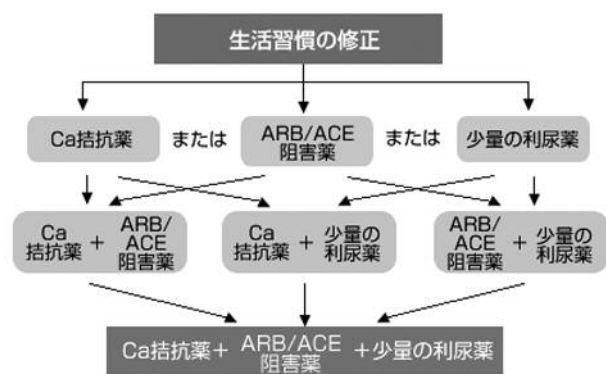


Fig 6. 高血圧治療ガイドライン(日本高血圧学会)

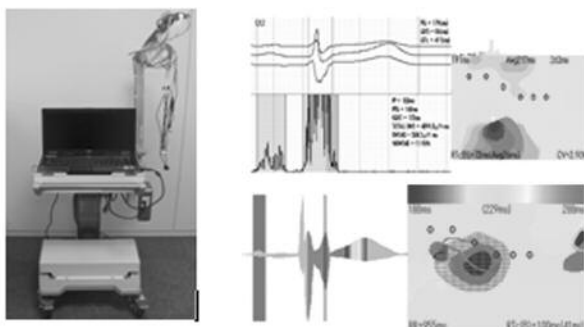


Fig 7. 高分解能心電計 (DREAM-ECG)

(梗塞) を診断している。われわれは、Frankのvector-projection theoryを基盤として、新たにベクトル合成187ch高増幅・高分解能の多機能解析心電計 (187ch DREAM-ECG) を開発した。187ch DREAM-ECGでは、心拍変動解析、心室再分極機能図 (RTc dispersion map)、高周波微小電位 (心室遅延電位) の空間分布の解析が可能である (Fig 7)。187ch DREAM-ECGによる臨床応用として、梗塞心筋、睡眠時無呼吸のスクリーニング、化学療法による心筋障害、致死的不整脈のリスクやQT延長例での薬物有効性の評価が可能である。<sup>8, 9)</sup>

終わりに

少子・高齢化社会を迎えて疾病構造は変化しつつあり、医科の診断・治療技術の進歩は目覚ましい。岩手医科大学が医・歯・薬学の医系総合大学を目指す折、診療・研究ともに医学—歯学の連携は重要な課題である。本日、歯学部同窓会学術研修会で「歯科診療に必要な循環器疾患診療の最新の進歩」について講演する機会を与えられたことに感謝申し上げる。

参考文献

1. 冠動脈疾患におけるインターベンション治療の適応ガイドライン  
[http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2000\\_fujiwara\\_d.pdf](http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2000_fujiwara_d.pdf)
2. 不整脈の非薬物治療ガイドライン  
[http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2006\\_kasanuki\\_d.pdf](http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2006_kasanuki_d.pdf)
3. 脳卒中治療ガイドライン  
<http://www.jsts.gr.jp/jss08.html>
4. Miyagata Y, Nakai K, Sugiyama Y. Clinical Significance of Combined CYP2C9 and VKORC1 Genotypes in Japanese Patients Requiring Warfarin. *Int Heart J* 52:44-9, 2011
5. 循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン  
[http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2004\\_kasanuki\\_h.pdf](http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2004_kasanuki_h.pdf)
6. 感染性心内膜炎ガイドライン  
<http://content.onlinejacc.org/cgi/content/full/j.jacc.2008.05.008v1>
7. 高血圧治療ガイドライン (日本高血圧学会)  
[http://www.jhf.or.jp/a&s\\_info/guideline/kouketuatu.html](http://www.jhf.or.jp/a&s_info/guideline/kouketuatu.html)
8. 科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン  
日本糖尿病学会編：改訂第2版. 南江堂. 東京. 2007
9. Nakai K, et al. *Int Heart J* 2007; 48:701-13.  
<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/18160762>
9. Nakai K, et al. *Int Heart J* 2008; 49:153-64.  
<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/18160762>

## 歯内・歯周疾患を“科学”する

講師：成石 浩司

(岩手医科大学歯学部口腔機能保存学講座歯内療法学分野准教授)



1. 歯周病って、どんな病気？
2. 大学人として、“歯周病”に挑む！
3. 広めよう！ペリオドンタル・メディシン
4. 歯内療法 —西と東—

忘れもしない3月11日の東日本大震災の爪痕が残る折にもかかわらず、第40回岩手医科大学歯学部同窓会学術研修会にご参集いただきました皆様方、そして関係の先生方に、まずは御礼申し上げます。

歯内・歯周疾患は、その治療法に大きな相違があるため、歯科医療従事者の間でも、これらは異なったカテゴリーの学問であるという認識があります。しかしながら、これらの疾患はともに感染・免疫疾患であり、その病巣には様々な炎症性サイトカインが複雑にネットワークを形成し多様な病態を呈しています。感染症の治療の本質は感染源の除去（原因除去療法）にあり、その意味で、我々は、「歯周疾患は歯周ポケット内を“搔爬”し、歯内疾患では根管を“搔爬”する」という機械的感染源の除去の重要性を教育してきました。その結果、歯内・歯周疾患の治療効果は、“薬剤に頼るのではなく、機械的に感染源が除去できた後は、生体の防御反応・再生力に委ねるのが好ましい”という臨床コンセプトが確立されました。とりわけ、この教育概念は西日本の歯学部で「学問」として脈々と受け継がれているもので、私自身、この考え方が本学の校風の中で受け入れられるかどうか、未だ確信を得るものではありません。今後、双方の活発な議論が望まれる部分だろうと思います。

古くから歯科医学の世界では、歯周病患者の歯周病原細菌に対する血中IgG抗体レベルが上昇することが知られ、この基本原理に基づいて、新たな歯周病の血液検査法の確立が模索されてきました。しかし歯科臨床の現場では、未だその成果は実を結んでおりません。このことは、従来、提唱されてきた歯周病の血液検査の臨床的問題点を考慮しながらも、新たなコンセプトによる臨床応用を目指す発想の転換が必要であることを感じさせます。また、最近では慢性で微弱な感染症である歯内・歯周疾患が全身疾患の病態に相互に関連する可能性が指摘されるようになり、歯周内科（Periodontal Medicine）という学問が体系化されつつあります。このように歯内・歯周疾患の領域では、多くの研究者が、日夜、真剣に真摯に“真実”を捉えるために邁進し、世界の歯科医療のあり方を変えるために弛まぬ努力を行っています。平成19年には「健康国家への挑戦」と題して、今後の10年にわたる日本の健康戦略の指標となる政府の「新健康フロンティア戦略」がまとめられ、その柱の一つに「歯の健康」が組み入れられました。この指針では、とりわけ生活習慣病と歯周疾患の関連など、歯・口腔の健康と全身との関連性が注目され、歯科医師は「口腔の健康を守ることで全身の健康を守る」という新たな理念をもち、日々の歯科臨床に従事することが望まれています。

今回、これまでに私なりのアプローチで解明してきた歯内・歯周疾患の病理を概説して、局所—全身の相互作用に踏み込んだ病気のとらえ方を基礎・臨床の両面からお話させていただきました。おそらくは、これまでに学んできた考え方とは違った切り口の講演内容に戸惑いを感じられたものと推察しますが、ご参集いただいた先生方、皆さま方には今一度、「学問」としての歯科医療学についてご議論される一提案として、ご理解いただければ幸いです。

何かご不明な点がございましたら、いつでも下記のメールアドレスまでお尋ね下さい。最後に、岩手医科大学歯学部同窓会の益々のご発展を心より祈念いたしまして、本学術研修会の「後書き」として締めくくらせていただきます。

連絡先：成石 浩司 (naruishi@iwate-med.ac.jp)

## 「うまくいってますか？歯周治療」

講師：八重柏 隆

(岩手医科大学歯学部口腔機能保存学講座歯周病学分野准教授)



歯周治療は現在、様々な観点から注目を浴びており、日増しに重要視されています。歯周病は全身疾患との関連から、細菌の供給源として、あるいは炎症性サイトカインなどを通して種々の臓器に影響を及ぼす可能性のある慢性炎症としてとらえられており、糖尿病、冠状動脈心疾患など多数の全身疾患と関連することから、Periodontal Medicine（歯周医学）という概念が広く浸透し、医科との連携を深めることが欠かせない状況となっています。

また来院する歯周病患者さんは実に多彩です。軽度例では、歯周基本治療でほぼ全快し、そのまま定期管理に移行可能ですが、中等度から重度の歯周炎症例では、そう簡単にはいきません。手をつけるべきか否か？PCRレベルは本当に変えられるのか？最終的にどの歯を抜歯し、どの歯に抜髄処置や歯周外科を施すべきなのか？治療期間はどれほどかかるのか？4mm以上の歯周ポケットが存在しても本当に症状発現することなく維持管理できるのか？と迷うことは少なくありません。

歯周炎により多数の歯が欠損し、垂直的顎位が失われた患者さんにとって、インプラントは残存歯の負担軽減に極めて有効です。米国では、長期保存が困難な歯周病罹患歯は積極的に抜歯し、インプラントによる咬合回復を行うのが一般的です。そしてインプラント治療に際し、口腔内の歯周病原菌（歯周病罹患菌）を可能な限り排除しておくことがインプラント周囲炎発症のリスク回避の必要条件となっております。歯周病を有する患者のインプラント治療の指針では、適切な歯周基本治療が完了して歯周外科処置の後（口腔機能回復治療）に、インプラントを実施することが原則とされています。しかし、大学を受診するトラブル例の大部分は、その指針が十分に活かされているとは言えません。

日本歯周病学会は「歯周病の診断と治療の指針2007」を平成19年に発刊し、翌年には、より分かり易いフローチャートを多用した「歯周病の検査・診断・治療計画の指針2008」を刊行しました。この指針は「うまくいってますか？歯周治療」の問いに対する適切な回答が示されていると思います。また歯周治療の指針のみならず、歯周炎患者のインプラント治療（2008年）や糖尿病を有する患者さんの歯周治療（2008年）、歯周病患者における抗菌療法（2010年）についても別に指針が示されており、とても参考になりますので、是非、歯周病学会のホームページから（無料）ダウンロードされて参考にさせていただきたいと思います。

中等度～重度歯周炎患者さんを前にして、最初に確認しておくべきは全体の治療計画です。これまでの歯周病の治療計画にはなかった概念として、メンテナンスとSPTの違いを十分に把握する必要があります。区別するポイントの一つはプロービングデプス（4mm以上の部位の分布）であり、もう一つはプロービング時の出血（Bleeding on probing, BOP）です。歯周病患者のそれらデータを正確に把握・記録するとともに、具体的な対策・処置を講じることが重要です。歯周治療継続の前提条件として、PCRレベルを20%未満に改善・維持することも必要不可欠です。また中等度～重度歯周炎患者の治療には長期間を要しますので、開始に際しましては、適切な患者選択とそれなりの覚悟が必要です。歯周基本治療後には適切な再評価をもとに、次のステップ（歯周外科）へ進むことになります。歯周外科手術にも、それぞれの目的に応じた手術が存在しますので、指針を参考に適宜選択する必要があります。また歯周病が重度になればなるほど抜歯、抜髄が必要となりますが、それぞれの基準化は大変困難で、抜髄に関しては、各症例の各歯の条件（根分岐部病変、予測される知覚過敏、固定他）等を的確に把握することも求められると思います。中等度～重度歯周炎患者の治療で最も重要なことは、日頃から中等度以上に進行した歯周病患者さんの保存経験を積むことだと思います。これまでの保存経験が、結果的に次の難症例の保存につながりますので、保存レベルのハードルを徐々に高くするためには、良い患者さんとの出会いを決して見逃さないように努めることも重要であると思います。

# 歯学部組織構成員名簿

(平成23年9月1日現在)

## 解剖学講座

### 機能形態学分野

特任教授 藤村 朗  
助 教 安藤 禎 紀  
助 教 鍵谷 忠 慶  
研究員 松本 陽 子  
研究員 濤岡 暁 子

### 発生生物・再生医学分野

教 授 原田 英 光  
准 教 授 石 関 清 人  
講 師 藤 原 尚 樹  
大学院4年 及川 愛  
大学院2年 坂野 深 香

(先進歯科医療研究センター)

ポスト・ドクター 大津 圭 史

## 生理学講座

### 病態生理学分野

教 授 佐原 資 謹  
講 師 成田 欣 弥  
助 教 赤羽 和 久  
助 教 深見 秀 之  
ポスト・ドクター 堀江 沙 和

## 生化学講座

### 細胞情報科学分野

教 授 石 崎 明  
准 教 授 加 茂 政 晴  
講 師 客本 斉 子  
研究員・非常勤講師 高橋 典 子  
助 教 帖 佐 直 幸  
大学院3年 吉田 茉莉子

## 微生物学講座

### 分子微生物学分野

教 授 木村 重 信  
准 教 授 佐々木 実  
助 教 下 山 佑  
研究員 石河 太 知

## 薬理学講座

### 病態制御学分野

教 授 加藤 裕 久  
講 師 田村 晴 希  
助 教 山田 ありさ  
研究員 矢野 明  
研究員 今村 隆 子

## 病理学講座

### 病態解析学分野

教 授 武田 泰 典  
講 師 佐藤 泰 生  
特任講師 三上 俊 成  
助 教 佐 島 三重子

## 医療工学講座

准 教 授 平 雅 之  
講 師 根津 尚 史  
特任講師 齋藤 設 雄  
助 教 佐々木 かおり

## 口腔機能保存学講座

### 歯周・歯内療法学分野

准 教 授 八重柏 隆  
准 教 授 成石 浩 司  
助 教 高谷 直 伸  
助 教 村井 治  
助 教 藤原 英 明  
助 教 佐々木 大 輔  
助教(任期付) 金澤 智 美

助教(任期付) 大川 義 人  
研究員 伊東 俊太郎  
研究員 櫻井 悠 介  
研究員 山形 暢  
研究員 諏訪 渚  
研究員 阿部 公 人  
研究員 笹内 貴 史  
研究員 河合 崇 普  
研究員 井関 陽 介  
大学院4年 須和部 京 介  
大学院2年 澤田 俊 輔  
大学院1年 滝沢 尚 希

## 歯科補綴学講座

### 有床義歯補綴学分野

准 教 授 古屋 純 一  
講 師 織田 展 輔  
特任講師 小林 琢 也  
助 教 大久保 卓 也  
助 教 野村 太 郎  
助教(任期付) 横瀬 隆 夫  
助教(任期付) 近藤 貴 之  
研究員 織田 友 香  
研究員 安藝 紗 織  
研究員 依田 秀一郎  
研究員 米澤 悠  
研究員 原 総一朗  
研究員 阿部 里紗子  
研究員 菅野 夕 貴  
研究員 鳥谷 悠  
研究員 澤田 愛  
研究員 上中 晴 貴  
研究員 加藤 浩  
研究員 伊藤 文 子  
研究員 道又 俊 嗣  
大学院4年 玉田 泰 嗣  
大学院4年 中村 俊 介

大学院 4 年 佐々木 健  
 大学院 2 年 櫻庭 浩之  
 大学院 2 年 佐藤 友秀  
 大学院 2 年 原 淳  
 大学院 2 年 山本 尚徳  
 大学院 1 年 土田 健太郎  
 大学院 1 年 久保田 将史

冠橋義歯補綴学分野

准教授 武部 純  
 講師 古川 良俊  
 特任講師 金村 清孝  
 助教 大平 千之  
 助教 田邊 憲昌  
 助教(任期付) 伊藤 茂樹  
 研究員 山森 伸子  
 研究員 今村 博高  
 研究員 石岡 真理絵  
 研究員 小見 憲夫  
 研究員 齊籐 裕美子  
 研究員 菊地 静一郎  
 研究員 八重嶋 彩子  
 研究員 菅野 寿美江  
 研究員 千田 豪也  
 研究員 山田 優貴  
 研究員 吉田 大徹  
 研究員 駒井 光貴  
 大学院 4 年 示野 達也  
 大学院 4 年 三浦 真悟  
 大学院 3 年 宮田 京平

口腔インプラント学分野

准教授 近藤 尚知  
 講師 鬼原 英道  
 助教(任期付) 丸尾 勝一郎  
 大学院 2 年 畠山 航  
 大学院 2 年 横田 潤  
 大学院 1 年 折祖 研太  
 大学院 1 年 松本 知生  
 大学院 1 年 味岡 均

口腔外科学講座

顎口腔外科学分野

教授 水城 春美  
 特任講師 瀬川 清  
 助教 青村 知幸  
 助教 八木 正篤  
 助教 古城 慎太郎  
 助教(任期付) 長澤 大  
 助教(任期付) 川村 貴史  
 研究員 加藤 秀昭  
 研究員 齋藤 千尋  
 研究員 阿部 亮輔  
 研究員 松本 誠  
 研究員 山谷 元気  
 研究員 千葉 卓  
 研究員 羽田 朋弘  
 研究員 田口 圭介  
 研究員 秋本 祐基  
 研究員 鷺塚 将人  
 研究員 中里 紘  
 研究員 中田 絵美  
 大学院 4 年 岸上 良太  
 大学院 4 年 高橋 美香子  
 大学院 3 年 齋藤 大嗣

歯科口腔外科学分野

教授 杉山 芳樹  
 准教授 星 秀樹  
 助教 飯島 伸  
 助教 松本 直子  
 助教 熊谷 章子  
 助教(任期付) 野宮 孝之  
 助教(任期付) 松尾 伸一  
 研究員 古屋 出文  
 研究員 原 康文  
 研究員 角田 耕一  
 研究員 大橋 祐生  
 研究員 西平 宗功  
 研究員 宮形 養  
 研究員 南 館英明

研究員 早崎 溪  
 研究員 小野寺 慧  
 研究員 近藤 正人  
 研究員 川村 友里子  
 研究員 角田 直子  
 大学院 1 年 岩崎 賢介  
 大学院 1 年 増田 智幸

歯科麻酔学分野

教授 城 茂治  
 准教授 佐藤 雅仁  
 講師 佐藤 健一  
 特任講師 四戸 豊  
 助教 坂本 望  
 助教 遠藤 千恵  
 研究員 鍋島 謙一  
 研究員 大橋 綾子  
 研究員 石塚 淳実  
 研究員 山田 大爾  
 大学院 4 年 鎌田 俊仁  
 大学院 4 年 三浦 仁

口腔保健育成学講座

口腔保健学分野

教授 米満 正美  
 准教授 稲葉 大輔  
 特任准教授 岸 光男  
 特任講師 阿部 晶子  
 助教 南 健太郎  
 助教 相澤 文恵  
 助教 杉浦 剛  
 研究員 野崎 佳子  
 研究員 渡 美子  
 大学院 2 年 松井 美樹

歯科矯正学分野

教授 三浦 廣行  
 准教授 清野 幸男  
 准教授 八木 實晃  
 講師 金野 吉

特任講師 佐藤和朗  
 助教 鈴木寿代  
 助教 飯塚康之  
 助教(任期付) 水川卓磨  
 助教(任期付) 若林香枝  
 研究員 三條晃  
 研究員 遠藤陽子  
 研究員 坂東三史  
 研究員 南順子  
 研究員 山田裕之  
 研究員 關山浩子  
 研究員 増山美樹子  
 研究員 菊池宗法  
 研究員 富岡宗弘  
 研究員 三浦佐知  
 研究員 山田紗和子  
 研究員 遠藤泰佑  
 研究員 西田夏奈子  
 大学院4年 桑島幸紀  
 大学院4年 櫻庭春菜  
 大学院2年 古川真司  
 大学院2年 青松恵美子  
 大学院2年 木村仁迪

## 小児歯科学分野

教授 田中光郎  
 講師 齋藤亮  
 助教 両川明子  
 助教 浅川剛吉  
 助教 浅川麻美  
 研究員 及川利佳子  
 研究員 高橋雅  
 研究員 丸山裕代  
 大学院2年 奥野瑛  
 大学院2年 木村美澄

## 総合歯科学講座

## 総合歯科教育学・保存修復学分野

教授 野田守  
 准教授 工藤義之  
 助教 熊谷啓二  
 助教 千田弥栄子  
 助教 浅野明子  
 助教 柳谷隆仁  
 助教 岡田伸男  
 助教 志賀華絵  
 研究員 増山知之  
 研究員 山本槇子  
 研究員 中村芳章  
 研究員 千葉史子

## 歯科放射線学分野

教授 小豆嶋正典  
 講師 東海林理  
 講師 泉澤充  
 助教 佐藤仁  
 助教 星野正行  
 助教 高橋徳明  
 大学院3年 齋藤圭輔

## 歯科内科学分野

教授 中居賢司

## 障害者歯科学分野

准教授 久慈昭慶  
 助教 菊池和子  
 助教 熊谷美保  
 研究員 小板橋航

## 歯科外科学科

講師(兼務) 西塚哲

## 平成22年度学位授与者一覧

『課程博士（歯学）』…下記13名

学位授与月日…平成22年6月1日

学位記授与式…平成22年6月28日

①授与番号： 甲第259号 松本 誠（口腔外科学第一）  
学位論文題目： 免疫組織化学による口腔扁平苔癬の上皮におけるマイコプラズマの局在の検討  
【主査：水城教授 副査：武田教授，杉山教授】

学位授与月日…平成23年3月7日

学位記授与式…平成23年4月26日

②授与番号： 甲第260号 秋元 義（歯科保存学第二）  
学位論文題目： Establishment of Hertwig's epithelial root sheath cell line from cells involved in epithelial-mesenchymal transition  
(上皮間葉形質転換の性質を保持したHertwig上皮鞘細胞株の樹立)  
【主査 國松教授 副査 原田教授，木村教授】

③授与番号： 甲第261号 菊池 宗法（歯科矯正学）  
学位論文題目： The distribution of lymphatic vessels in the periodontal ligament during tooth root formation.  
歯根形成期歯根膜のリンパ管分布について  
【主査 三浦教授 副査 原田教授，武田教授】

学位授与月日…平成23年3月10日

学位記授与式…平成23年3月10日

④授与番号： 甲第262号 今村 隆子（歯科薬理学）  
学位論文題目： Production of Indole from L-Tryptophan and Effects of These Compounds on Biofilm Formation by *Fusobacterium nucleatum* ATCC 25586  
— *Fusobacterium nucleatum* ATCC 25586におけるトリプトファンからのインドール産生能とそれらのバイオフィルム形成への影響—  
【主査 加藤教授 副査 木村教授，石崎教授】

⑤授与番号： 甲第263号 阿部 里紗子（有床義歯補綴学）  
学位論文題目： ビデオ内視鏡を用いた咀嚼の食塊形成機能評価  
【主査 鈴木教授 副査 杉山教授，佐原教授】

⑥授与番号： 甲第264号 澤田 愛（有床義歯補綴学）  
学位論文題目： Viscoelasticity of Human Oral Mucosa: Implications to Masticatory Biomechanics  
(ヒト口腔粘膜の粘弾性性質—咀嚼バイオメカニクス解明への示唆)  
【主査 石橋教授 副査 鈴木教授，根津講師】

⑦授与番号： 甲第265号 鳥谷 悠（有床義歯補綴学）  
学位論文題目： 加齢変化が咀嚼時の脳機能活動に及ぼす影響  
【主査 鈴木教授 副査 佐原教授，小豆嶋教授】



|         |   |
|---------|---|
| ⑧授与番号：  | 甲第266号 大橋 祐生 (歯科口腔外科学)  |
| 学位論文題目： | bFGF徐放性材料を用いた骨再生モデルにおける骨再生と血管新生の検討<br>【主査 杉山教授 副査 藤村教授, 水城教授】   |
| ⑨授与番号：  | 甲第267号 西平 宗功 (歯科口腔外科学)  |
| 学位論文題目： | High-cell density-induced VCAM1 expression inhibits the migratory ability of mesenchymal stem cells<br>(細胞密度依存的なVCAM1の発現増加は間葉系幹細胞の遊走能を抑制する)<br>【主査 水城教授 副査 杉山教授, 石崎教授】            |
| ⑩授与番号：  | 甲第268号 宮形 養 (歯科口腔外科学)   |
| 学位論文題目： | Clinical significance of Combined CYP2C9 and VKORC1 Genotypes in Japanese Patients Requiring Warfarin<br>(日本人ワルファリン服用者でのCYP2C9とVKORC1の遺伝子一塩基多型解析の臨床的意義)<br>【主査 城教授 副査 杉山教授, 中居教授】 |
| ⑪授与番号：  | 甲第269号 羽田 朋弘 (顎口腔外科学)   |
| 学位論文題目： | 多形腺腫における腫瘍性筋上皮細胞マーカーとしてのWT1の有用性に関する検討<br>【主査 水城教授 副査 武田教授, 石崎教授】  |
| ⑫授与番号：  | 甲第270号 遠藤 寛 (冠橋義歯補綴学)   |
| 学位論文題目： | Clenching occurring during the day is influenced by psychological factors<br>一日中に生じるクレンチングに対する心理的要因の影響—<br>【主査 石橋教授 副査 鈴木教授, 佐原教授】  |
| ⑬授与番号：  | 甲第271号 石塚 淳実 (歯科麻酔学)  |
| 学位論文題目： | Architecture of blood vessels in the mouse infraorbital nerve<br>—マウスの眼窩下神経内血管構築—<br>【主査 城教授 副査 藤村教授, 武田教授】   |

# 第104回歯科医師国家試験 大学別合格者状況

平成23年 3月22日発表

| 国立       |      |        | 全国順位 | 大学名           | 総数    |       |        | 新卒    |       |        | 既卒    |     |        | 103回合格率(総数) | 前回との比較 | 国試浪人 |
|----------|------|--------|------|---------------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-----|--------|-------------|--------|------|
| 新卒順位     | 既卒順位 | 国立総数順位 |      |               | 受験者   | 合格者   | 合格率    | 受験者   | 合格者   | 合格率    | 受験者   | 合格者 | 合格率    |             |        |      |
| 2        | 4    | 1      | 1    | 九州大学歯学部       | 73    | 68    | 93.2%  | 62    | 59    | 95.2%  | 11    | 9   | 81.8%  | 84.4%       | 8.8%   | 5    |
| 4        | 2    | 2      | 2    | 東京医科歯科大学歯学部   | 71    | 65    | 91.5%  | 59    | 54    | 91.5%  | 12    | 11  | 91.7%  | 83.1%       | 8.5%   | 6    |
| 1        | 5    | 3      | 3    | 広島大学歯学部       | 72    | 64    | 88.9%  | 56    | 56    | 100.0% | 16    | 8   | 50.0%  | 73.8%       | 15.0%  | 8    |
| 7        | 3    | 4      | 5    | 大阪大学歯学部       | 66    | 57    | 86.4%  | 59    | 51    | 86.4%  | 7     | 6   | 85.7%  | 89.6%       | -3.2%  | 9    |
| 3        | 7    | 5      | 7    | 東北大学歯学部       | 58    | 50    | 86.2%  | 49    | 46    | 93.9%  | 9     | 4   | 44.4%  | 84.8%       | 1.4%   | 8    |
| 9        | 1    | 6      | 8    | 岡山大学歯学部       | 62    | 53    | 85.5%  | 59    | 50    | 84.7%  | 3     | 3   | 100.0% | 95.1%       | -9.6%  | 9    |
| 5        | 10   | 7      | 9    | 新潟大学歯学部       | 48    | 40    | 83.3%  | 44    | 39    | 88.6%  | 4     | 1   | 25.0%  | 90.4%       | -7.1%  | 8    |
| 7        | 5    | 8      | 10   | 北海道大学歯学部      | 65    | 54    | 83.1%  | 59    | 51    | 86.4%  | 6     | 3   | 50.0%  | 89.6%       | -6.5%  | 11   |
| 6        | 7    | 9      | 11   | 長崎大学歯学部       | 61    | 50    | 82.0%  | 52    | 46    | 88.5%  | 9     | 4   | 44.4%  | 87.0%       | -5.0%  | 11   |
| 10       | 9    | 10     | 16   | 鹿児島大学歯学部      | 61    | 46    | 75.4%  | 52    | 43    | 82.7%  | 9     | 3   | 33.3%  | 84.8%       | -9.4%  | 15   |
| 11       | 11   | 11     | 17   | 徳島大学歯学部       | 60    | 44    | 73.3%  | 53    | 43    | 81.1%  | 7     | 1   | 14.3%  | 85.0%       | -11.7% | 16   |
| 国立計      |      |        |      |               | 697   | 591   | 84.8%  | 604   | 538   | 89.1%  | 93    | 53  | 57.0%  |             |        |      |
| 九州歯科大学   |      |        |      |               | 111   | 96    | 86.5%  | 93    | 87    | 93.5%  | 18    | 9   | 50.0%  | 84.7%       | 1.8%   | 15   |
| 公立計      |      |        |      |               | 111   | 96    | 86.5%  | 93    | 87    | 93.5%  | 18    | 9   | 50.0%  |             |        |      |
| 私立(17)   |      |        | 全国順位 | 大学名           | 総数    |       |        | 新卒    |       |        | 既卒    |     |        | 103回合格率(総数) | 前回との比較 | 国試浪人 |
| 新卒順位     | 既卒順位 | 私立総数順位 |      |               | 受験者   | 合格者   | 合格率    | 受験者   | 合格者   | 合格率    | 受験者   | 合格者 | 合格率    |             |        |      |
| 3        | 10   | 1      | 6    | 東京歯科大学        | 138   | 114   | 82.6%  | 125   | 108   | 86.4%  | 13    | 6   | 46.2%  | 90.0%       | -7.4%  | 24   |
| 1        | 6    | 2      | 12   | 愛知学院大学歯学部     | 157   | 124   | 79.0%  | 114   | 102   | 89.5%  | 43    | 22  | 51.2%  | 72.2%       | 6.8%   | 33   |
| 6        | 1    | 3      | 13   | 昭和大学歯学部       | 112   | 86    | 76.8%  | 82    | 67    | 81.7%  | 30    | 19  | 63.3%  | 74.8%       | 2.0%   | 26   |
| 5        | 5    | 4      | 14   | 日本歯科大学        | 132   | 101   | 76.5%  | 105   | 87    | 82.9%  | 27    | 14  | 51.9%  | 79.7%       | -3.2%  | 31   |
| 2        | 3    | 5      | 15   | 明海大学歯学部       | 181   | 138   | 76.2%  | 113   | 100   | 88.5%  | 68    | 38  | 55.9%  | 58.4%       | 17.8%  | 43   |
| 9        | 2    | 6      | 18   | 日本大学松戸歯学部     | 158   | 115   | 72.8%  | 114   | 89    | 78.1%  | 44    | 26  | 59.1%  | 69.4%       | 3.3%   | 43   |
| 15       | 7    | 7      | 19   | 福岡歯科大学        | 122   | 82    | 67.2%  | 97    | 70    | 72.2%  | 25    | 12  | 48.0%  | 80.5%       | -13.3% | 40   |
| 14       | 4    | 8      | 20   | 神奈川歯科大学       | 172   | 115   | 66.9%  | 116   | 84    | 72.4%  | 56    | 31  | 55.4%  | 65.0%       | 1.8%   | 57   |
| 4        | 16   | 9      | 21   | 日本歯科大学新潟生命歯学部 | 101   | 67    | 66.3%  | 65    | 56    | 86.2%  | 36    | 11  | 30.6%  | 70.8%       | -4.5%  | 34   |
| 8        | 9    | 10     | 22   | 大阪歯科大学        | 172   | 114   | 66.3%  | 105   | 83    | 79.0%  | 67    | 31  | 46.3%  | 65.8%       | 0.4%   | 58   |
| 12       | 14   | 11     | 23   | 日本大学歯学部       | 158   | 103   | 65.2%  | 118   | 87    | 73.7%  | 40    | 16  | 40.0%  | 76.9%       | -11.7% | 55   |
| 10       | 13   | 12     | 24   | 鶴見大学歯学部       | 196   | 126   | 64.3%  | 122   | 94    | 77.0%  | 74    | 32  | 43.2%  | 57.1%       | 7.2%   | 70   |
| 11       | 12   | 13     | 25   | 北海道医療大学歯学部    | 126   | 80    | 63.5%  | 77    | 58    | 75.3%  | 49    | 22  | 44.9%  | 60.8%       | 2.7%   | 46   |
| 7        | 11   | 14     | 26   | 奥羽大学歯学部       | 150   | 94    | 62.7%  | 77    | 61    | 79.2%  | 73    | 33  | 45.2%  | 50.7%       | 12.0%  | 56   |
| 16       | 8    | 15     | 27   | 朝日大学歯学部       | 189   | 112   | 59.3%  | 106   | 73    | 68.9%  | 83    | 39  | 47.0%  | 56.5%       | 2.8%   | 77   |
| 17       | 15   | 16     | 28   | 岩手医科大学歯学部     | 132   | 69    | 52.3%  | 71    | 46    | 64.8%  | 61    | 23  | 37.7%  | 49.6%       | 2.7%   | 63   |
| 13       | 17   | 17     | 29   | 松本歯科大学        | 173   | 72    | 41.6%  | 52    | 38    | 73.1%  | 121   | 34  | 28.1%  | 34.9%       | 6.7%   | 101  |
| 私立計      |      |        |      |               | 2569  | 1712  | 66.6%  | 1659  | 1303  | 78.5%  | 910   | 409 | 44.9%  |             |        |      |
| 認定及び予備試験 |      |        |      |               | 1     | 1     | 100.0% | 0     | 0     | 100.0% | 1     | 1   | 100.0% |             |        |      |
| 総合計      |      |        |      |               | 3,378 | 2,400 | 71.0%  | 2,356 | 1,928 | 81.8%  | 1,022 | 472 | 46.2%  |             |        |      |

## 平成23年度編入・新入生名簿

### 平成23年度歯学部編入学生名簿

平成23年 4月

|         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 秋 山 明   | 久米井 亨 仁 | 千 葉 泰 胤 | 八 幡 裕 志 |
| 石 北 雅 之 | 澁 田 大 輝 | 細 野 康 太 | 行 岡 直 哉 |
| 大 林 匠   | 下 田 悟 士 | 村 上 明 子 |         |

以上11名

### 平成23年度新入生名簿

平成23年 4月

|         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 飯 村 実 穂 | 川 西 杏 奈 | 佐 藤 礼 志 | 並 木 一 馬 |
| 石 塚 真 大 | 川 村 浩 之 | 佐 藤 道 太 | 成 井 昭 悟 |
| 伊 藤 有 希 | 菅 美和子   | 東海林 朔   | 二 宮 彩 瑞 |
| 岩 淵 未 宇 | 北 原 大 義 | 城 村 綾 香 | 野 村 健 貴 |
| 遠 藤 宏治郎 | 木 村 真 啓 | 鈴 木 一 望 | 馬 場 一 希 |
| 大 坂 勇 人 | 國 香 達 彦 | 鈴 木 美織理 | 林 公 子   |
| 大 塚 泰 寛 | 久保田 優   | 曾 根 晶 子 | 古 田 梨沙子 |
| 小 川 夏 歩 | 小木田 勇 人 | 高 山 尚 志 | 細 井 直 人 |
| 小 野 真 保 | 小 林 莉 子 | 武 田 かるな | 蒔 田 梨 奈 |
| 尾 野 友 衣 | 近 藤 磨里奈 | 武 田 啓   | 皆 川 滢 那 |
| 折 祖 創 太 | 今 野 麻 那 | 田 中 優 佳 | 柳 澤 基   |
| 笠 野 宏 翔 | 齋 藤 友 季 | 直 島 あつこ | 山 崎 萌々子 |
| 金 子 義 紀 | 佐 藤 潤之介 | 中 山 秀 俊 | 渡 邊 浩太朗 |

以上52名

# 大 学 役 職 員 名 簿

| 職 名                                   | 氏 名       |
|---------------------------------------|-----------|
| 理 事 長                                 | 大 堀 勉     |
| 学 長                                   | 小 川 彰     |
| 副 学 長                                 | 祖父江 憲 治   |
| 医 学 部 長                               | 鈴 木 一 幸   |
| 歯 学 部 長                               | 三 浦 廣 行   |
| 薬 学 部 長                               | 二 井 將 光   |
| 共 通 教 育 セ ン タ ー 長                     | 高 橋 敬     |
| 入 学 試 験 セ ン タ ー 長                     | 鈴 木 一 幸   |
| 図 書 館 長                               | 武 田 泰 典   |
| 図 書 館 分 館 長                           | 松 政 正 俊   |
| 医 歯 薬 総 合 研 究 所 長                     | 祖父江 憲 治   |
| 知 的 財 産 本 部 長                         | 小 川 彰     |
| リ エ ゾ ン セ ン タ ー 長                     | 人 見 次 郎   |
| 総 合 情 報 セ ン タ ー 長                     | 澤 井 高 志   |
| 学 生 部 長                               | 赤 坂 俊 英   |
| 学 生 副 部 長                             | 小 豆 嶋 正 典 |
| 学 生 副 部 長                             | 佐 塚 泰 之   |
| 学 生 副 部 長                             | 作 山 正 美   |
| キ ャ リ ア 支 援 セ ン タ ー 長                 | 西 郡 秀 夫   |
| 附 属 病 院 長                             | 小 林 誠 一 郎 |
| 附 属 病 院 副 院 長                         | 佐 藤 讓     |
| 附 属 病 院 副 院 長                         | 藤 岡 知 昭   |
| 附 属 病 院 副 院 長                         | 酒 井 明 夫   |
| 附 属 病 院 副 院 長 ・ 循 環 器 医 療 セ ン タ ー 長   | 岡 林 均     |
| 附 属 病 院 副 院 長 ・ 歯 科 医 療 セ ン タ ー 長     | 城 茂 治     |
| 附 属 花 巻 温 泉 病 院 長                     | 猪 又 義 男   |
| 岩 手 県 高 度 救 命 救 急 セ ン タ ー 長           | 遠 藤 重 厚   |
| 附 属 PET ・ リ ニ ア ッ ク 先 端 医 療 セ ン タ ー 長 | 中 村 隆 二   |
| 医 療 専 門 学 校 長                         | 三 浦 廣 行   |
| 健 康 管 理 セ ン タ ー 長                     | 嶋 村 正     |
| 事 務 局 長                               | 高 橋 俊 雄   |

# 歯学部同窓会支部役員名簿

## 道央支部

支部長 箱木 孝則 (11期)  
 副支部長 阿部 年秀 (13期)  
 副支部長 太田 陽一 (14期)  
 専務理事 新出 英幸 (12期)  
 連絡先 〒002-8071 札幌市北区  
 あいの里1条4-9-17  
 にいで歯科医院  
 TEL 011-778-6000  
 評議員 箱木 孝則 (11期)  
 評議員 新出 英幸 (12期)  
 評議員 阿部 年秀 (13期)  
 予備評議員 玄番 依子 (5期)  
 予備評議員 西村 仁 (11期)  
 予備評議員 太田 陽一 (14期)



評議員 石平 洋二 (10期)



## 釧路支部

支部長 鹿野 洋一 (16期)  
 副支部長 佐藤憲太郎 (6期)  
 幹事 美濃 優 (6期)  
 連絡先 〒085-0061 北海道釧路  
 市芦野1-8-1  
 美濃歯科  
 TEL 0154-37-6707  
 評議員 鹿野 洋一 (16期)  
 予備評議員 遠藤 甫 (1期)



評議員 松尾 芳明 (8期)

評議員 藤田 亮 (12期)

評議員 三浦 一廣 (12期)

予備評議員 瀧澤 茂 (9期)

予備評議員 工藤 淳治 (12期)

予備評議員 滝谷 英三 (19期)



## 学内支部

支部長 城 茂治 (7期)

評議員 八木 實 (6期)

評議員 八重柏 隆 (15期)

評議員 八木 正篤 (17期)

評議員 武部 純 (20期)

予備評議員 久慈 昭慶 (15期)



## 函館支部

支部長 永坂 信 (7期)  
 副支部長 中塚 道郎 (10期)  
 副支部長 木葉 篤 (12期)  
 幹事長 沢木 健 (17期)  
 連絡先 〒041-0821 北海道函館  
 市港町2-10-20  
 沢木歯科医院  
 TEL 0138-43-4618  
 評議員 木葉 篤 (12期)  
 予備評議員 永坂 信 (7期)



## 十勝支部

支部長 河俣 良文 (1期)  
 副支部長 船津三四郎 (5期)  
 幹事長 齊藤 憲生 (8期)  
 連絡先 〒080-0019 北海道帯広  
 市西9条南13-4-4  
 斉藤歯科医院  
 TEL 0155-23-8110  
 評議員 齊藤 憲生 (8期)  
 予備評議員 斎藤 恒夫 (22期)



## 岩手県支部

支部長 岩渕 安信 (4期)

副支部長 畠山 良彦 (8期)

副支部長 岩本 一夫 (9期)

専務理事 佐藤 忠朋 (7期)

連絡先 〒028-3601 岩手県紫波

郡矢巾町高田11-1-3

佐藤歯科医院

TEL 019-697-7250

評議員 岩渕 安信 (4期)

評議員 中屋敷 修 (6期)

評議員 菊地 博 (18期)

評議員 黒田 直寿 (18期)

評議員 鈴木洋之助 (18期)

評議員 和田 武彦 (21期)

評議員 川村 英幹 (25期)

予備評議員 熊谷 哲也 (24期)

予備評議員 西郷 史郎 (24期)

予備評議員 小原 賢一 (25期)

予備評議員 工藤 努 (25期)

予備評議員 上原 豊 (26期)

## 青森県支部

支部長 山田 芳夫 (3期)  
 副支部長 内山繁由樹 (7期)  
 副支部長 松尾 芳明 (8期)  
 副支部長 三浦 一廣 (12期)  
 専務理事 滝谷 英三 (19期)  
 連絡先 〒030-0966 青森市花園  
 2-21-1  
 たきや歯科医院  
 TEL 017-742-0939

## 道北支部

支部長 石平 洋二 (10期)  
 幹事長 品川 拓人 (13期)  
 〒070-8045 北海道旭川  
 市忠和5条6-2-14 SKビ  
 ルマンション1F  
 品川歯科医院  
 TEL 0166-62-0303

予備評議員 齋藤 雅人 (26期)  
予備評議員 高橋 賢司 (26期)



秋田県支部

支部長 伊藤 修 (5期)  
副支部長 越前 和俊 (5期)  
副支部長 菅原 栄悦 (8期)  
副支部長 石田 達郎 (11期)  
専務理事 立花 透 (15期)  
連絡先 〒010-0022 秋田市橋山  
南中町9-22  
立花歯科医院  
TEL 018-833-3885  
評議員 井関 時男 (4期)  
評議員 船木 康博 (10期)  
評議員 小西 一峰 (11期)  
予備評議員 守口 修 (7期)  
予備評議員 鈴木 明彦 (15期)  
予備評議員 川原田 啓 (17期)



宮城県支部

支部長 村上 正博 (6期)  
副支部長 田熊 和夫 (7期)  
副支部長 長谷 剛史 (7期)  
副支部長 長田 純一 (11期)  
副支部長 菊地 賢 (14期)  
専務理事 杉山 豊 (18期)  
連絡先 〒980-0011 仙台市青葉  
区上杉4-1-47  
杉山歯科医院  
TEL 022-222-2898  
評議員 色川 俊則 (5期)  
評議員 羽田野 明 (5期)  
評議員 田熊 和夫 (7期)  
評議員 小田島正博 (12期)  
評議員 川口 剛 (17期)  
予備評議員 大友 廣雄 (8期)  
予備評議員 鈴木 健一 (8期)  
予備評議員 渋井 発 (10期)

予備評議員 大山 治 (11期)  
予備評議員 長田 純一 (11期)



山形県支部

支部長 斎藤 純一 (11期)  
副支部長 海老名宥充 (10期)  
副支部長 土屋 衛 (13期)  
常任幹事 日塔 睦雄 (18期)  
連絡先 〒995-0111 山形県村山  
市大久保甲563-1  
にっとう歯科医院  
TEL 0237-54-2548  
評議員 海老名宥充 (10期)  
評議員 土屋 衛 (13期)  
予備評議員 奥山 祥充 (12期)  
予備評議員 日塔 睦雄 (18期)



福島県支部

支部長 田代 直也 (8期)  
副支部長 國崎 幸史 (10期)  
副支部長 加藤 悟郎 (11期)  
専務理事 遠藤 正道 (12期)  
連絡先 〒963-0102 福島県郡山  
市安積町笹川字北向6-  
24  
安積台遠藤歯科医院  
TEL 024-945-4118  
評議員 田代 直也 (8期)  
評議員 國崎 幸史 (10期)  
予備評議員 加藤 悟郎 (11期)  
予備評議員 遠藤 正道 (12期)



茨城県支部

支部長 数寄 孝 (8期)  
副支部長 小川 修二 (10期)  
副支部長 戒田 敏之 (11期)  
庶務 阿部 英一 (18期)

連絡先 〒319-2144 茨城県常陸  
大宮市泉445-3  
阿部歯科クリニック  
TEL 0295-52-5533

評議員 大塚 誠 (9期)  
予備評議員 小川 修二 (10期)



栃木県支部

支部長 五月女大介 (9期)  
副支部長 清水 彰 (10期)  
副支部長 生井 俊一 (12期)  
専務理事 手塚 茂 (21期)  
連絡先 〒320-0863 宇都宮市操  
町7-10  
てづか歯科医院  
TEL 028-639-2332  
評議員 生井 俊一 (12期)  
予備評議員 野尻 郁夫 (15期)



群馬県支部

支部長 石北 裕 (3期)  
副支部長 山田 哲司 (3期)  
専務理事 大美賀 優 (7期)  
連絡先 〒373-0024 群馬県太田  
市上小林235-1  
大美賀歯科医院  
TEL 0276-25-8148  
評議員 石北 裕 (3期)  
予備評議員 鈴木 敏正 (12期)



埼玉県支部

支部長 佐々木雄一 (2期)  
副支部長 河田 清寛 (3期)  
副支部長 永倉 滋夫 (3期)  
専務理事 山内 明善 (5期)  
連絡先 〒350-1126 埼玉県川越  
市旭町3-25-2

あさひデンタルクリニ  
ック

TEL 049-241-7733

評議員 佐々木雄一（2期）

評議員 曾根原 勉（6期）

予備評議員 利根川真一（7期）

予備評議員 高野 章（9期）



### 千葉県支部

支部長 萩原 研一（1期）

副支部長 北村 渉（3期）

副支部長 尹 錫哲（4期）

専務理事 伊東総一郎（21期）

連絡先 〒286-0013 千葉県成田  
市美郷台2-26-27 イワ  
ダテビル3F

さくら歯科クリニック

TEL 0476-24-5454

評議員 萩原 研一（1期）

評議員 小林 賢士（15期）

予備評議員 上原 公一（2期）

予備評議員 牛尾 均（3期）



### 東京都支部

支部長 神垣 博義（6期）

副支部長 田中 英一（8期）

副支部長 沼口 隆二（8期）

専務理事 松村 猛（14期）

連絡先 〒204-0004 東京都清瀬  
市野塩3-12-5

松村歯科医院

TEL 042-491-8849

評議員 小室 昭夫（1期）

評議員 安成 宗一（2期）

評議員 水野 重美（8期）

予備評議員 近藤 秀男（3期）

予備評議員 沼口 隆二（8期）

予備評議員 村上 正幸（16期）

### 神奈川県支部

支部長 森戸 弘行（11期）

副支部長 中沢真一郎（14期）

副支部長 浅川 和也（21期）

専務理事 伴場 幸信（13期）

連絡先 〒212-0023 神奈川県川  
崎市幸区戸手本町1-4-  
5 ステート川崎1F

伴場歯科医院

TEL 044-549-3918

評議員 高田 泉（8期）

評議員 杉山 裕（9期）

予備評議員 笠原 斉（1期）

予備評議員 樺島 史朗（2期）



### 山梨県支部

支部長 中込 和雄（10期）

副支部長 中村貴美男（11期）

専務理事 早川 輝（20期）

連絡先 〒405-0005 山梨県山梨  
市小原東112-1

はやかわ歯科医院

TEL 0553-23-4455

評議員 中込 和雄（10期）

予備評議員 中村貴美男（11期）



### 長野県支部

支部長 島田 隆夫（6期）

副支部長 笠原 幹雄（7期）

副支部長 上島真二郎（7期）

専務理事 都筑 文男（9期）

連絡先 〒399-0701 長野県塩尻  
市大字広丘吉田2902-9

つづく歯科医院

TEL 0263-86-3388

評議員 島田 隆夫（6期）

予備評議員 笠原 幹雄（7期）

### 新潟県支部

支部長 本間 哲雄（5期）

副支部長 五十嵐一男（6期）

専務 佐久間英治（12期）

連絡先 〒950-1115 新潟市西区  
鳥原大明2640-1

佐久間歯科医院

TEL 025-378-7788

評議員 本間 哲雄（5期）

予備評議員 中山 雄二（14期）



### 富山県支部

支部長 野田 孫就（3期）

副支部長 大石 聡（8期）

専務理事 津田 淳（30期）

連絡先 〒932-0115 富山県小矢  
部市津沢1-44

歯科津田医院

TEL 0766-61-4771

評議員 野田 孫就（3期）

予備評議員 湯口 正治（17期）



### 北陸支部

支部長 家城 正（8期）

副支部長 石田 皎（8期）

副支部長 九良賀野進（8期）

専務理事 牧野 邦男（13期）

連絡先 〒920-2142 石川県白山  
市深瀬新町4

牧野歯科医院

TEL 076-273-0113

評議員 田中 誠（4期）



### 静岡県支部

支部長 渡辺 孝（1期）

専務理事 渡邊 欣也（2期）

連絡先 〒420-0032 静岡市葵区

両替町2-6-2

ワタナベ歯科医院

TEL 054-251-8400

評議員 松下 時久 (9期)

予備評議員 小川 恵治 (13期)



### 愛岐支部

支部長 柴田 輝郎 (1期)

副支部長 清 克行 (3期)

副支部長 北山 真悟 (5期)

専務理事 吉村 宅弘 (12期)

連絡先 〒472-0012 愛知県知立

市八ツ田町1-2-1

八ツ田歯科

TEL 0566-83-5550

評議員 青島 忍 (7期)

予備評議員 山家 誠 (15期)



### 近畿地区支部

支部長 難波 和之 (1期)

連絡先 〒557-0055 大阪市西成

区千本南1-3-14-101

難波歯科医院

TEL 06-6659-0118

副支部長 江上 一郎 (3期)

評議員 山崎 直 (9期)

予備評議員 江上 一郎 (3期)



### 大阪府支部

会長 片山 俊博 (7期)

副会長 落合 伸行 (10期)

副会長 原田 善彦 (11期)

連絡先 〒579-8045 大阪府東大

阪市本町7-12

原田歯科医院

TEL 0729-82-1203

専務 山本 隆晴 (22期)

評議員 片山 俊博 (7期)

予備評議員 原田 善彦 (11期)



### 兵庫県支部

支部長 柳 治夫 (8期)

副支部長 坂井 諭 (18期)

専務理事 村松 弘康 (25期)

連絡先 〒662-0954 兵庫県西宮

市上葭原町5-22

むらまつ歯科医院

TEL 0798-38-4443

評議員 村松 弘康 (25期)

予備評議員 坂井ひろみ (17期)



### 岡山県支部

支部長 池田 泰章 (11期)

専務理事 近藤 康弘 (12期)

連絡先 〒710-0023 岡山県倉敷

市帯高617-16

近藤歯科クリニック

TEL 086-428-8143

評議員 竹下 信義 (4期)

予備評議員 小坂 晃 (11期)



### 広島県支部

支部長 平尾 慶太 (14期)

副支部長 長崎 昭憲 (3期)

金田 竜典 (22期)

専務理事 山口 純生 (25期)

連絡先 〒739-2403 広島県東広

島市安芸津町風早字江

川1118-1

マイ歯科

TEL 0846-45-6927

評議員 長崎 昭憲 (3期)

予備評議員 江島 恒章 (7期)

### 徳島県支部

支部長 秋田 一郎 (9期)

副支部長 益田 忠幸 (12期)

連絡担当幹事 益田 忠幸 (12期)

連絡先 〒770-8024 徳島市西須

賀町下中須13-48

益田歯科医院

TEL 088-669-2567

評議員 井上 正仁 (10期)

予備評議員 諸谷 雅裕 (14期)



### 香川・愛媛・高知支部

支部長 前田健一郎 (1期)

専務理事 江渕 有三 (11期)

連絡先 〒781-1102 高知県土佐

市高岡町乙8-1

江渕歯科診療所

TEL 088-852-6480

評議員 前田健一郎 (1期)

予備評議員 藤本 庸介 (11期)



### 長崎県支部

支部長 山部 一実 (8期)

専務理事 牟田 直竹 (10期)

連絡先 〒852-801 長崎市梁川

町4-12 梁川ビル1F

牟田歯科医院

TEL 095-862-8870

評議員 山部 一実 (8期)

予備評議員 牟田 直竹 (10期)



## 歯学部同窓会役員名簿

(H22. 7. 1～H25. 6. 30)

|       |         |           |          |
|-------|---------|-----------|----------|
| 会 長   | 城 茂 治   | (歯7・学 内)  |          |
| 副 会 長 | 星 加 修 一 | (歯6・道 央)  | 事務管理部長   |
|       | 村 上 正 博 | (歯6・宮城県)  | 会計部長     |
| 常任理事  | 佐 藤 忠 朋 | (歯7・岩手県)  | 庶務部長     |
|       | 小豆嶋 正 典 | (歯8・学 内)  |          |
|       | 田 中 英 一 | (歯8・東京都)  | 渉外部長     |
|       | 山 田 芳 夫 | (歯3・青森県)  |          |
|       | 伊 藤 修   | (歯5・秋田県)  |          |
|       | 水 城 春 美 | (歯5・学 内)  |          |
|       | 中 野 廣 一 | (歯6・岩手県)  | 学術研修部長   |
|       | 長 谷 剛 史 | (歯7・宮城県)  |          |
|       | 斎 藤 純 一 | (歯11・山形県) | 庶務部副部長   |
|       | 大 槻 清 隆 | (歯12・福島県) | 事務管理部副部長 |
| 理 事   | 小山田 勇 樹 | (歯15・岩手県) | 会計部副部長   |
|       | 三 善 潤   | (歯15・岩手県) | 広報部長     |
|       | 神 垣 博 義 | (歯6・東京都)  | 渉外部副部長   |
|       | 内 山 繁由樹 | (歯7・青森県)  |          |
|       | 大 川 隆 史 | (歯8・埼玉県)  |          |
|       | 数 寄 孝   | (歯8・茨城県)  |          |
|       | 塩 山 司   | (歯8・岩手県)  | 学術研修部副部長 |
|       | 中 谷 敏 恭 | (歯8・神奈川県) |          |
|       | 柳 治 夫   | (歯8・兵庫県)  | 渉外部副部長   |
|       | 五月女 大 介 | (歯9・栃木県)  | 学術研修部副部長 |
|       | 吉 村 宅 弘 | (歯12・愛 岐) |          |
|       | 兎 玉 厚 三 | (歯14・岩手県) | 渉外部副部長   |
|       | 平 尾 慶 太 | (歯14・広島県) |          |
|       | 斎 藤 正 人 | (歯16・群馬県) |          |
|       | 千 田 弥栄子 | (歯22・学 内) |          |
| 監 事   | 佐々木 寛 成 | (歯25・宮城県) |          |
|       | 岡 田 伸 男 | (歯28・学 内) |          |
|       | 猪苗代 盛 昭 | (歯1・宮城県)  |          |
|       | 長 門 孝 次 | (歯6・大阪府)  |          |
|       | 箱 崎 守 男 | (歯1・岩手県)  |          |
| 相 談 役 | 菅 原 教 修 | (歯1・岩手県)  |          |
|       | 藤 田 達 夫 | (歯1・埼玉県)  |          |

## 学 術 研 修 部 員 名 簿

|  |   |
|--|---|
| <p>部 長 6 中野 廣一 開業</p> <p>副部長 8 塩山 司 友愛病院</p> <p>9 五月女大介 開業</p> <p>10 南館 祐二 開業</p> <p>17 八木 正篤 口腔外科学講座<br/>顎口腔外科学分野</p> <p>相談役 1 三條 勲 開業</p> <p>2 米内 正 開業</p> <p>4 三浦 廣行 口腔保健育成学講座<br/>歯科矯正学分野</p> <p>5 水城 春美 口腔外科学講座<br/>顎口腔外科学分野</p> <p>6 武田 泰典 病理学講座<br/>病態解析学分野</p> <p>7 城 茂治 口腔外科学講座<br/>歯科麻酔学分野</p> <p>8 小豆嶋正典 総合歯科学講座<br/>歯科放射線学分野</p> <p>部 員 7 大林勢津子 開業</p> <p>14 児玉 厚三 開業</p> <p>15 小山田勇樹 開業</p> <p>16 遠藤 義樹 開業</p> <p>16 岡口 守雄 開業</p> <p>16 高瀬 真二 開業</p> <p>16 高橋 秀典 開業</p> | <p>部 員 17 川嶋 敏宏 勤務</p> <p>19 東海林 理 総合歯科学講座<br/>歯科放射線学分野</p> <p>19 間山 寿代 口腔保健育成学講座<br/>歯科矯正学分野</p> <p>20 大平 明範 雄勝中央病院</p> <p>20 黒澤 正雄 開業</p> <p>20 梶村 幸市 開業</p> <p>21 平川 英司 開業</p> <p>21 古町 瑞郎 開業</p> <p>22 白倉 義之 開業</p> <p>22 千田弥栄子 総合歯科学講座<br/>総合歯科教育学分野</p> <p>22 松浦 政彦 開業</p> <p>24 菊池 和子 総合歯科学講座<br/>障害者歯科学分野</p> <p>25 金村 清孝 歯科補綴学講座<br/>冠橋義歯補綴学分野</p> <p>30 小林 琢也 歯科補綴学講座<br/>有床義歯補綴学分野</p> <p>33 佐々木大輔 口腔機能保存学講座<br/>歯周病学分野</p> <p>34 阿部 亮輔 口腔外科学講座<br/>顎口腔外科学分野</p> |
|--|---|

## 広 報 部 員 名 簿

|   |
|---|
| <p>部 長 15 三 善 潤 開 業</p> <p>副部長 22 坂 本 望 口腔外科学講座 歯科麻酔学分野</p> <p>部 員 24 熊 谷 哲 也 開 業</p> <p>24 西 郷 史 郎 開 業</p> <p>25 浅 野 明 子 総合歯科学講座 総合歯科教育学・保存修復学分野</p> <p>25 金 村 清 孝 歯科補綴学講座 冠橋義歯補綴学分野</p> <p>27 南 健太郎 口腔保健育成学講座 口腔保健学分野</p> <p>29 山 田 ありさ 薬理学講座 病態制御学分野</p> <p>30 松 嶋 拓 開 業</p> |
|---|

# お知らせ

## 第41学術研修会

日時 平成23年11月20日(日) 9:50~15:00  
場所 岩手県歯科医師会館8020プラザ  
参加費 歯科医師 8,000円  
学内歯科医師 5,000円  
コデンタルスタッフ(歯科医師除く) 2,000円  
※いずれも昼食代含む

講師 柏田 聡明 先生 (東京医科歯科大学歯学部臨床教授)  
演題 「咬合崩壊を防ぐための補綴修復治療  
—超高齢社会で求められるパラダイムシフト—」

ランチョンセミナー  
講師 青村 知幸 先生  
(岩手医科大学歯学部口腔外科学講座顎口腔外科学分野助教)  
演題 「開口障害に対する考え方と対処法」

## 会員訃報 (卒業期順・平成22年8月31日以降)

|                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 大屋 高德 先生 (2期) (平成22年12月3日逝去)  | 田畑 堅司 先生 (9期) (平成23年4月19日逝去)   |
| 村上 德行 先生 (2期) (平成23年3月11日逝去)  | 佐伯 厚夫 先生 (10期) (平成23年3月11日逝去)  |
| 藤田 充司 先生 (4期) (平成23年1月12日逝去)  | 塩路 浩也 先生 (24期) (平成23年7月8日逝去)   |
| 守谷 友一 先生 (5期) (平成22年12月10日逝去) | 高間木祐一 先生 (24期) (平成23年3月11日逝去)  |
| 有馬 英夫 先生 (6期) (平成22年9月26日逝去)  | 後藤 綾子 先生 (30期) (平成22年11月30日逝去) |
| 黒沢 恒平 先生 (6期) (平成23年3月11日逝去)  |                                |

謹んで心よりお悔やみ申し上げます。

# 編集後記

このたびの東日本大震災において、お亡くなりになられた会員の先生、会員のご家族、ご親戚の方々に、衷心よりお悔やみ申し上げます。また、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、広報第26号発行にあたり、お忙しいところご寄稿くださいました全ての方々に感謝申し上げます。

今年は歯学部同窓会40周年という節目でもあり、明るい話題を提供しようと考えていた矢先の震災でした。震災直後から、「被災会員の安否確認」を執行部や事務局を中心として進めました。皆様から多くの情報提供を賜り、まことにありがとうございます。

広報部では、インターネット環境が日常生活には欠かせない情報手段となっていることから、昨年より「岩手医科大学歯学部同窓会ホームページ(H.P)」の立ち上げ準備を進め、本年1月公開にこぎ着けました。そしてこのH.Pが、震災による被災会員の安否情報の共有という点で、いち早くその力を発揮することになりました。

本同窓会は、40歳もの年齢差のある3,258名に上る大所帯となりました。それぞれの会員の先生方にとって、ともに有益となるための広報活動はどうあるべきか、模索しております。

今後とも、ご指導とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

広報部長 15期 三善 潤

## 岩手医科大学歯学部同窓会事務局連絡先

〒020-8505 岩手県盛岡市中央通1-3-27  
岩手医科大学内(循環器センター10階)  
TEL: 019-651-5111 (内7004) FAX: 019-624-8380  
E-mail: info@keiryokai.gr.jp

印刷所: 河北印刷(株)



心はひとつ。



## 地域の医療をサポートしたい。

北日本銀行は、地域医療発展のお役に立てるよう、

医療分野の支援に積極的に取り組んでいます。

北日本銀行では「メディカル・ケアチーム」を中心に、医療・介護事業者様へのコンサルティング及びファイナンスを実施しています。

新規開業、病医院の建替え・増改築、介護事業の立上げ、事業承継、(特定・社会)医療法人化、医師や看護師の紹介等、お気軽にご相談下さい。



**北日本銀行**

営業統括部 地域事業支援室

メディカル・ケアチーム

TEL.(019)653-1111(代表)

この度の東日本大震災により、多くの方の尊い命が失われたことに、  
深い哀悼の意を捧げます。

また、被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げますと共に、  
皆様の安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

弊社では、被災地においても健康を支える医療のために、適正かつ  
迅速な廃棄物の回収対応で復興支援に継続的に携わって参ります。

負けるな、日本！ がんばろう、岩手！

**貴**金属含有物の分析・買取

**医**療廃棄物収集運搬

レントゲンフィルム処分

電子マニフェストを活用した  
環境ガードシステムで  
廃棄物処理の更なる透明性を。

**機**密書類リサイクル

パソコン完全リサイクル

**蛍**光管の販売・賃貸・処分

**電**子マニフェスト運用

多様な環境対策にお応えします。  
ぜひ、ご相談ください。



**NIKKO** ニッコー・フアインケイ株式会社



わたしたちは「医療を支える廃棄物回収」で復興を支援します。

〒029-1111 岩手県一関市千厩町奥玉字天ヶ森 75-6 ☎:0191-56-2601 FAX:0191-56-2619

産業廃棄物運搬業・特別管理産業廃棄物運搬業・産業廃棄物処理業・特別管理産業廃棄物処理業・一般廃棄物運搬業  
一般貨物自動車運送事業 ISO14001認定取得 / 岩手県基準適合産業廃棄物処理業者認定 / いわて地球環境にやさしい事業所



URL <http://www.nikkofm.co.jp>



Thinking ahead. Focused on life.

# Soaric

人を大切にしたデザインとテクノロジーから生まれました

## The New PdW Style

直感的で自然な動作での診療を可能にする、先進のトレーシステム。  
ユニットへの組み込みが可能な、マイクロスコープと根管長測定機器。  
小型ボディに根管治療機能が搭載された、新開発マイクロモーター。  
そのディテールに至るまで一貫して表現された、洗練のデザイン。

# Debut

発売

株式会社 **モリタ**

大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18  
〒564-8650 TEL 06-6380-2525  
東京本社 東京都台東区上野2-11-15  
〒110-8513 TEL 03-3834-6161

製造販売・製造

株式会社 **モリタ製作所**

本社工場 京都府京都市伏見区東浜町680  
〒612-8533 TEL 075-611-2141  
久御山工場 京都府久世郡久御山町大字市田小学新珠城190  
〒613-0022 TEL 0774-43-7594

販売名: ソアリック

一般的名称: 歯科用ユニット

機器の分類: 管理医療機器(クラスII)

特定保守管理医療機器

医療機器認証番号: 222ACBZX00016000

[www.dental-plaza.com](http://www.dental-plaza.com)

～心ひとつに～  
がんばろう、岩手！がんばろう、東北！

ご  
一  
緒  
に。



福  
と  
徳  
を、

145th  
Anniversary  
KAWA  
TO  
KU  
川徳 盛岡市栗園1丁目9番1号  
電話019653-1111代20

ALways Security OK


 **ALSOK**

セキュリティはアルソック



**ALSOK岩手株式会社**

盛岡市津志田西一丁目24番15号  
019-631-3111

 0120-30-5915

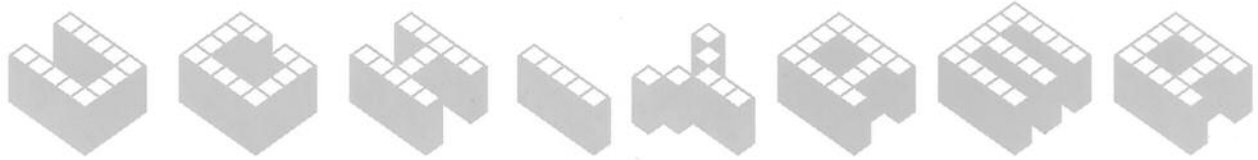
<http://www.alsok-iwate.co.jp>

【支社】盛岡中央、北上、奥州、一関

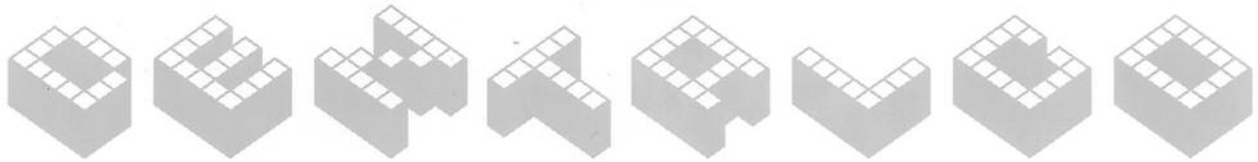
【支店】盛岡北、盛岡南、二戸、宮古

【営業所】花巻、久慈、釜石、大船渡

【セキュリティショップ】盛岡市大通

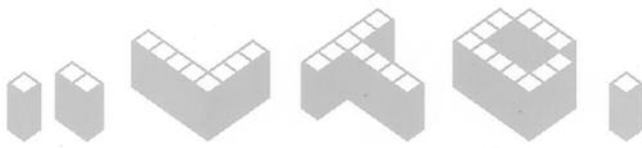


[www.uchiyama-dental.jp](http://www.uchiyama-dental.jp)



ワタシたちの ヒトノムスビツキヲ ダイジニシテイマス■

(p<sup>^</sup>-<sup>^</sup>)人(<sup>^</sup>-<sup>^</sup>q)



歯科医療の  
未来をつくる

株式会社 **ウチヤマ**

本 社 / 〒980-0013 仙台市青葉区花京院一丁目4番8号  
TEL:022(262)6210(代) FAX:022(262)6207  
盛岡営業所 / 〒020-0864 盛岡市西仙北一丁目2番18号  
TEL:019(635)7750(代) FAX:019(635)7709

お客様に夢と健康をお届けします



株式会社 岩手ホテル&リゾート  
|  盛岡グランドホテル 安比高原



## すべては徒歩圏内に 絶好のロケーション

JR 盛岡駅に直結のホテルメトロポリタン盛岡 本館  
ワンランク上のサービスを提供する NEW WING

2つのホテルを拠点に盛岡駅周辺には大型コンベンションを  
開催できる環境が整っています。市内では最大の1500名を  
収容可能なコンベンションホールを有するマリオスや500名の  
会議が可能なアイーナもホテルから徒歩での移動が可能です。



私たちはホテルならではのおもてなしで  
大切なお客様をお迎えいたします



〈本館〉

盛岡駅北口より徒歩1分  
客室 190 室 / 駐車場 530 台

〈NEW WING〉

盛岡駅北口より徒歩3分  
客室 121 室 / 駐車場 100 台



**ホテルメトロポリタン盛岡**

TEL : 019-625-1211 (大代表)  
<http://www.metro-morioka.co.jp>

本館 / 盛岡市盛岡駅前通 1-44  
NEW WING / 盛岡市盛岡駅前北通 2-27



*We try best!*  
*For healthy and white teeth*



株式会社 **岩瀬歯科商会**

〒110-0016 東京都台東区台東 2-23-7

宇都宮支店 水戸支店 野木支店 前橋支店 福島支店 上野支店 松戸支店 千葉支店 世田谷支店 横浜支店 大宮支店 東大和支店

盛岡営業所

〒020-0125 盛岡市上堂 1-6-5

TEL 019 (648) 2777 Fax 019 (648) 2778

# 豊かさと調和

明るい歯科医療環境づくりの  
お役に立ちます。

歯科医療機器材総合商社 ササキ株式会社



<http://www.sasaki-kk.co.jp>

盛岡支店 〒020-0851 盛岡市向中野字八日市場3-3 ☎(019)636-2800 FAX(019)636-2801

盛岡秋田店 〒010-0944 秋田市川尻若葉町4-37 ☎(018)862-0608 FAX(018)823-0933

本社 〒440-8518 豊橋市八町通5-7 ☎(0532)55-6811 FAX(0532)55-5658

〈支店・営業所〉札幌、旭川、青森、八戸、函館、盛岡、秋田、仙台、郡山、山形、新潟、長岡、東京、本郷、池袋、東京北、柏、埼玉、千葉、八王子、川崎、横浜、厚木、甲府、松本、長野、沼津、静岡、浜松、豊橋、岡崎、名古屋、名古屋駅前、名古屋南、一宮、岐阜、津、四日市、大阪、高槻、堺、神戸、姫路、福岡、鹿児島、熊本



OLD & NEW

## 創業85年の「歴史と実績」

そして次世をみつめて…

後藤歯科商店は、歯科材料・器械器具の販売に加え、最も大事なアフターケアにおいても、様々な場面でお客様のサポートをさせて頂いております。

今後も、よりいっそうお客様の立場に立ったハートフルな対応で、ご満足いただける商品とサービスの提供に努めてまいります。



株式会社 後藤歯科商店

|       |                 |                  |
|-------|-----------------|------------------|
| 本社/本店 | 福島市中町7-1        | TEL 024-522-2755 |
| 盛岡店   | 盛岡市月ヶ丘1丁目26-57  | TEL 019-648-0811 |
| 横手店   | 横手市婦気大堤字谷地添99-2 | TEL 0182-33-4242 |
| 山形店   | 山形市江南1丁目11-26   | TEL 023-684-9236 |
| 秋田店   | 秋田市植山城南新町3-13   | TEL 018-834-7882 |

お客様専用ダイヤル TEL 0120-510432 FAX 0120-224432





SPICA 26P

印刷技術の粋を集めて  
あらゆるユーザーニーズにお応えします

いいものを創りたい  
それが私たちの願いです。



河北印刷 株式会社  
KAHOKU PRINTING

〒020-0015 盛岡市本町通2丁目8-7 ☎(019)623-4256(代) FAX(019)623-0976  
E-mail / office@kahoku-ipm.jp

醫藥